

子どもの権利 × かわさきの未来 プロジェクト

報告書



子どもの権利 × かわさきの未来 プロジェクト 報告書

エンパワメントかながわでは、公益財団法人トヨタ財団
2019年度国内助成「しらべる助成」を受け、2020年
4月から2021年3月まで、「子どもの権利×かわさき
の未来プロジェクト」を実施しました。
ここに、本プロジェクトの実施結果を報告します。

トヨタ財団しらべる助成「子どもの権利×かわさきの未来プロジェクト」
子どもの権利をキーワードに、学校、家庭、地域が世代を超えて繋がるコミュニティを
「かわさき＊」で実現する。

＊ここでは、川崎市川崎区を「かわさき」と表現する。

<目 次>

I. プロジェクトの目的と実施報告

<1> 経緯と目的

- 1. 実現したいコミュニティの姿 ————— P1
- 2. なぜ「かわさき」なのか? ————— P1
- 3. 今回の調査の目標 ————— P2

<2> 実施報告 ————— P3~6

II. 調査報告

<1> 調査の概要 ————— P7

<2> 調査結果

1. 保護者 (川崎区内)

- ①回答者の属性 1. あなたについて ————— P8
- ②事前 2. CAP プログラムについて 3. 子どもの権利について ————— P9~10
- ③事後 1. ワークショップを受けてみて ————— P11~14
- ④前後比較 子どもの権利と子どもへの暴力について ————— P15~18
(イメージとおとなとしてできることの変化)

2. 教職員 (川崎区内)

- ①回答者の属性 1. あなたについて ————— P19
- ②事前 2. CAP プログラムについて、3. 子どもの権利について ————— P20~21
- ③事後 1. ワークショップを受けてみて ————— P22~26
- ④前後比較 子どもの権利と子どもへの暴力について ————— P27~28
(イメージとおとなとしてできることの変化)

<3> 考察

- 1. 保護者の結果より ————— P29~33
- 2. 教職員の結果より ————— P34~38

III. いのちキャンペーン実施報告

実施報告 ————— P39~50

グラフィックレコーディング ————— P51~53

IV. まとめ ————— P54~56

V. 参考資料 (調査票)

- ①調査票〈保護者〉事前・事後 ————— P57~62
- ②調査票〈教職員〉事前・事後 ————— P63~66
- ③調査票〈地域のおとな〉事前・事後 ————— P67~71
- ④公開講座チラシ ————— P72~74
- ⑤いのちのキャンペーンチラシ ————— P75~76

1. プロジェクトの目的と実施報告

〈1〉経緯と目的

1. 実現したいコミュニティの姿

「子どもの権利 x かわさきの未来プロジェクト」が実現したいコミュニティとは、「子どもの権利をキーワードに、学校、家庭、地域が世代を超えて繋がるコミュニティ」です。

それを、川崎市川崎区（以下、「かわさき」）で実現したいと考えました。



地域のおとなが繋がり、子どもの権利を守ることで、DV や虐待、いじめの連鎖が断ち切られている状態を創り出す。子どもたちに、暴力を受けずに生きていく権利があること、そして、困った時には信頼できる身近なおとなに相談して助けてもらっていいことを伝え続けていく。子どもの権利を理解し、子どもたちが困った時に寄り添うことができるおとなを地域に増やし続ける。子どもの権利を守ることができるおとなが世代を超えてつながり続ける。

2. なぜ「かわさき」なのか？

2015年2月、川崎の多摩川の河川敷で悲しい事件が起こりました。上村遼太君が壮絶な暴力を受けた上、命を絶たれたのです。その背景には、彼が住んでいた川崎市川崎区の抱えるDVや虐待、貧困の連鎖、そして多国籍の問題がありました。

一方、川崎市は日本で最初に「子どもの権利条例」を制定し、子どもの権利保障のための事業を推進してきている点で画期的な自治体です。同時に、制定後20年を迎えるにも関わらずその認知度が未だに子どもで49%、おとなで38%（第6回「川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査」2018年3月）と低迷していることが課題です。

また、この条例に基づき2001年より「子どもの権利学習事業」としてのCAP（子どもへの暴力防止）プログラムを実施してきましたが、おとな（教職員・保護者・地域のおとな）対象のワークショップの参加者が減少していることも課題です。

子どもの権利を守るためには、子ども自身が権利を学ぶことと同時に、周囲のおとなが「自分は子どもを守ることが出来る」と認識を持つことが重要です。しかし、この認識を持つ地域のおとなが少なく、具体的な知識・スキルを学べるCAPプログラムへの参加が減少しているのではないかと考えられます。また、おとな対象のワークショップでは、虐待の早期発見と対応、不審者から子どもを守る方策などを伝えるため、教職員や保護者だけでなく地域の様々な立場のおとなが参加することで、子どもを守る地域のセーフティネットの構築が期待されますが、放課後指導員や川崎市固有の地域教育会議などに対し、周知や活用がされていない状況があります。

CAP プログラムは、日本で 500 万人以上に届けられてきましたが、現在実施数が減少しています。その理由として、CAP プログラムを防犯対策として導入した行政が多く、権利教育としての効果を測り周知してこなかったことが考えられます。権利教育として CAP プログラムを実施してきた川崎市だからこそ、その効果を確認することが必要だと考えました。

特に、「かわさき」を選択した理由として、以下の 2 点が挙げられます。

①調査後、結果を効果的に活用して課題解決を促進することが出来る土壌がある。つまり、川崎市には元々地元愛が強い風土があり、特に、川崎大師を中心とした川崎区は昔ながらの地縁があり、高齢者が子どもたちを守ろうという意識が強くあります。こうした土壌がある地域であることから、調査後にプログラムを効果的に導入することで、子どもの権利保障に寄与し、子どもに関する様々な課題を解決することに繋がると考えています。

②調査結果を他地域に転用可能である。川崎区は、昔ながらの地縁がある地域である一方、外国人居住者、生活保護世帯層、また高層マンションに転入した若い世帯層など、地域（特に福祉）と繋がることが難しい人びとも多く居住しています。このような都市部の地域に多く見られる特徴を有している川崎区の調査結果は、類似するプロファイルをもつ都市部の他地域にも転用可能であると考え、川崎区で実施することとしました。

3. 今回の調査の目標

<地域のおとな現状調査>

川崎市川崎区を対象に、子どもの権利を中心に地域のつながりを再生するために、子どもの権利や子どもへの暴力についての関心の低さの背景にある要因を明らかにすることを目標にしました。

発信が足りないのか、発信の方法が受け取り手にとって適切でないのか、あるいは受け取り手が知りたくない、生活することで精いっぱいなどの状況があるのかなどの理由を探ります。

調査結果を活かし、子どもの権利についてのおとなの関心を高め、子どもの権利を保障し、暴力防止のために協力しあう体制を構築し、さらには、子どもの権利を伝える担い手を発掘していきたいと考えました。

〈2〉実施報告

【2020年3月】プロジェクトチーム結成

- ・ソーシャル・バリュー・ジャパン事務局長伊藤枝里子氏、早稲田大学教授棟居徳子氏を招き、8名のプロジェクトチームを結成しました。
- ・本プロジェクトの大きな目的は「子どもの権利教育が暴力防止につながること」ですが、今年度は、まず「なぜおとなの関心が低いのか」、その要因を探るための調査を実施することに重点を置くことにしました。
- ・川崎市教育委員会を訪問し、本プロジェクトの説明を行ったが、学校ではアンケート調査への反応が大きく、保護者や教職員全体にアンケートを配布することは難しい、ワークショップ参加者以外には実施できないとの回答を得ました。

【2020年4月】CAP おとなワークショップを振り返る

- ・調査プロセスについて確認したうえで、CAP おとなワークショップのこれまでの実績を調べることとしました。
- ・川崎市内のCAP おとなワークショップの実績を2014年度以降洗い出したところ、小学校96件、中学校22件のデータがあり、参加人数の減少、および開催方法が学校主導型とPTA主導型の2つの違いが浮かび上がりました。同時に、PTA活動がこの10年間で変化があったことを確認しました。
- ・CAP おとなワークショップで当団体が伝えていることについて、子どもへの暴力を発見した時の地域連携や親が暴力を振るわないための方策ではなく、子どもの話を聴くことの大切さ、子どもの人権を子どももおとなも共通認識することであることを確認しました。

【2020年5月】CAP スペシャリストが話し合う

- ・地域教育会議、寺子屋、子ども会議など川崎市で30年来活動されてきた宮越隆夫氏とZOOMで面談し、コロナ禍で地域活動がすべて停止していることを伺いました。
- ・調査対象のカテゴリを、保護者・教職員・地域のおとなの3つに分けることに決めました。
- ・調査対象ごとに聞きたいことを考えるために、CAP スペシャリストの話し合いを設けました。話し合いからは、CAP スペシャリストが実感しているCAPプログラムの良さが、CAP スペシャリスト以外の人にわかりにくいものであることを改めて実感しました。表現することが難しいからこそ、普及しにくい現状があることを確認しました。また、集客の難しさと担当教諭にやらされ感があること、暴力とコロナの類似性（不安を呼び起こす）などが出てきました。

【2020年6月】調査票作成開始

- ・調査票たたき台を作成し、プロジェクトチームで確認しました。枠組みとしてワークショップの事前・事後に同じ人に答えてもらうよう通し番号を付けること、同意をあらかじめ取ることを確認しました。
- ・調査の目的を改めて検討しました。本調査の目的は、おとなが子どもへの権利について関心が低い要因を明らかにすることですが、団体としてはCAPを多くのおとなに知ってもらうことで、一人でも多くの子どものCAPを届けたいという思いが根底にあること、そして1年目の結果を2年目に反映していきたい、そのためにはプログラムの効果を見せることが必要であるということを話し合いました。

- ・ワークショップに参加しない要因の中に、その内容や効果がわからないということが考えられます。この点、おとなは、子どもの権利だけでなく、子どもへの暴力についても知らない（暴力は殴る・蹴るだけだと思っている人が多い）という仮説を立てました。そして、ワークショップの効果の一つとして、おとなが子どもへの暴力について知ることが挙げられると考えました。また、子どもへの暴力についての危機感がないという仮説も立てました（子どもが被害者や加害者になると思っているかどうか）。
- ・CAPプログラムは子どものためだけでなく、地域のおとなをつなげるツールでもあり、子どもの権利を中心に地域のつながりを再生するのがプロジェクトのゴールであると考えています。CAPによって、繋がろうと思えるようになることが必要であり、その土壌となる設問が必要だと話し合いました。

【2020年7月】 予備調査（ヒアリング）の実施

- ・調査票が答えやすいかどうかを確認するための予備調査（ヒアリング）を各調査対象者に行うことになり、保護者1名、教職員2名へのヒアリングを行いました。
- ・教職員からは、クラス懇談会でさえ参加者が2~3名と非常に少ない現状があるということを知りました。
- ・プロジェクトチームでは、調査のお願い文に入れる調査の目的を再度検討し、下記としました。「このアンケートは、CAP おとなプログラムの効果を測定し、プログラムへの参加促進の方法を明らかにするための調査です」
- ・子どもの権利保障のために、既存の資源やシステムは十分にあるのに、子どもの権利が守られていないのは、予防(CAP)と救済(地域で子どものために活動するおとな)が繋がっていないのではないかと。当団体が考える「子どもへの暴力」は広すぎるのではないかと。調査結果を活用して、PTAを巻き込んでいくと効果的ではないかということについて話し合いました。
- ・今後の調査スケジュールを確認し、川崎区内中学校1校、小学校3校、他に公開講座3回を調査対象とすることとしましたが、比較のため可能であれば、川崎区以外の小中学校でも調査を実施することとしました。

【2020年8月】 教職員向け調査実施

- ・川崎区内1校、川崎区外1校の中学校で教職員ワークショップがあり、調査を実施しました。

【2020年9月】 教職員向け調査集計からの気づき報告

- ・プロジェクトチームにて、集計担当者からの気づきが以下のように報告されました。
 1. 設問の指示に従っていない回答が多い。選択肢が頁をまたいで続いていることもあって、回答者からすると設問指示が分かりづらかったのではないかと。⇒修正する。
 2. 全体的に満足度が非常に高い印象だった。事後アンケートの集計を通して、「あまり満足していない」「満足していない」という回答が1つもなかった。
 3. 教員がCAPプログラムに求めていることと、CAPプログラムが実際に提供することの間に、若干のずれが生じている。少なからぬ教員がCAPプログラムに子どものいじめを防ぐための方策を期待しているのに対し、CAPプログラムは暴力防止や人権の啓発といった点に重点を置いているということ。もちろん、それが決して悪い方向には働いていないということは、プログラムの満足度の高さからうかがえる。さらにプログラムを発展させていくためには、このずれを修正していくことが必要なのではないかと。

【2020年10月】 保護者向け調査実施

- ・川崎区内1校の小学校（対面でのワークショップ）、川崎区外2校の小学校（1校が対面、1校がオンラインでのワークショップ）にて、調査を実施しました。
- ・11月に下記の連続公開講座を企画し、HP、SNSでの告知の他、チラシを作成し、メルマガでも告知を行いました。
 - 11月7日すきっぷ（子どもの護身法）講座（親子対象）
 - 11月10日放課後支援員等子どもに関わるスタッフ向けオンライン研修
 - 11月19日保護者や地域のおとな対象CAP公開講座
- ・川崎市の放課後支援員の活動を取りまとめている青少年事業課の課長と電話で話しました。過去に市内小学校で校長も務められ、CAPについて十分にご理解いただいていることがわかりました。放課後支援員について、現在対面での研修は難しいということでしたので、オンラインでの研修を企画し、市内の放課後支援員に青少年事業課より告知をしていただくこととしました。
- ・川崎市教育文化会館で開催された川崎区地域教育会議にてプレゼンの機会をいただき、本取組の紹介と11月の公開講座への参加をお願いしました。

【2020年11月】 公開講座を開催するも、コロナ感染拡大で集客ならず

- ・川崎区内1校の小学校にて保護者向けおよび教職員向け実施（オンライン）。
- ・11月7日すきっぷ（子どもの護身法）講座（親子対象）を実施し、5組10名が参加しました。
- ・11月10日放課後支援員等子どもに関わるスタッフ向けオンライン研修を開催し、11名が参加したが川崎市内からの参加はありませんでした。
- ・11月19日保護者や地域のおとな対象CAP公開講座を開催し、地域のおとなとして2名が参加しました。

【2020年12月】 川崎区内での縁をつなげる

- ・川崎区内1校の小学校にて保護者向け実施（対面）。
- ・川崎市教育文化会館で開催された川崎区保護者向け思春期講座に登壇し、CAPやデートDVのワークショップについて講演したところ、複数の参加者から、自分の子どもの小中学校で実施してもらえよう働きかけてみるという声をいただきました。
- ・川崎市教育文化会館職員の紹介で、近くの旭町子ども文化センターの学習支援川崎教室を訪問。小中学生に学習支援をしている大学生にCAPおとなワークショップを実施させてもらえないかを打診したが、コロナの影響で難しいとのことでした。

【2021年1月】 いのちキャンペーンの企画

- ・川崎市内で学習支援を繰り広げる認定NPO法人教育活動総合サポートセンターを訪問し、子どもたちに学習支援を行う学生への研修に、CAPおとなワークショップを実施させてもらえないかを打診しましたが、やはりコロナの影響で今は難しいとのことでした。
- ・上村遼太君の事件以降毎年2月に実施してきたいのちキャンペーンを2月14日に開催し、そこでこの調査結果の報告を行うこと、また、川崎市内で子ども支援に関わる各方面の専門家に登壇いただき、シンポジウムを行うことを決め、準備と広報を始めました。

【2021年2月】いのちキャンペーン開催

- ・イベント「いのちキャンペーン 2021」に川崎市教育委員会の後援をもらうことができたため、イベントの告知と裏には川崎市子どもの権利条例とCAPの説明を入れたチラシを18000部作成。川崎区内の全小中学生の家庭に配付しました。
- ・2月14日川崎市教育文化会館にて、イベントを開催し、一般向けにはオンラインで配信したところ、川崎区内の保護者らはもちろん全国から63名が参加しました。
- ・いのちキャンペーンとして川崎市内で実施してきた中学生暴力防止プロジェクトについて説明し、CAPおとなワークショップの意義とCAPを受講した子どもたちの声を紹介しました。本プロジェクトで実施した調査結果を報告しました。
- ・パネリストに、認定NPO法人フリースペースたまりば理事長西野博之氏、川崎区地域教育会議議長宮越隆夫氏、川崎市ふれあい館副館長鈴木健氏、弁護士圓谷貴氏、川崎市教育委員会大野恵美氏を迎え、「今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないためにできること」と題し、シンポジウムを開催しました。
- ・シンポジウムの様子は、グラフィックレコーディングで記録しました。

II. 調査報告

〈1〉 調査の概要

本調査は、CAP おとなワークショップの効果を測定し、ワークショップへの参加促進の方法を明らかにするための調査です。

CAP おとなワークショップでは、子どもの権利の大切さを伝え、子どもを暴力から守るために、保護者や教職員などおとなとして何ができるかを伝えています。川崎市内では教育委員会事業として20年間継続してきていますが、その参加者が減少していることが課題となっています。その背景には、子どもの権利や子どもへの暴力についての関心が低いことが考えられます。そこで、本調査では、子どもの権利、子どもへの暴力、川崎市子どもの権利条例の認知度、子どもへの暴力についての危機意識や子どもを暴力から守るための方策について、さらにはCAP おとなワークショップの効果を明らかにすることを目的に実施しました。

CAP おとなワークショップの参加者を、①保護者（定義＝現在川崎市内の小中学生と暮らす保護者）、②教職員（定義＝川崎市内の小中学校に勤務する人）、③地域のおとな（定義＝川崎市に住んでいる、かつ、現在、川崎市の小中学生の保護者でない、かつ、現在、川崎市の小中学校の教職員でない人）の3つのカテゴリに分け、ワークショップの事前と事後に回答してもらう調査票を作成しました。

本プロジェクトは、川崎市川崎区内の状況を把握することを目的としていますが、2020年夏の時点で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、川崎区内でどこまで調査が可能であるかが不明であったため、調査の有効性を確保するため対象を広げ、川崎区外の川崎市内の小中学校でもアンケート調査することとしました。また、地域のおとなの調査を行うため、公開講座を2回企画しました。結果、下記のCAP おとなワークショップにおいて回答が得られました。

<保護者>

川崎区内小学校 3校（うち1校はオンラインでのワークショップ実施）27名が回答

川崎区外小学校 2校（うち1校はオンラインでのワークショップ実施）21名が回答

<教職員>

川崎区内小学校 1校（オンラインでのワークショップ実施）2名が回答

川崎区内中学校 1校 14名が回答

川崎区外中学校 1校 16名が回答

<地域のおとな>

公開講座 2回（うち1回はオンラインでの実施だったが、川崎市内の参加者はなかった）2名が回答

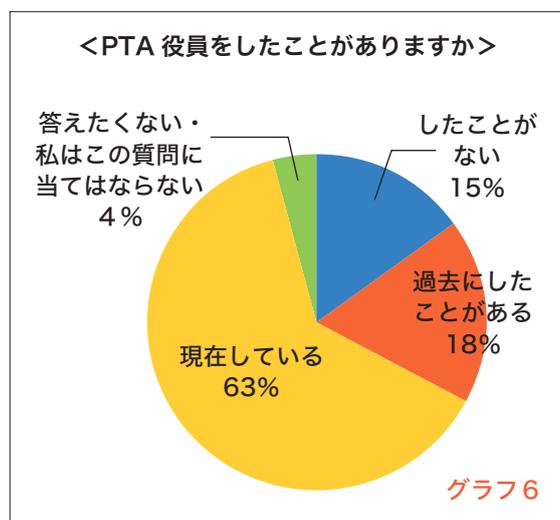
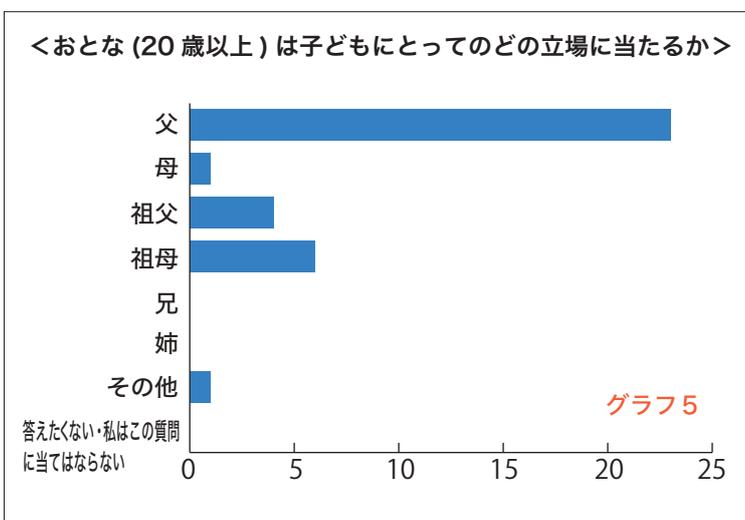
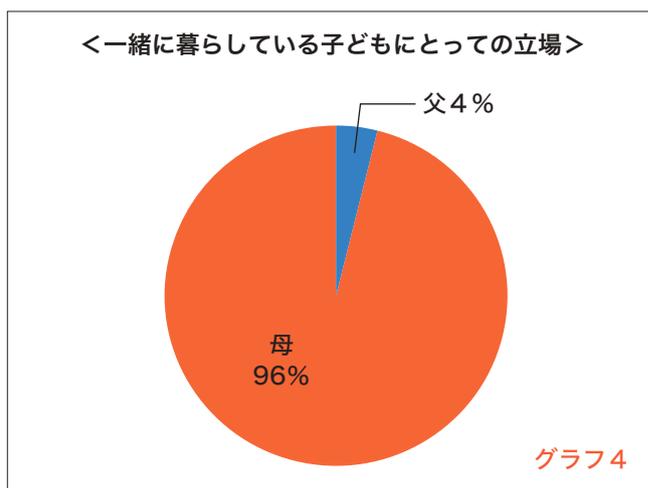
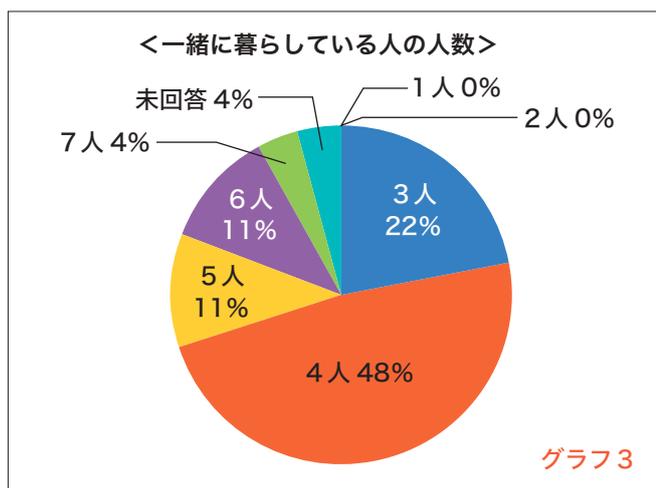
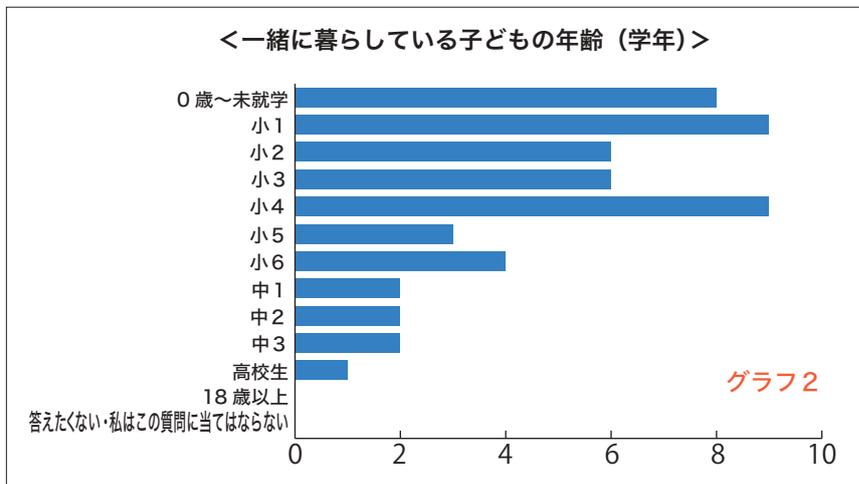
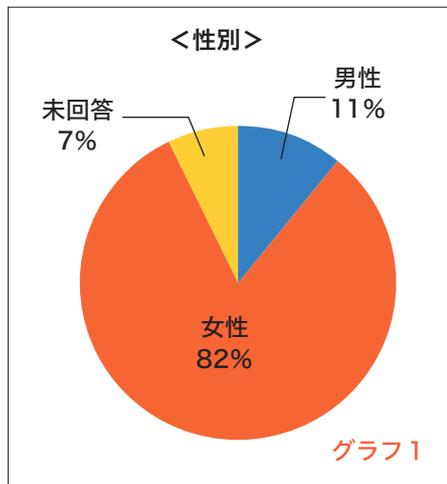
※回答数が著しく少ないため、地域のおとなの回答結果を集計分析することは断念しました。

次項以降の調査結果は、川崎区内の保護者および教職員の回答を集計したものです。

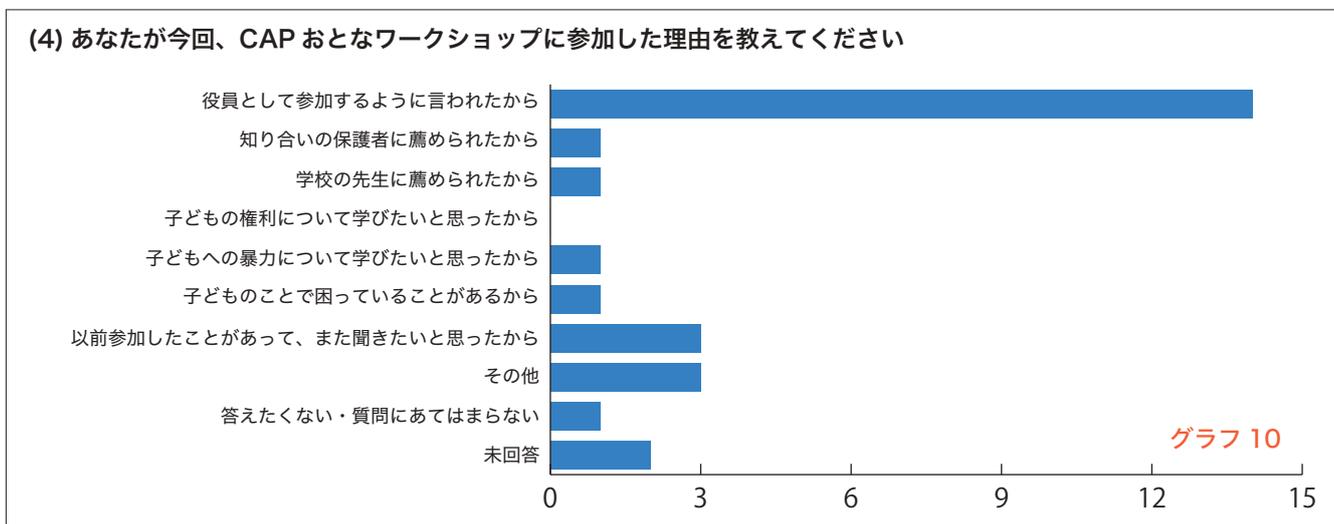
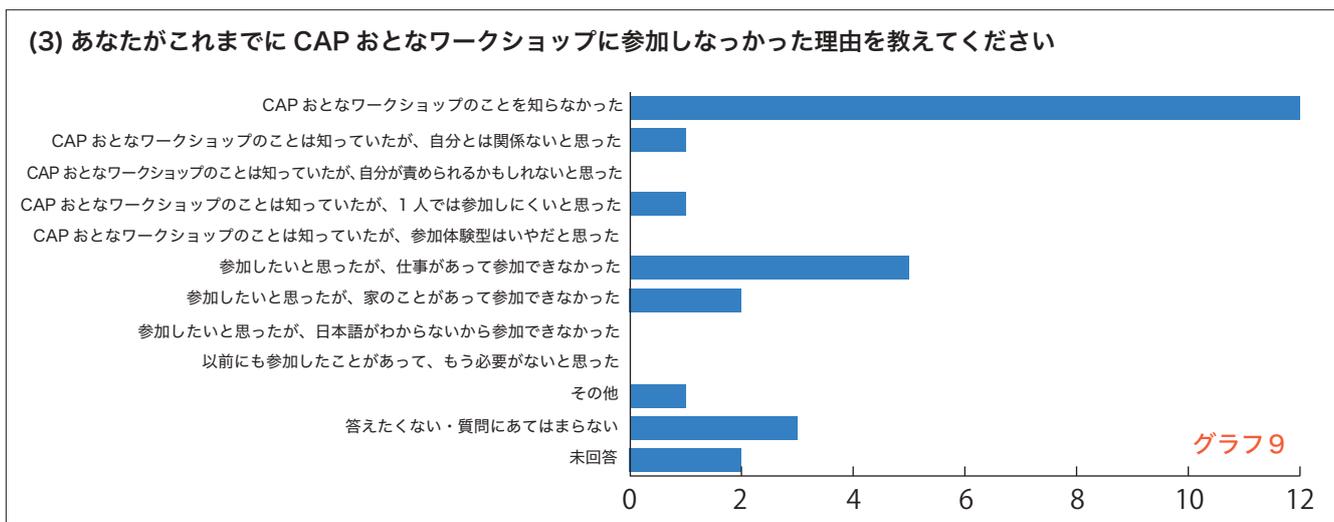
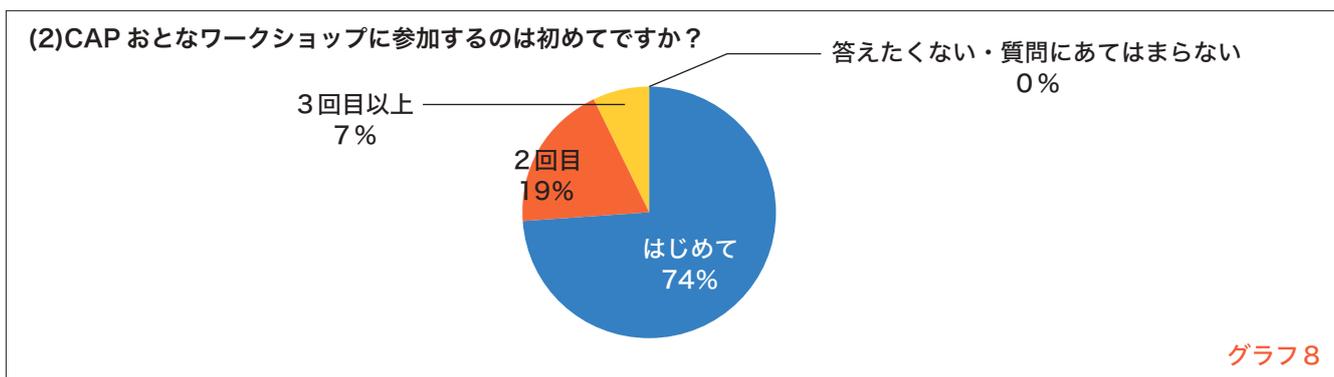
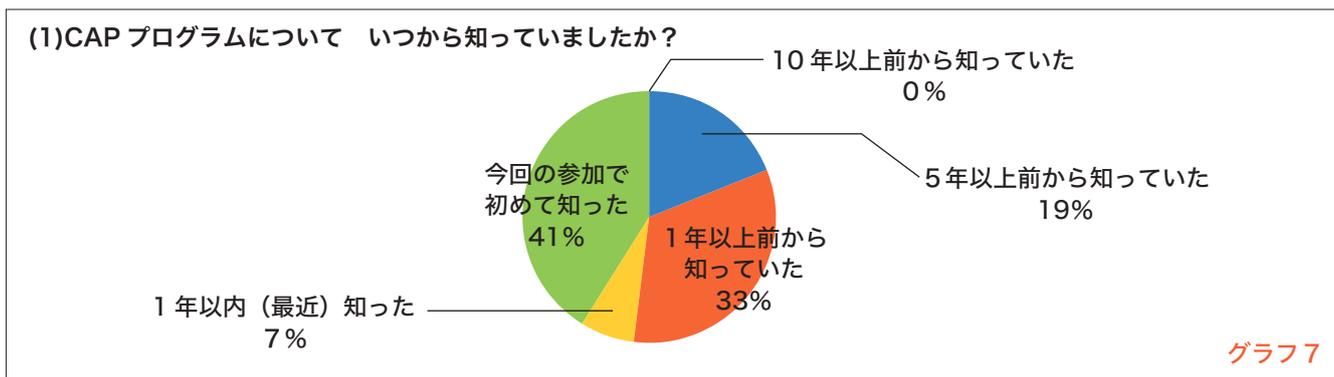
〈2〉 調査結果

1. 保護者（川崎区内）

①回答者の属性 あなたについて（以下 n=27）

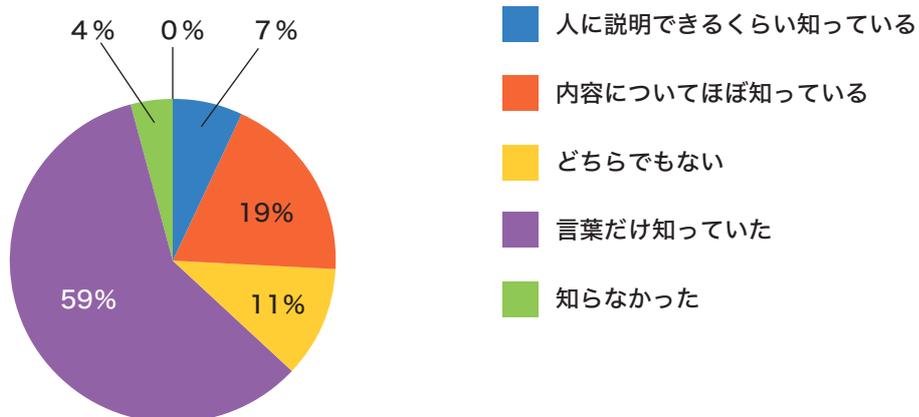


②事前 2.CAP プログラムについて (以下 n=27)



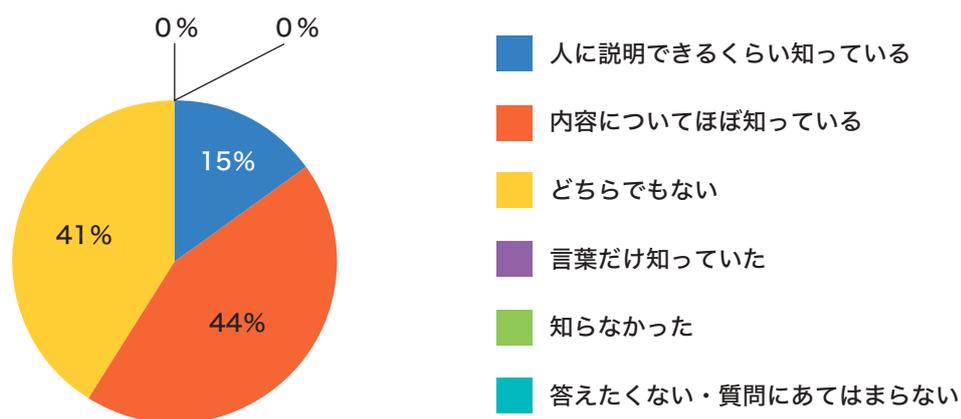
②事前 3. 子どもの権利について（以下 n=27）

(1) 「子どもの権利」という言葉を知っていますか



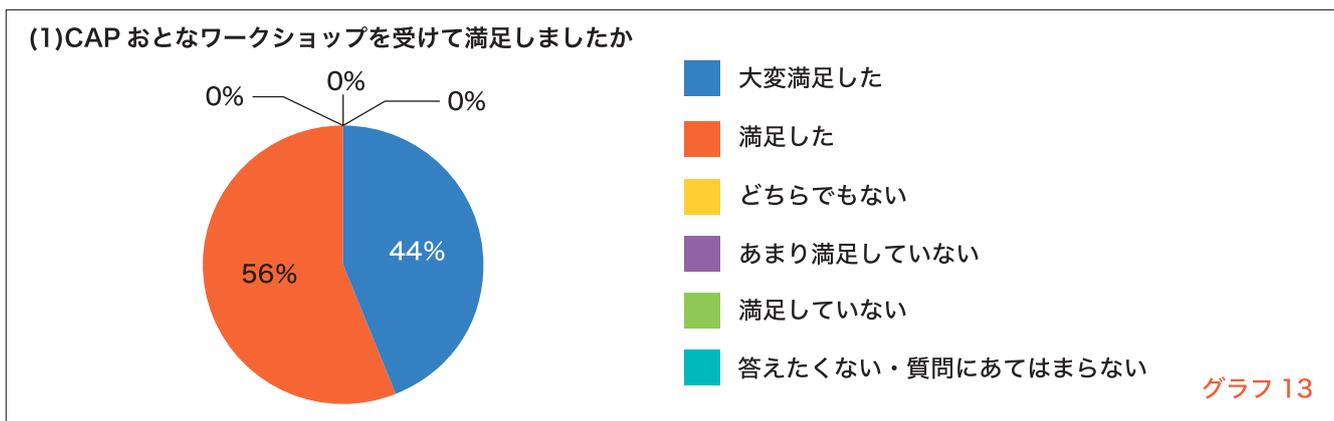
グラフ 11

(2) 川崎市には「川崎市子どもの権利に関する条例（子どもの権利条例）」が制定されているのを知っていましたか

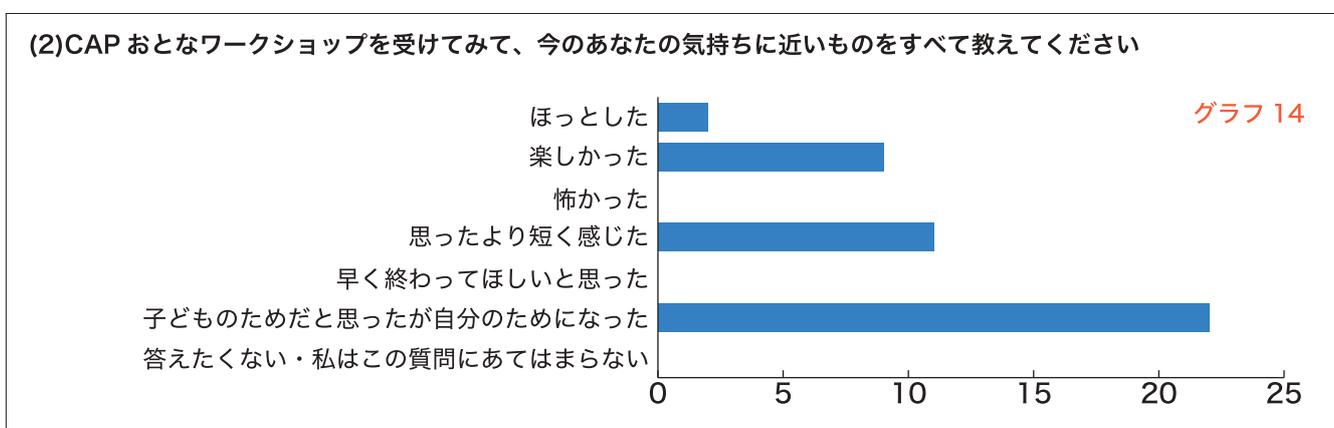


グラフ 12

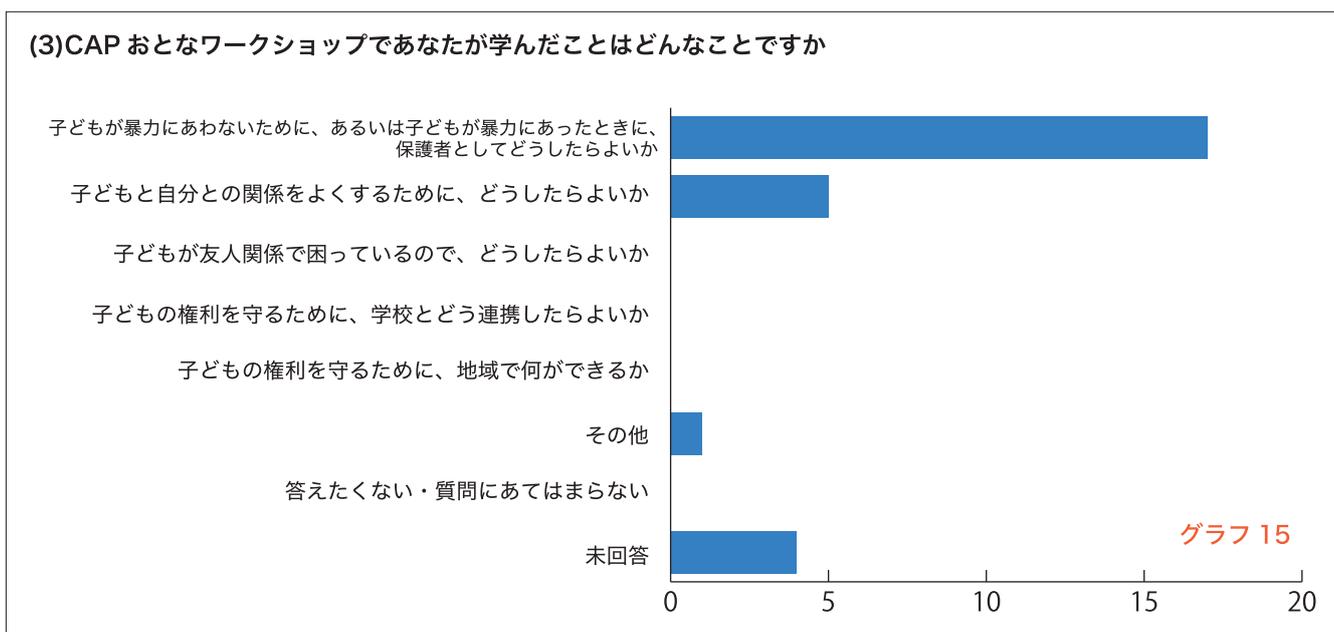
③事後 1. ワークショップを受けてみて (以下 n=27)



CAP おとなワークショップを受けて、満足しましたか？という問いに対して、大変満足した人は 44%、満足した人は 56%で、全員が満足したと答えた。

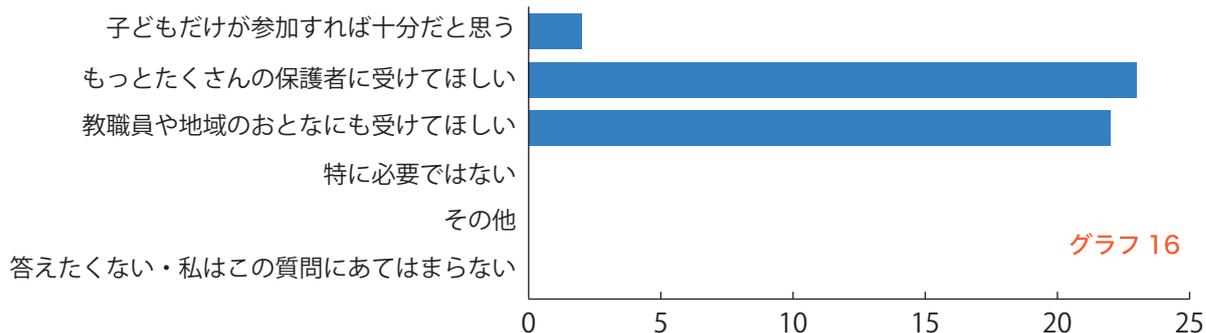


CAP おとなワークショップを受けてみて、今のあなたの気持ちに近いものをたずねたところ、子どものためだと思ったが自分のためになったが一番多く 22 名、次に思ったより短く感じたが 11 名、楽しかった 9 名、ほっとしたは 2 名であった。



CAP おとなワークショップであなたが学んだことはどんなことですか？と尋ねたところ、子どもが暴力に会わないために、あるいは子どもが暴力に会ったときに、保護者としてどうしたらよいかが一番多く 17 名であった。

(4)CAP プログラムについて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください

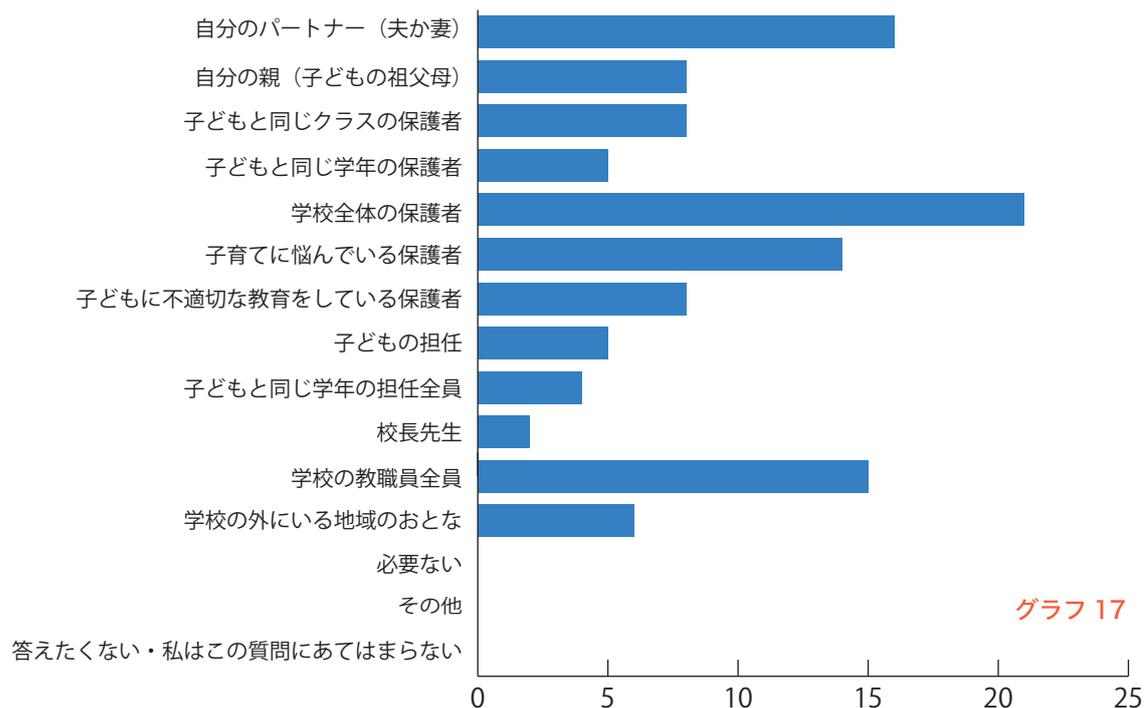


その他：

- ・オンラインでたくさんの保護者が気軽に受けられる機会を増やしてほしいです
- ・もっとたくさんの子供たちに受けて欲しいです。小学生だけではなく、中学生にも聞いてもらいたいです。

CAP プログラムについての意見を尋ねたところ、もっとたくさんの保護者に受けてほしいが一番多く 23 名、次に教職員や地域のおとなにも受けてほしいが 22 名だった。

(5) あなたは他にどんな人が CAP ワークショップに参加したらいいと思いますか



その他：企業の方々（子供がいないの方々）にも聞いて CAP を知って欲しい。

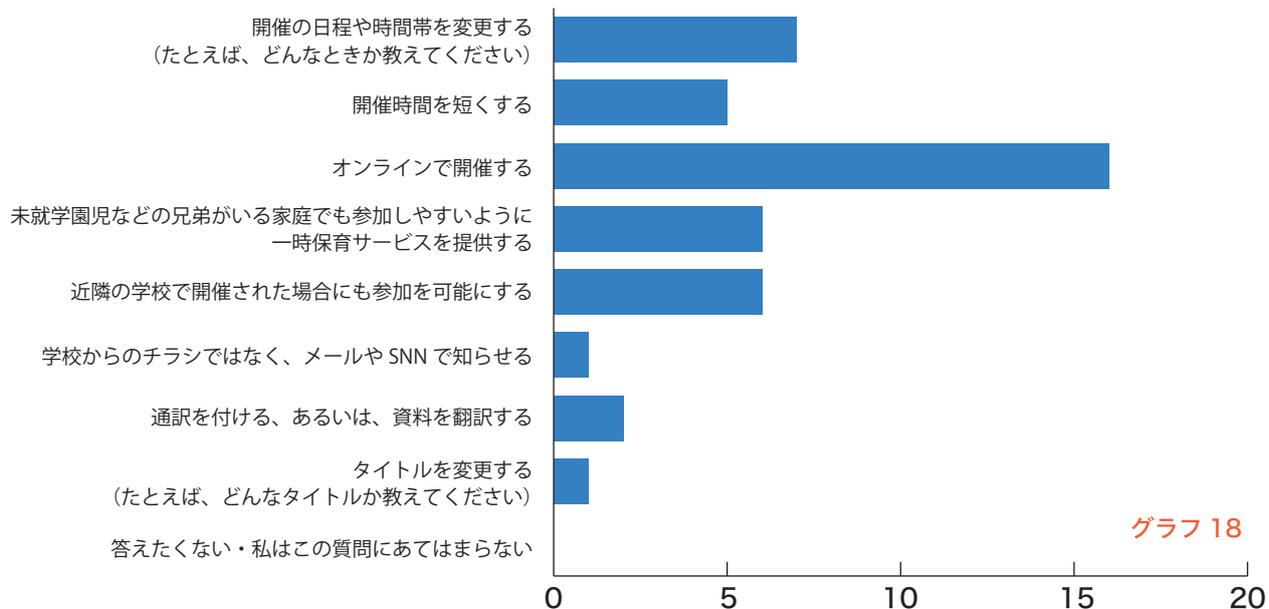
他にどんな人が CAP おとなワークショップに参加したらいいと思いますか？と尋ねたところ、学校全体の保護者が一番多く 21 名、次に自分のパートナー 16 名、学校の教職員全体が 15 名、子育てに悩んでいる保護者 14 名だった。

また、その理由 (6) として、下記の記述があった。

(6) それはなぜですか？

- ・暴力はどの子どもでも、受ける可能性があることだから
- ・無関係な人はいないから
- ・自分の子どもを守るため
- ・子どもにかかわるおとなが学ぶべきことだと思うから
- ・皆で共有することが大切だと思うから
- ・夫がキレると物を殴ったり、家族を突き飛ばしたり、蹴ったりする
- ・「権利」という言葉が漠然としかイメージできていなかったのも、具体的に教えていただける本講習はとても有益であると感じたからです。
- ・自分の気持ちも楽になるから
- ・子供たちと関わりが多いから
- ・子供の権利、当り前の事ながら意識して生活していなかったのが今回参加させて頂き良い気付きになったので。
- ・子どもの権利の中身や、暴力を受けた人への接し方を知るため
- ・子どもに関わる多くの大人が知っていた方がよいと思うから。一部の子どもだけがいい環境でも、よくない環境で育てられている子どもがいたらいじめ、暴力などはなくなる。
- ・自分には関係ないと思っていても聞けば感じることは何かあるかと…
- ・少数でも何か感じ取ってもらえるだけでも進歩だとおもうからです。
- ・先生方はある程度ご存知かもしれませんが、復習の意味でご参加いただきたい。保護者については、講演会等に参加する余裕がない本当に困ってる人にも、子どものトラブルを回避する方法のアドバイスが届いてほしいなと思います。
- ・皆が同じ方向を向いて対応ができるように
- ・内容が充実しており、参加して再認識できた事が多々あったため

(7) どうしたら、あなたやあなた以外の方が CAP おとなワークショップに参加しやすくなると思いますか (あてはまるものすべてにチェック)



どうしたら、CAP おとなワークショップに参加しやすくなると思いますか？と尋ねたところ、一番多かったのはオンラインで開催するが16名であった。

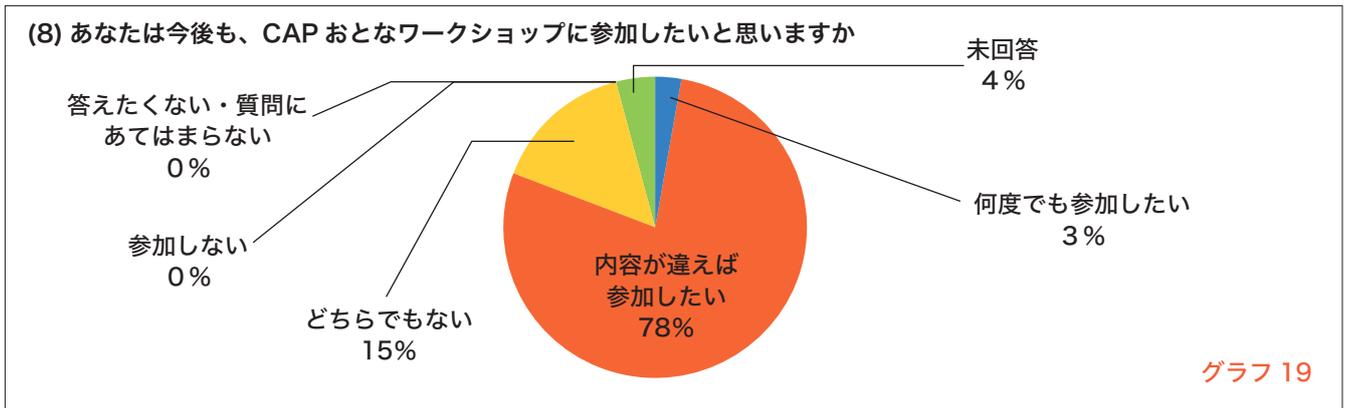
また、下記に具体的な提案の記述 (7) があった。

1-7 (1) 開催日程や時間帯の具体的な提案

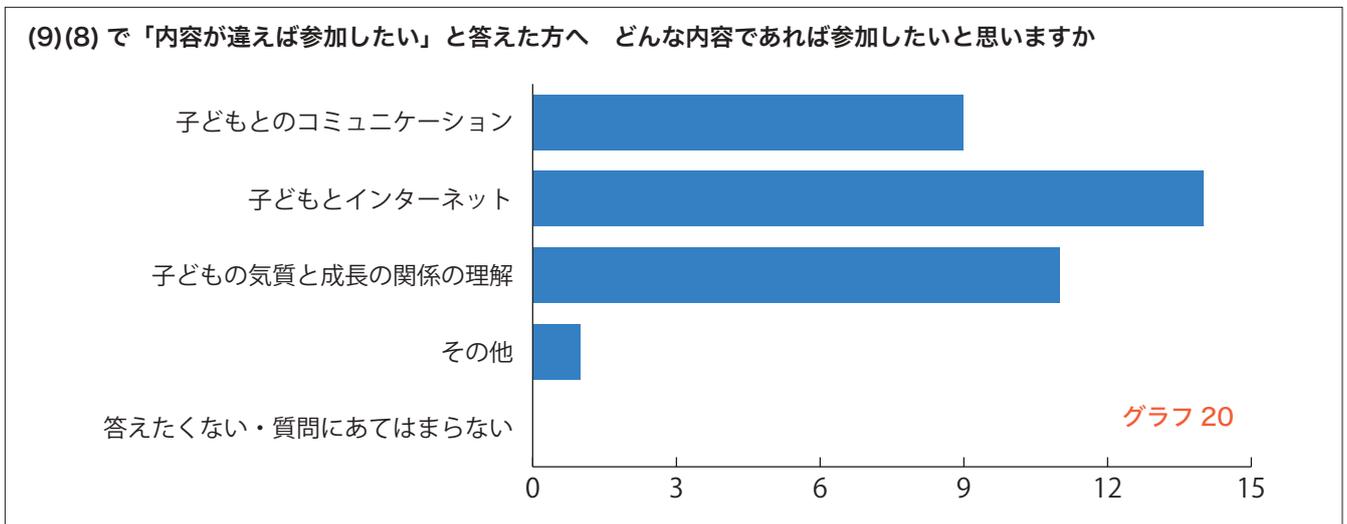
- ・ 仕事をしている人が多いので、午後にするとか
- ・ 1時間くらいだと参加しやすいと思う。また、随時入退室可としておくと参加しやすいのではないかなと思う。

1-7 (2) タイトル変更の具体的な提案

- ・ 学校から配布されるお手紙と一緒に、もっと内容のわかりやすいチラシなどをつける
- ・ こどもを守るために何が出来るか
- ・ あなたはいつ子どもにほめてあげてますか？ - 自信と自由と暴力の関係性 -
- ・ 大人が自分自身を大事することが子どもの権利を守ることに繋がることを学ぶ会



あなたは今後も、CAP おとなワークショップに参加したいと思いますか？と尋ねたところ、内容が違えば参加したいが一番多く 78%であった。



また、その具体的な内容を聞いたところ、子どもとインターネット 14名、子どもの気質と成長の関係の理解 11名、子どもとのコミュニケーション 9名であった。

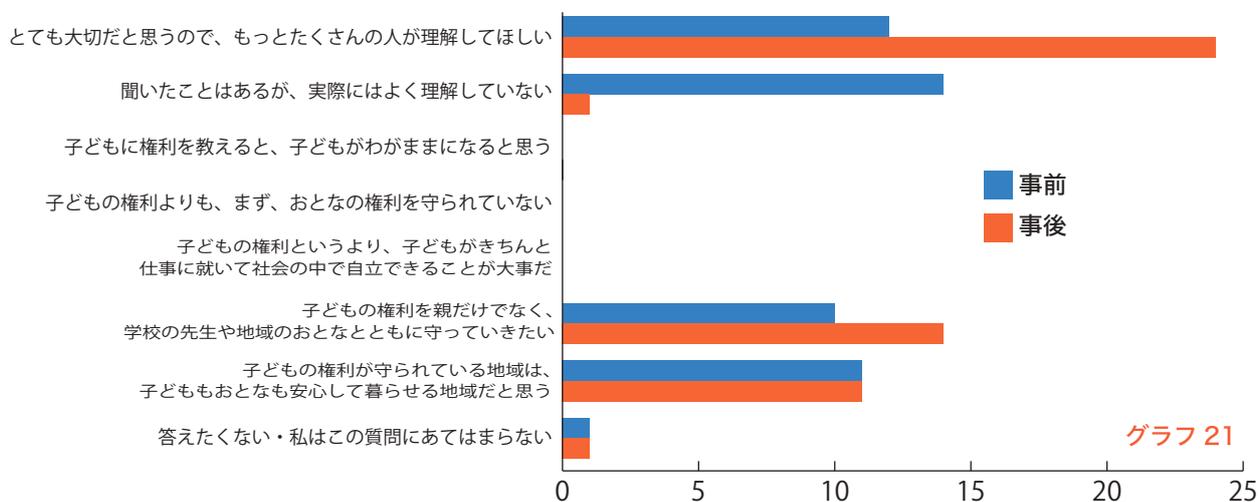
CAP プログラムについての要望を聞いたところ、下記の記述があった。

- ・ 3年生だけでなく、1年生から CAP プログラムを聞かせたいです。
- ・ 皆が聞いてくださるとよいです。
- ・ 親子で参加できたらいいと思った
- ・ 誰もありがとうと言ってくれないけど私だって頑張っている!ということに気づけてうれしかったです笑

④前後比較 子どもの権利と子どもへの暴力について(イメージとおとなとしてできることの変化)

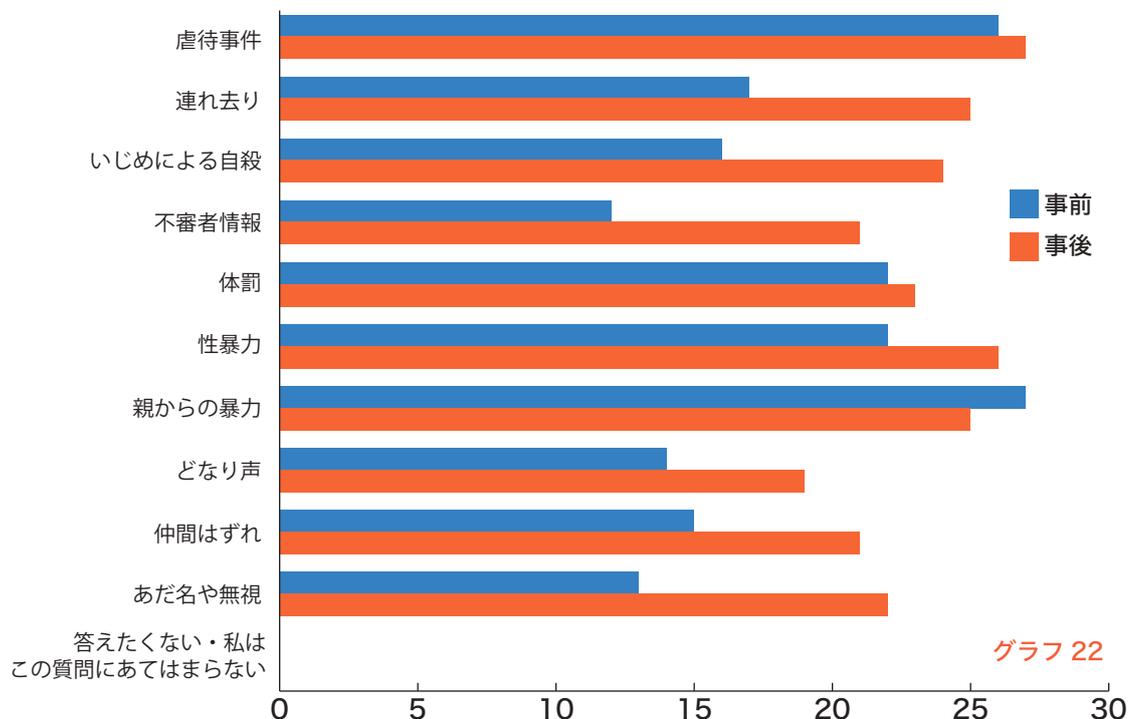
下記は、CAP おとなワークショップの前後に同じ質問を尋ね、どんな変化があったかを調べたものである。

「子どもの権利」と聞いて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください



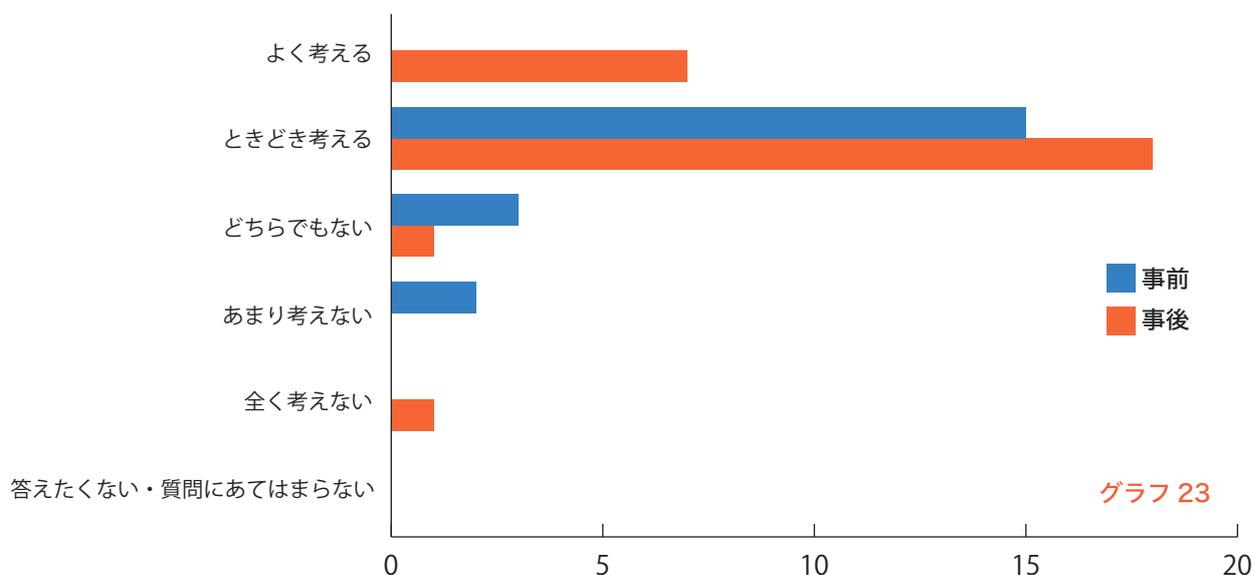
子どもの権利についての意見について、事前には一番多かったのは、聞いたことはあるが、実際にはよく理解していないは 13 名から 1 名に大きく減少し、とても大切だと思うので、もっとたくさんの人が理解してほしいは、事前の 12 名から事後は 24 名と 2 倍に増えた。

【前後比較】3 (1)「子どもへの暴力」と聞いて、あなたがイメージすることはどんなことですか



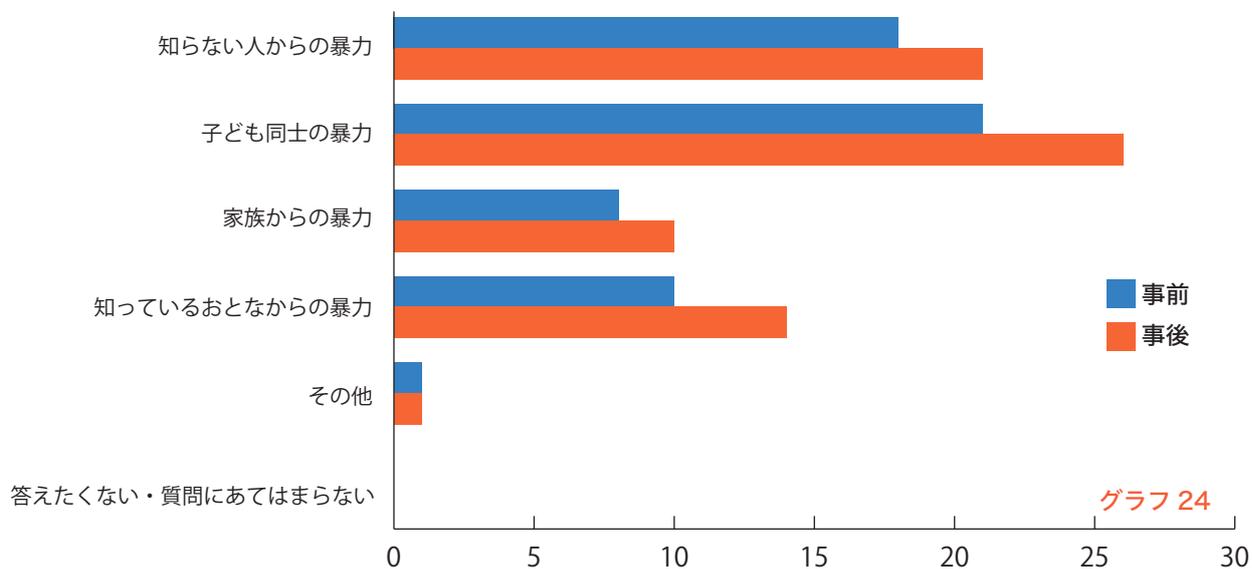
子どもへの暴力と聞いて、イメージすることを聞いたところ、事前には、親からの暴力 27 名、虐待事件 26 名、体罰 22 名、性暴力 22 名が多かったが、事後には、連れ去り、いじめによる自殺、不審者情報、どなり声、仲間外れ、あだ名や無視が大きく増加し、子どもへの暴力のイメージが広がった。

【前後比較】3 (2) あなたは、自分の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？



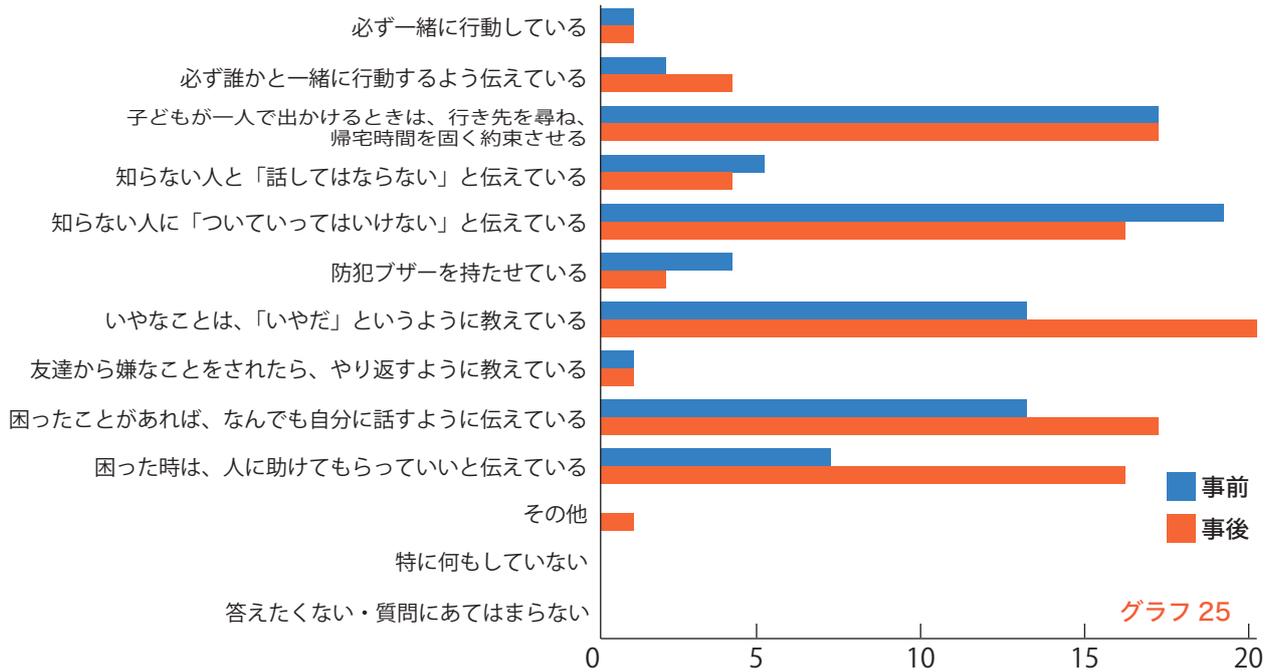
自分の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと思うかを聞いたところ、よく考える・ときどき考えるは、あわせて事前には 15 名だったところ、事後には、25 名に増加した。

【前後比較】3 (3) それは誰からの暴力ですか？ あてはまることすべてにチェックください



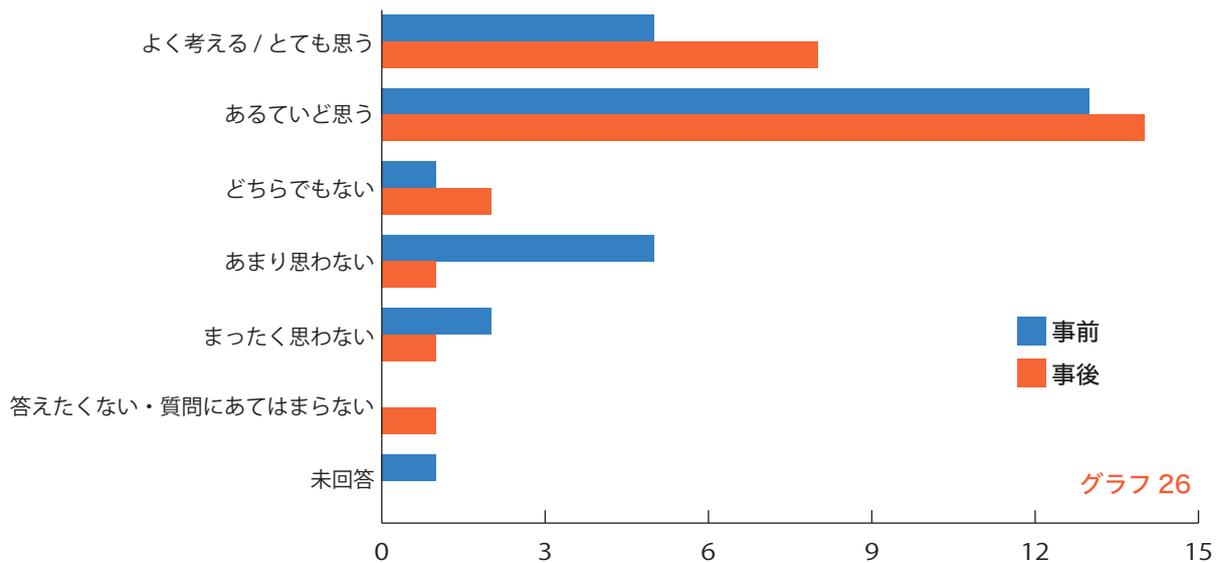
それは誰からの暴力ですか？と尋ねたところ、知らない人からの暴力、子ども同士の暴力、家族からの暴力、知っているおとなからの暴力のすべてが事前から事後に増加した。

【前後比較】3 (4) あなたの子どもが被害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください

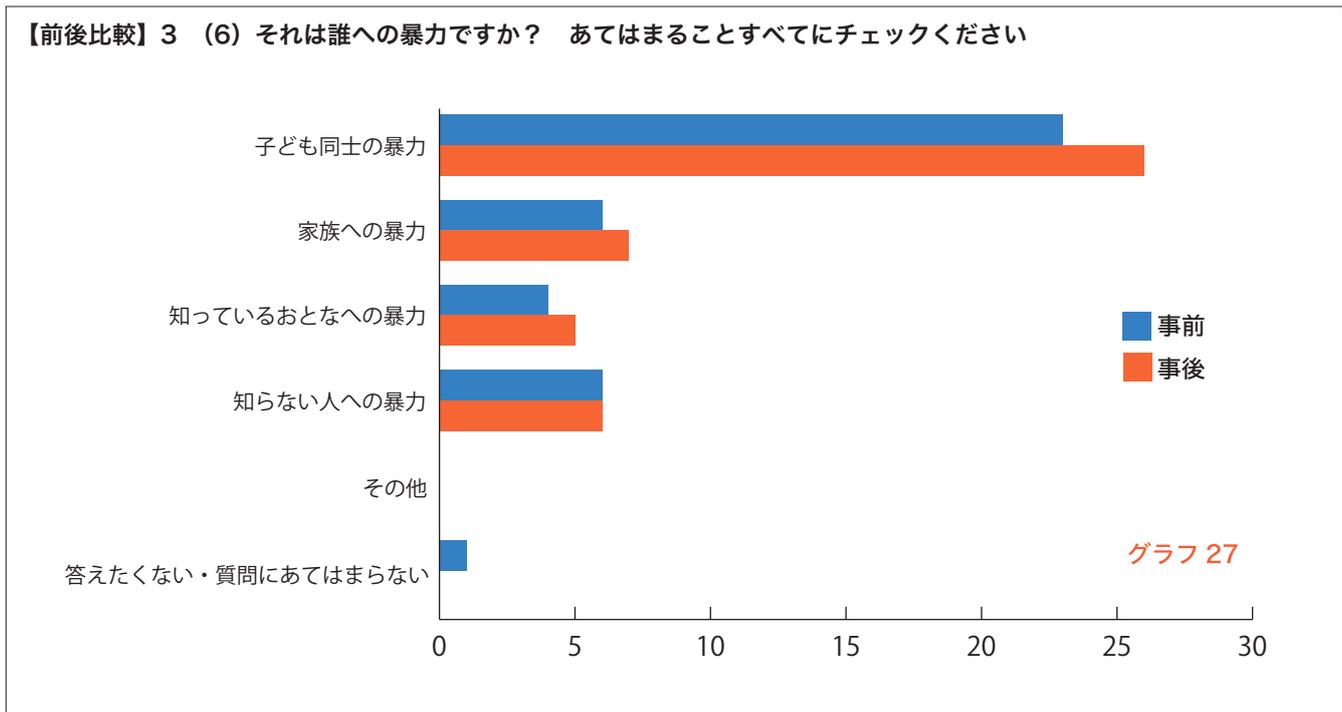


子どもが暴力の被害者にならないために、日頃から行っていること、今後しようと思うことを聞いたところ、事前には、知らない人に「ついていってはいけない」と教える、子どもが一人で出かけるときは、行き先を尋ね、帰宅時間を固く約束させるが多かったが、事後には、いやなことには、「いやだ」と言うように教える、困ったことがあれば、なんでも自分に話すように伝える、困った時は、人に助けてもらっていいと伝えるが大きく増加した。

【前後比較】3 (5) あなたは、自分の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと考えたことはありますか

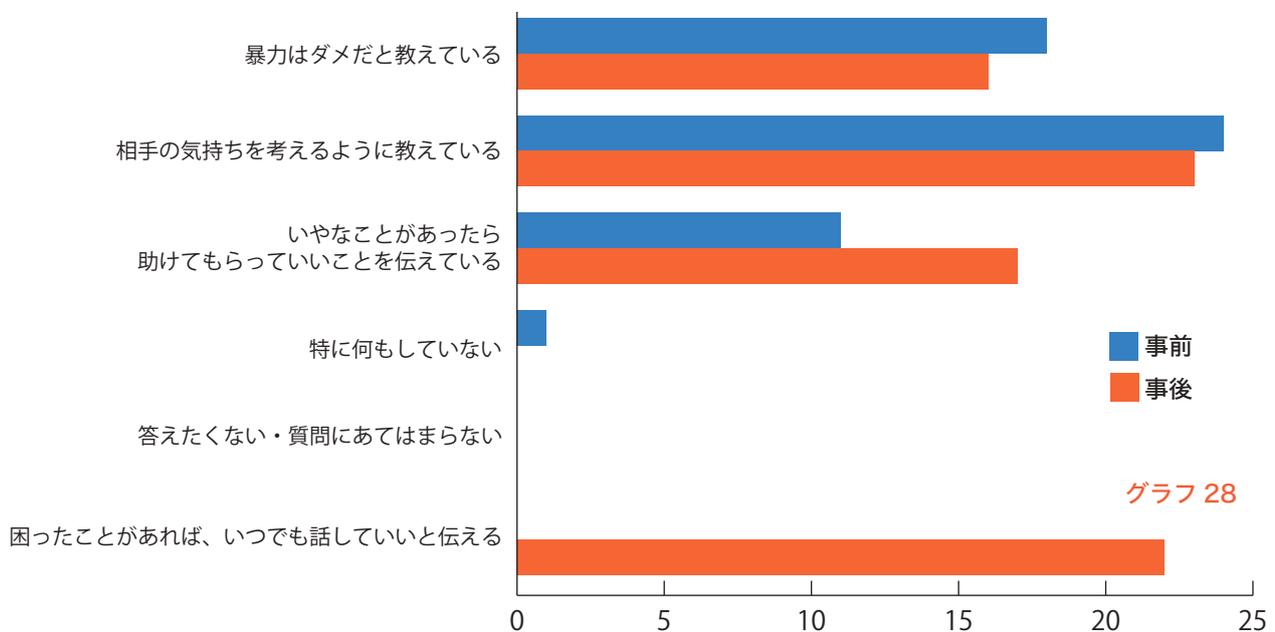


自分の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと思うかを聞いたところ、よく考える・ときどき考えるは、あわせて事前には 18 名だったところ、事後には、22 名に増加した。



それは誰への暴力ですか？と尋ねたところ、子ども同士の暴力、家族への暴力、知っているおとなへの暴力が事前から事後に増加した。

【前後比較】 3 (7) あなたの子どもが暴力の加害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください

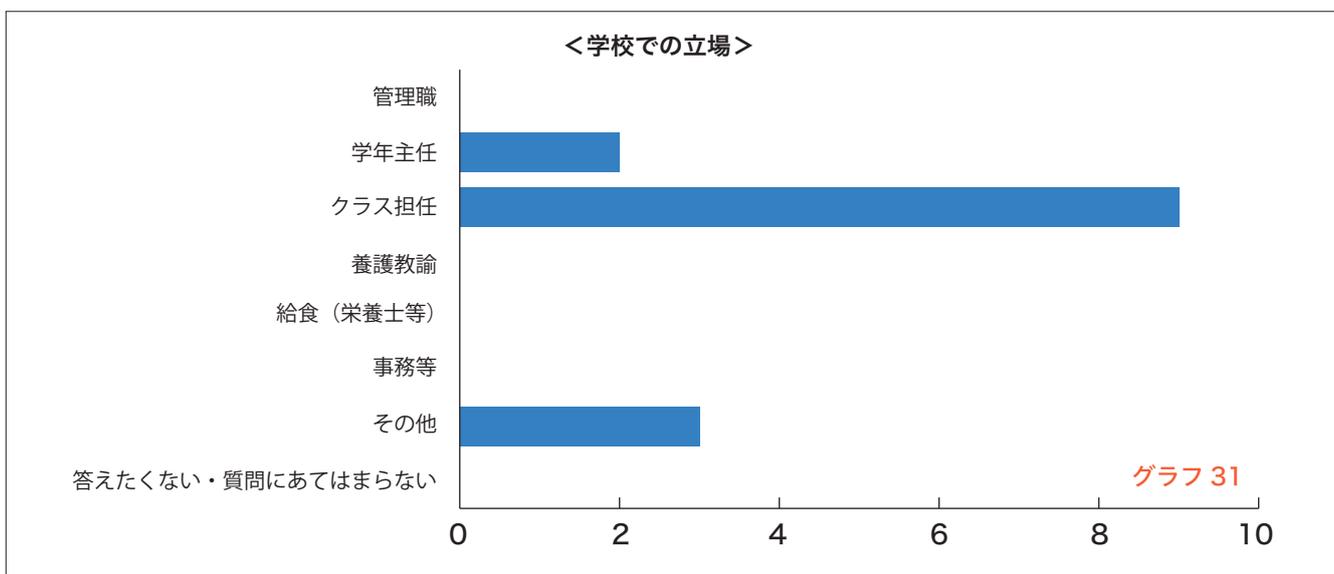
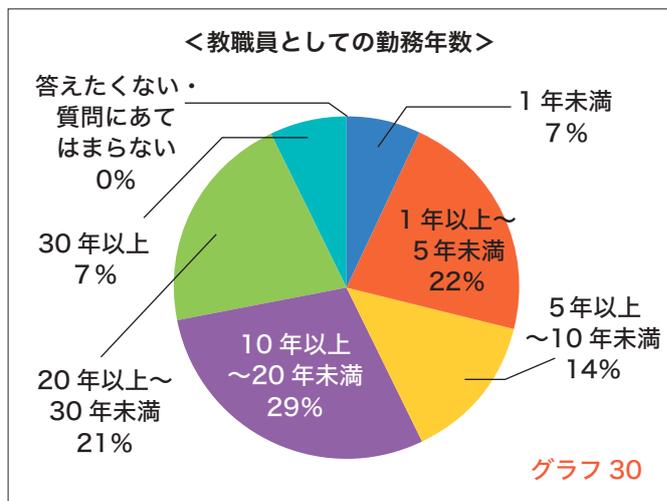
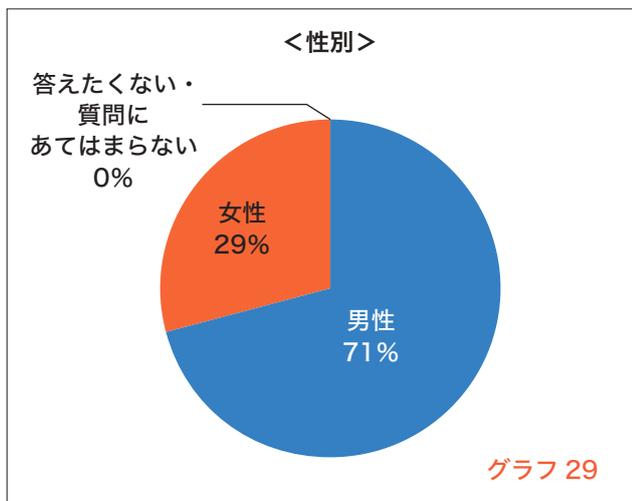


子どもが暴力の加害者にならないために、日頃から行っていること、今後しようと思うことを聞いたところ、事前には、相手の気持ちを考えるように教える 15 名、暴力はダメだと教える 24 名が多かったが、事後には 0 名であった困ったことがあれば、いつでも話していいと伝えるが、22 名が増加した。

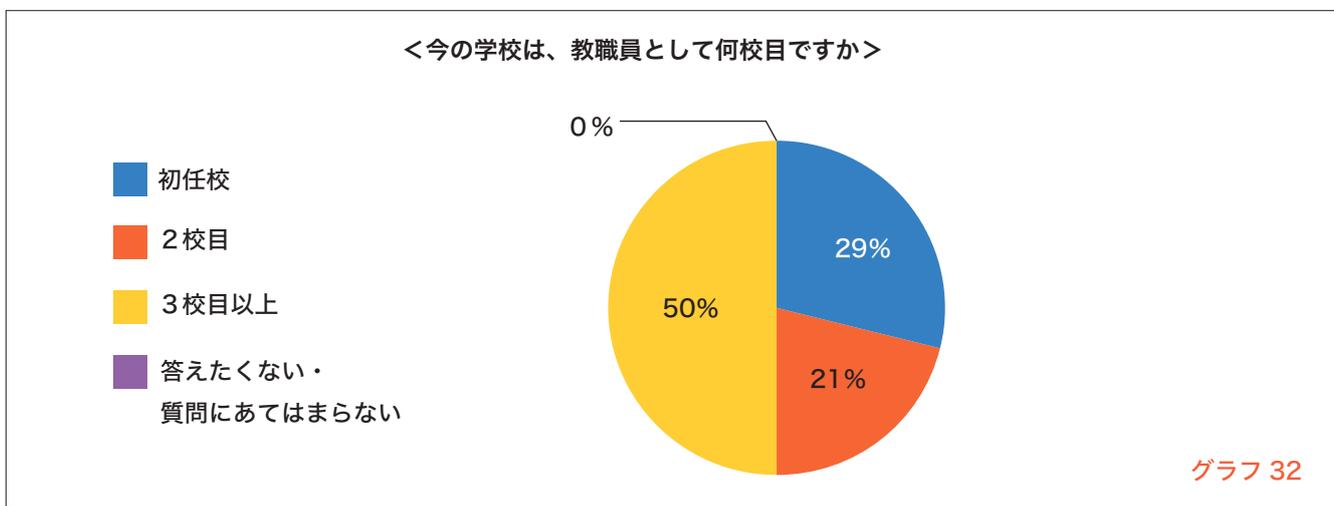
〈2〉 調査結果

2. 教職員（川崎区内）

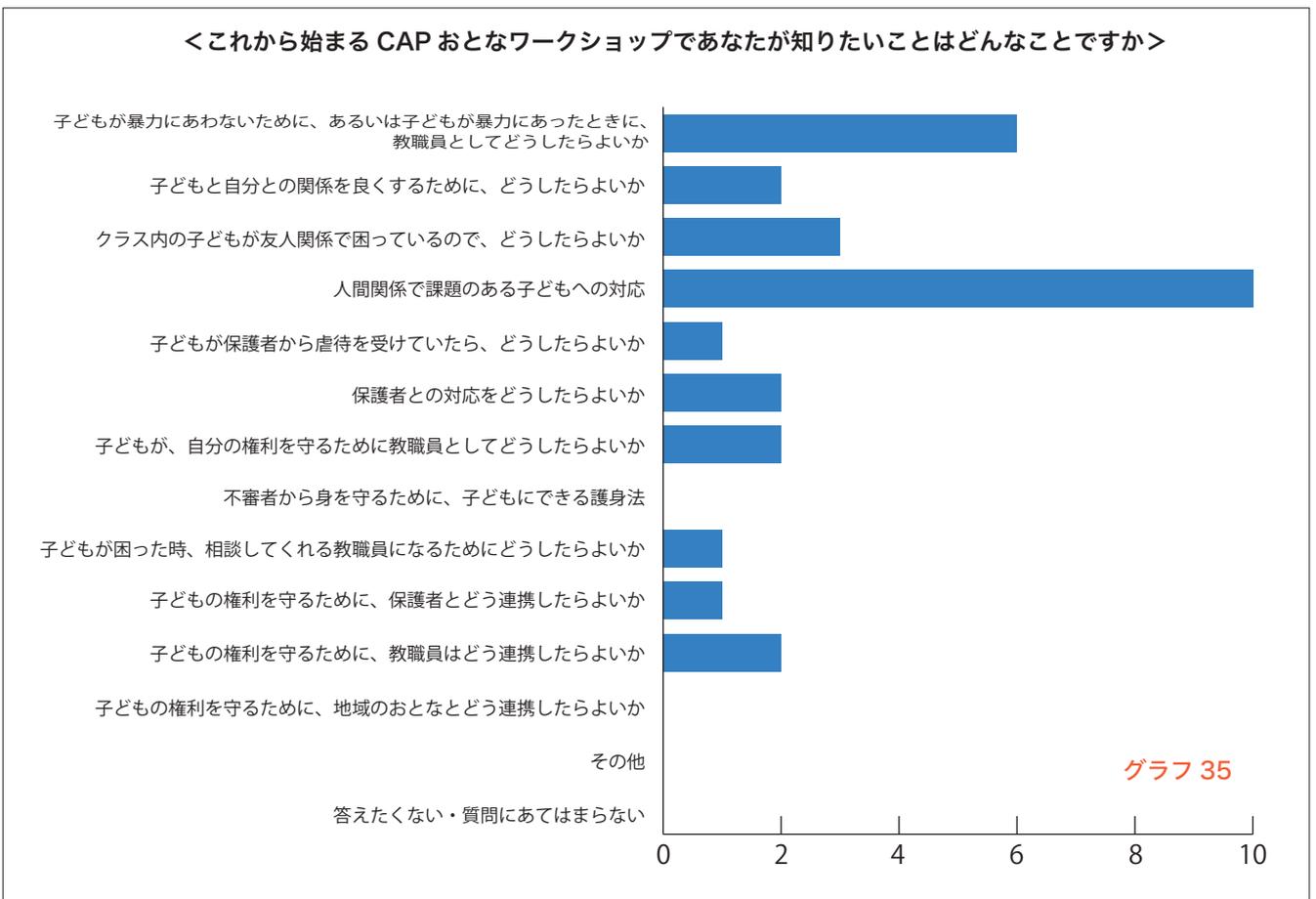
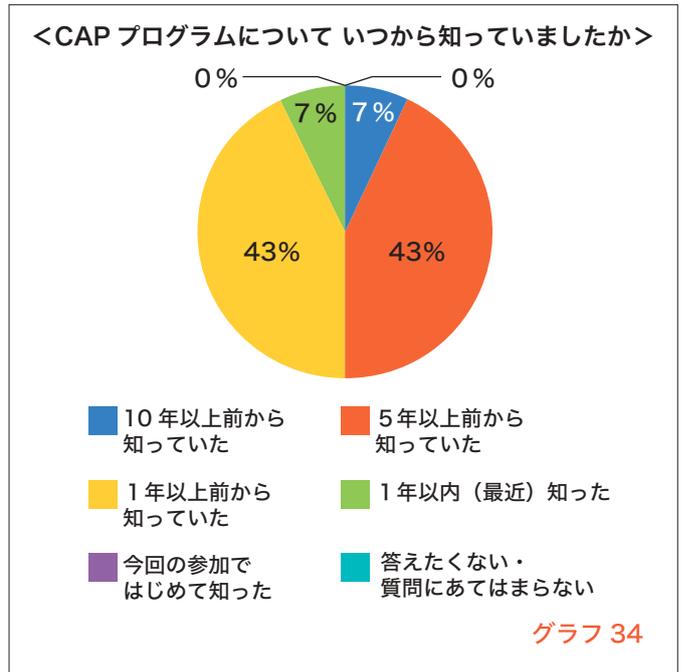
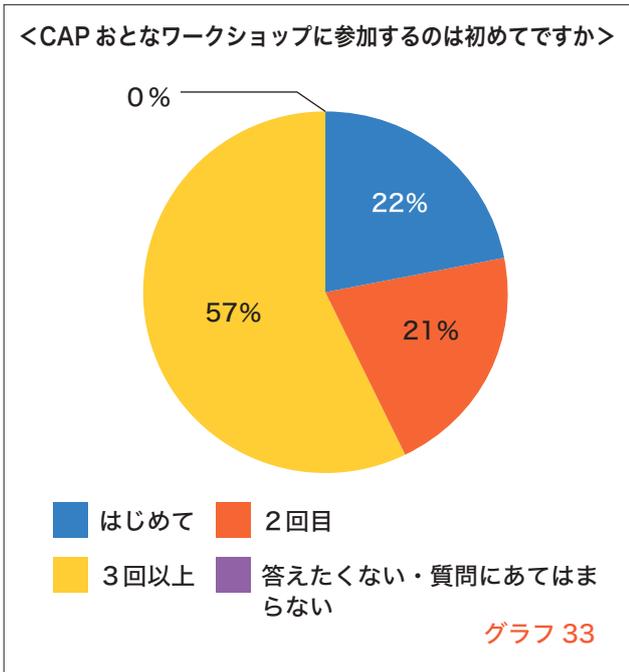
①回答者の属性 あなたについて（以下 n=14）



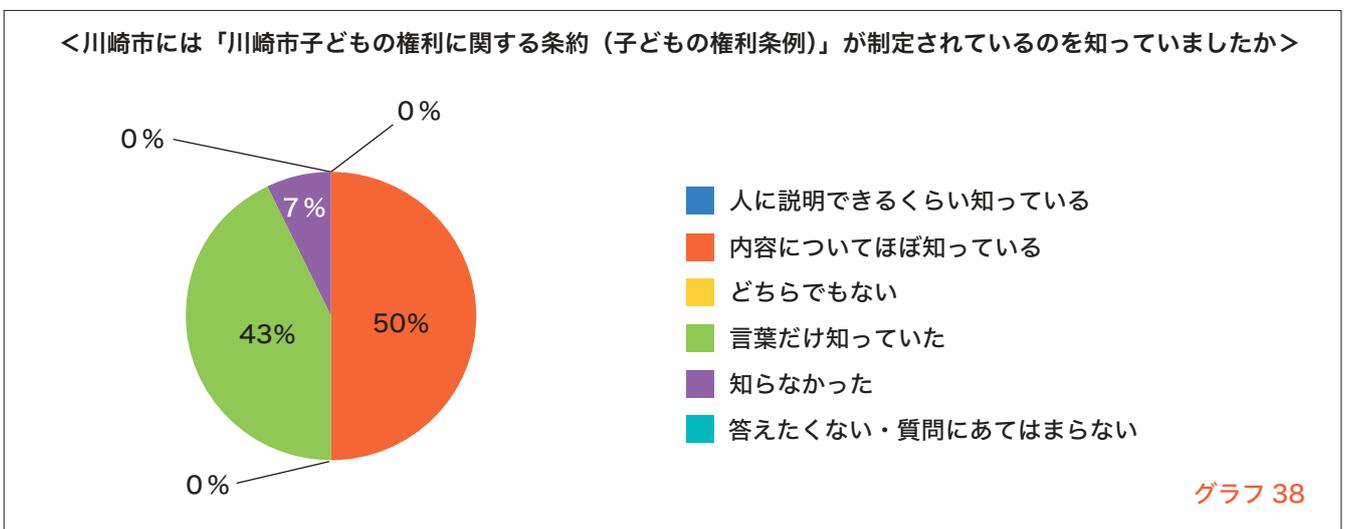
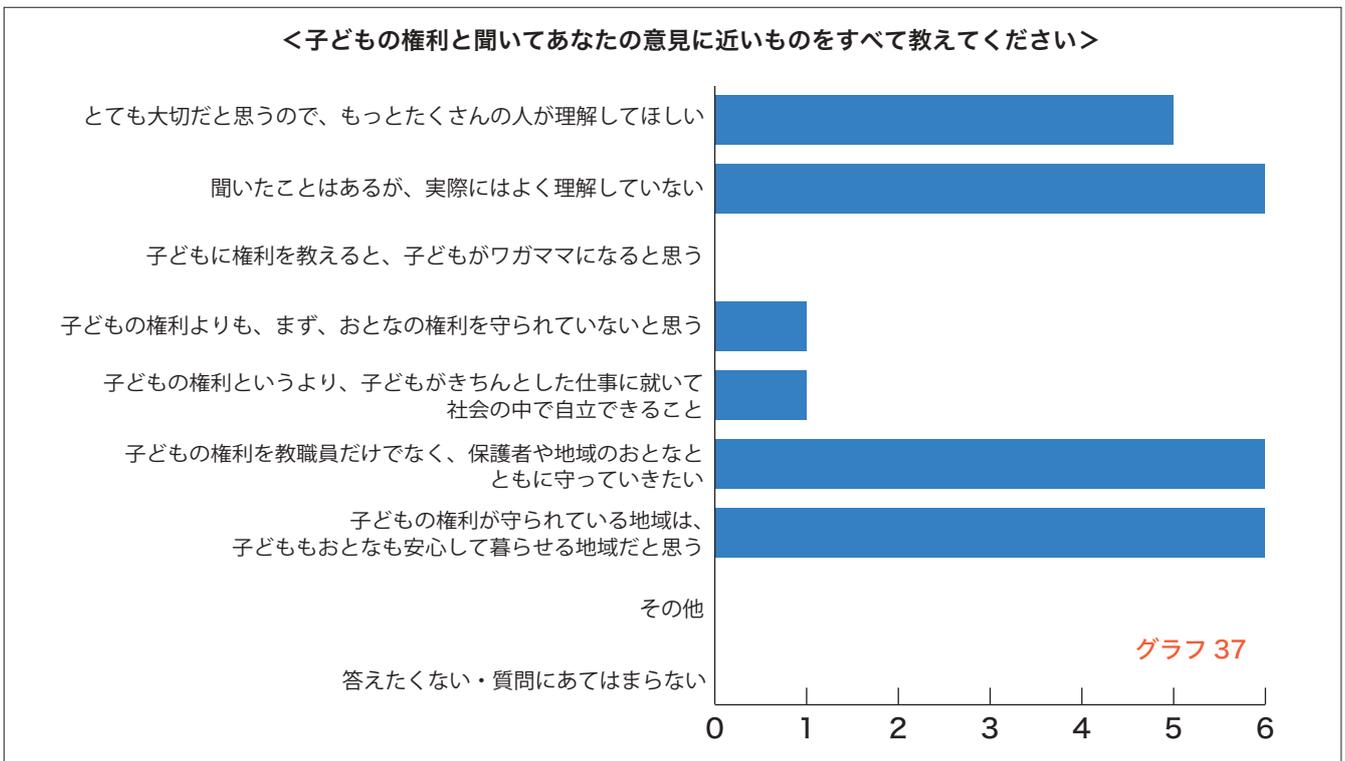
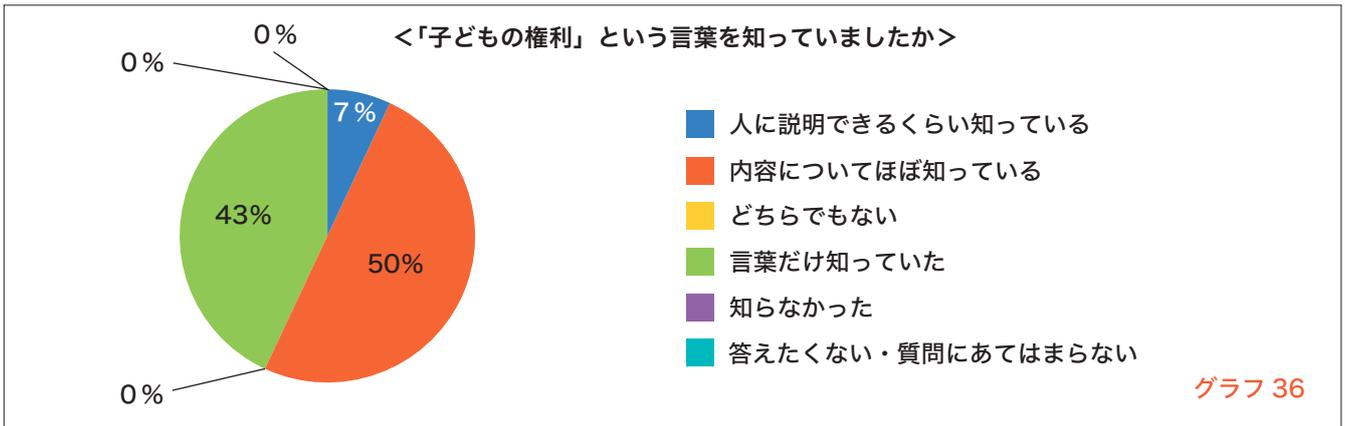
・その他：副担任 1 名、教務主任 1 名



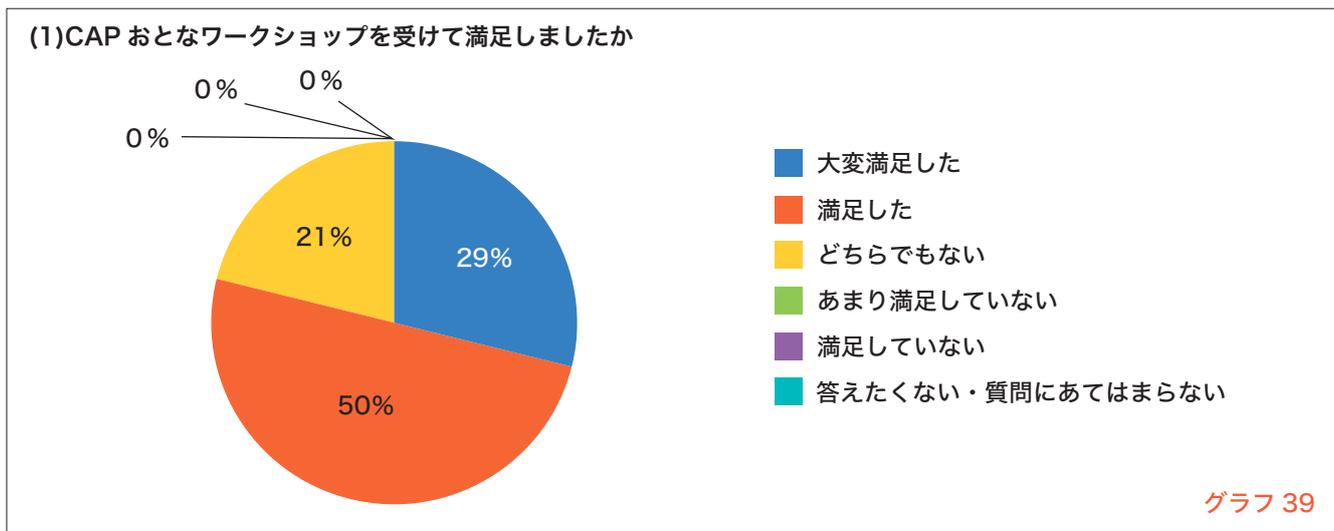
②事前 2.CAP プログラムについて (以下 n=14)



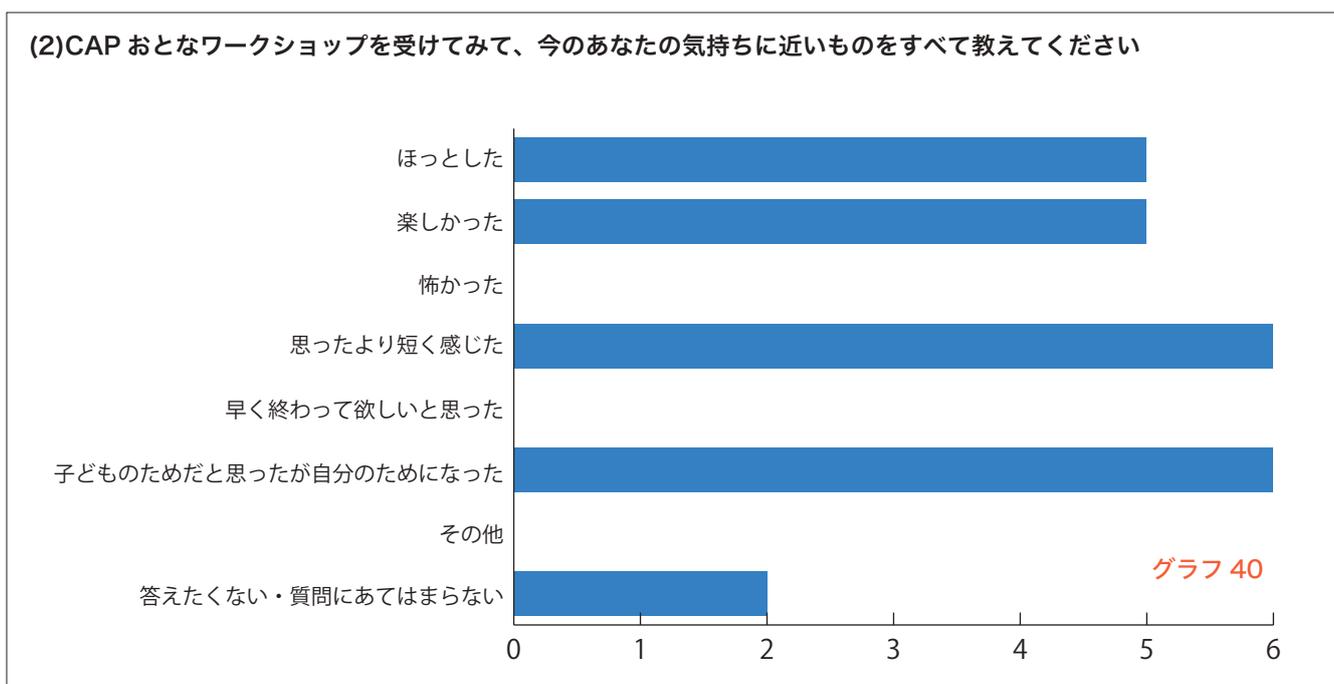
3. 子どもの権利について



③事後 1. ワークショップを受けてみて (以下 n=14)

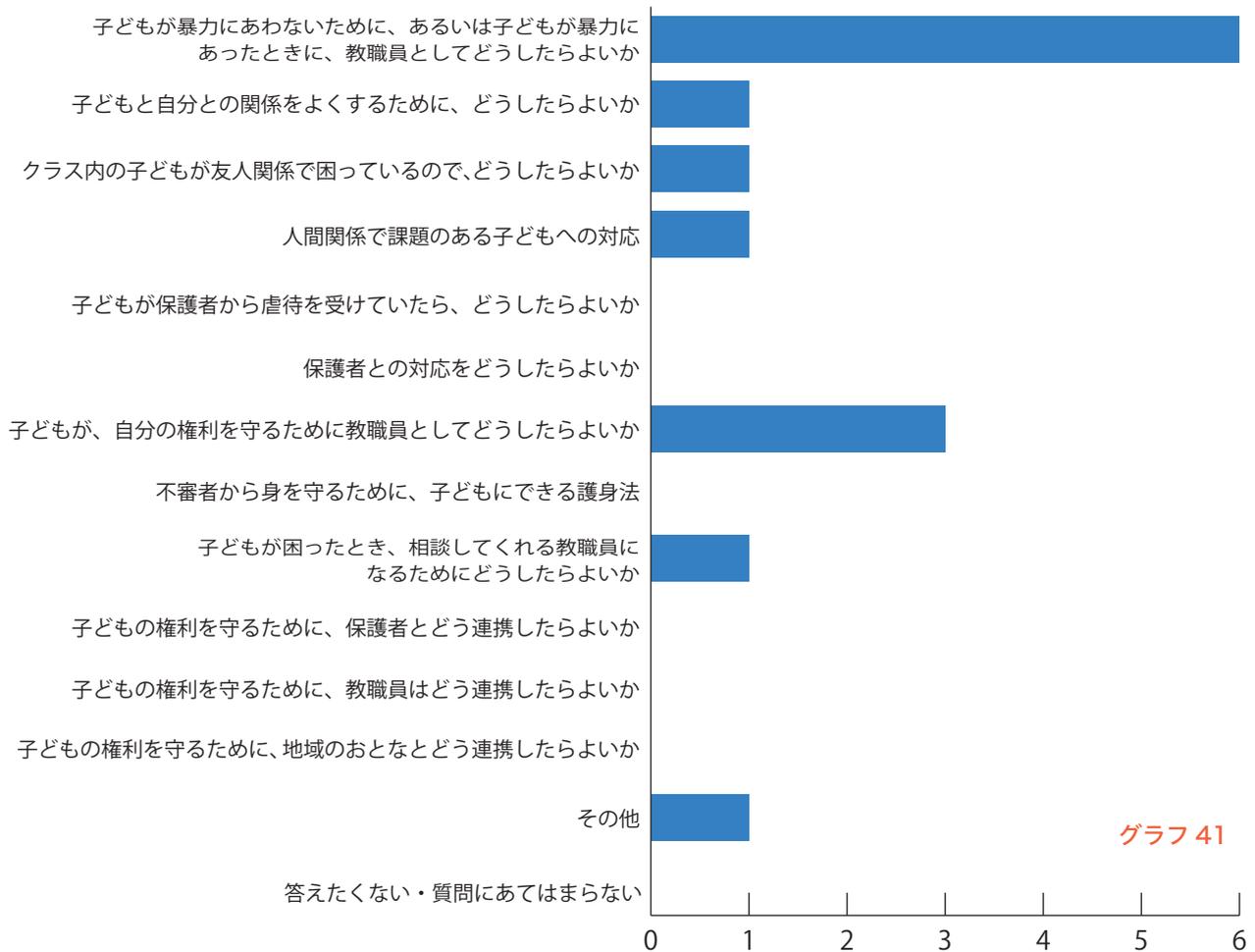


CAP おとなワークショップを受けて、満足しましたか?という問いに対して、大変満足した人は29%、満足した人は50%で、全体の79%が満足したと答えた。



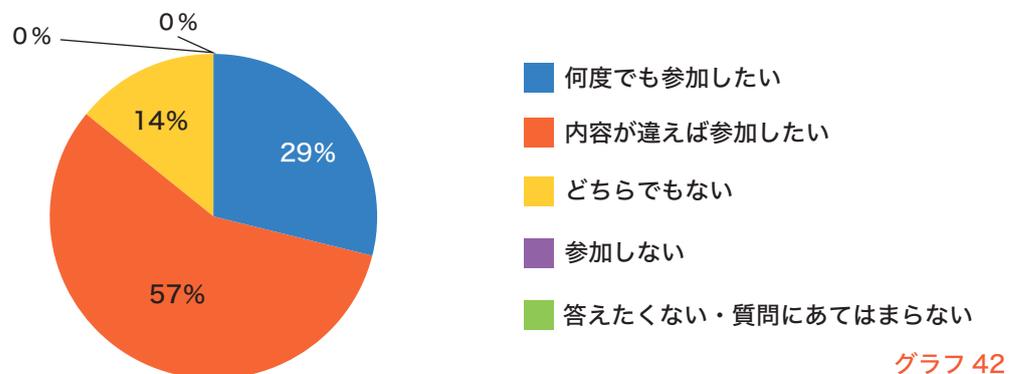
CAP おとなワークショップを受けてみて、今のあなたの気持ちに近いものをたずねたところ、子どものためだと思ったが自分のためになったが6名、思ったより短く感じたが同じく6名、楽しかった5名、ほっとしたは5名であった。

(3)CAPワークショップであなたが学んだことはどんなことですか？(一番近いものを一つだけチェックをしてください)



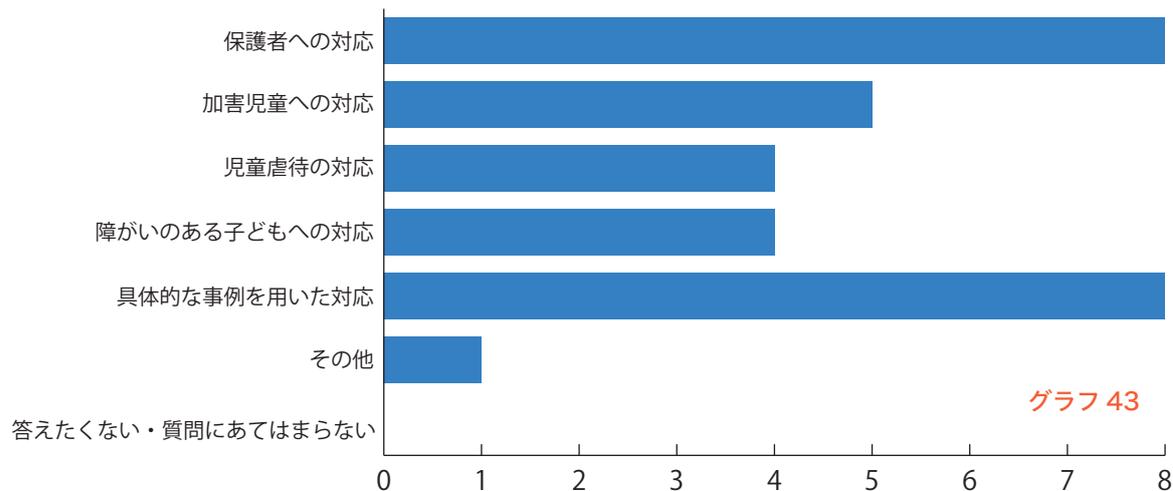
CAP おとなワークショップであなたが学んだことはどんなことですか？と尋ねたところ、子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、教職員としてどうしたらよいかが一番多く6名であった。

(5)CAP おとなワークショップを受けてみて、今のあなたの気持ちに近いものをすべて教えてください



あなたは今後も、CAP おとなワークショップに参加したいと思いますか？と尋ねたところ、内容が違えば参加したいが一番多く57%、何度でも参加したいが29%であった。

(6) どんな内容であれば参加したいと思いますか

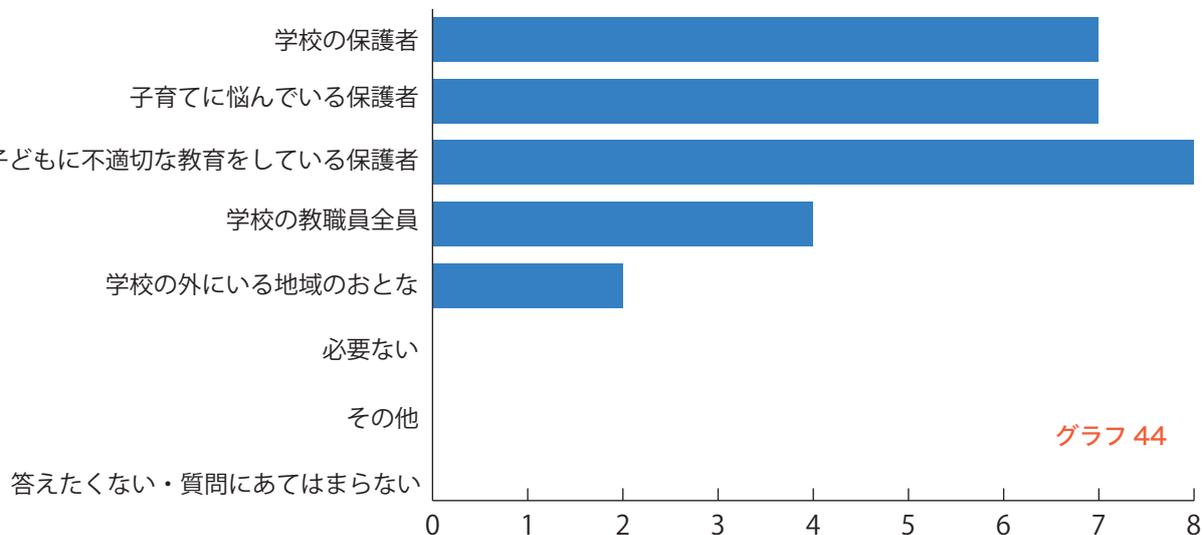


グラフ 43

・その他：発達障害生徒への対応

どんな内容があればいいと思うかを尋ねたところ、保護者への対応が8名、具体的な事例を用いた対応が同じく8名で多かった。

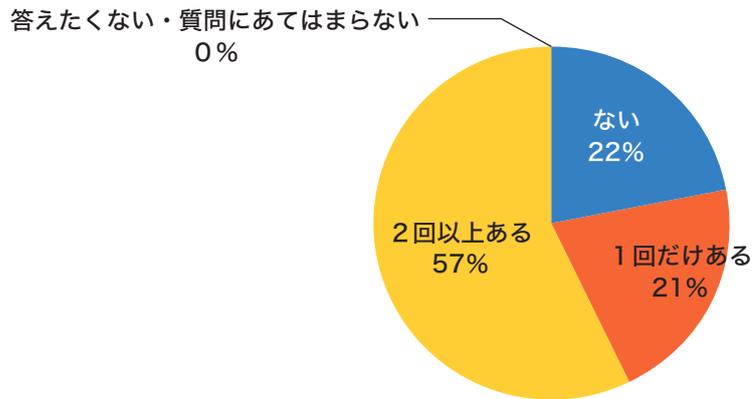
(7) あなたは他にもどんな人が、CAP おとなワークショップに参加したらいいと思いますか
(あてはまるものすべてにチェックください)



グラフ 44

他にどんな人がCAP おとなワークショップに参加したらいいと思いますか?と尋ねたところ、子どもに不適切な養育をしている保護者が一番多く8名、次に、学校の保護者7名、子育てに悩んでいる保護者7名などであった。

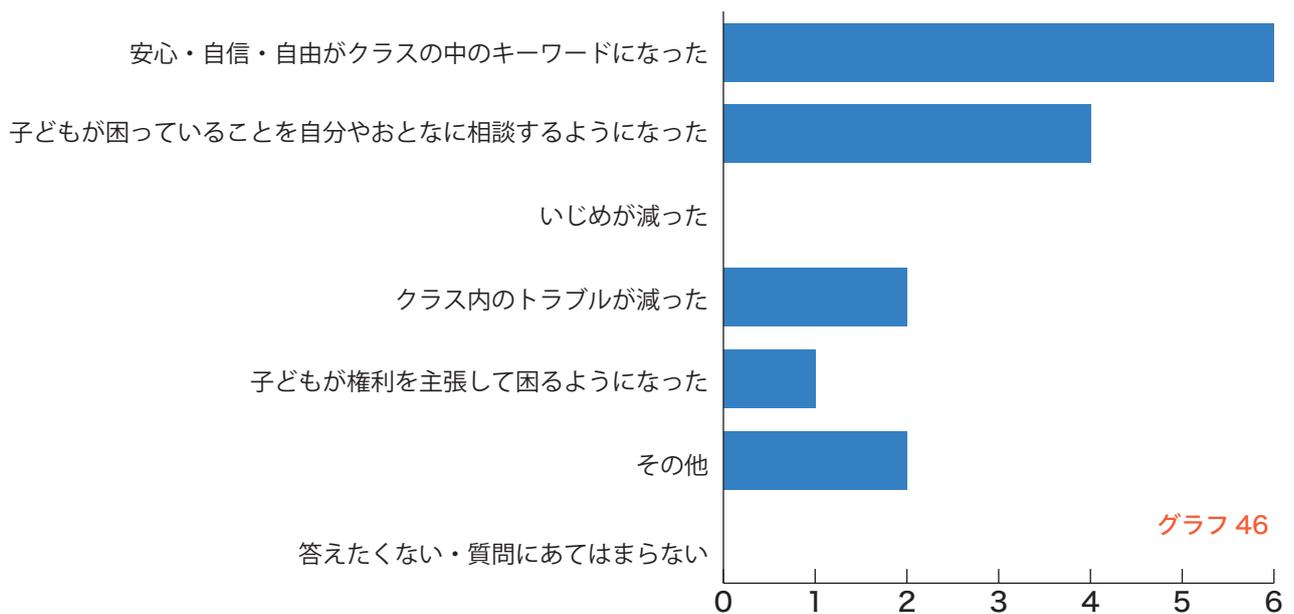
(10) あなたはこれまで、自分が担任するクラスでCAP子どもワークショップと一緒に参加したことがありますか



グラフ 45

これまでに自分が担任するクラスで、CAP子どもワークショップに参加したことがあるかを尋ねたところ、2回以上あるが57%、1回だけある21%で、全体の78%が経験があると答えた。

(11) 子どもたちがCAPワークショップを受講した後、どんな変化がありましたか？
(あてはまることすべてにチェックください)

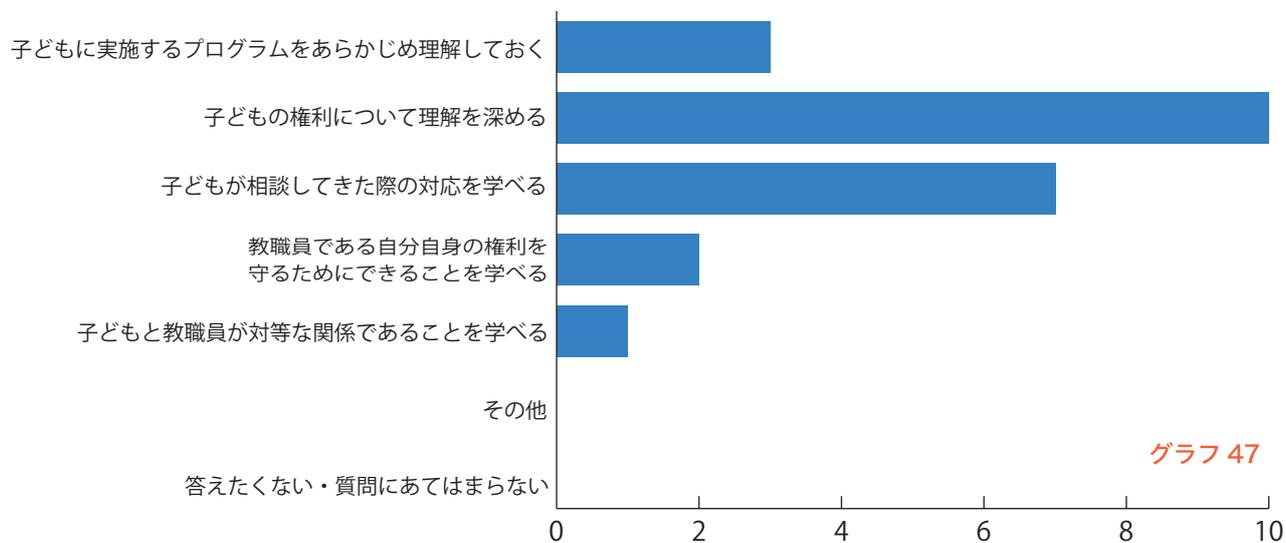


グラフ 46

・その他：人権の意識が少しできた

子どもワークショップを経験したことのある人に、子どもたちがCAPワークショップ受講後にどんな変化があったかを尋ねたところ、安心・自信・自由がクラスの中のキーワードになったが一番多く6名、次に、子どもが困っていることを自分やおとなに相談するようになったが4名であった。

(12) 教職員がCAPおとなワークショップに参加する意義はどんなことだと思いますか？
(あてはまることすべてにチェックください)



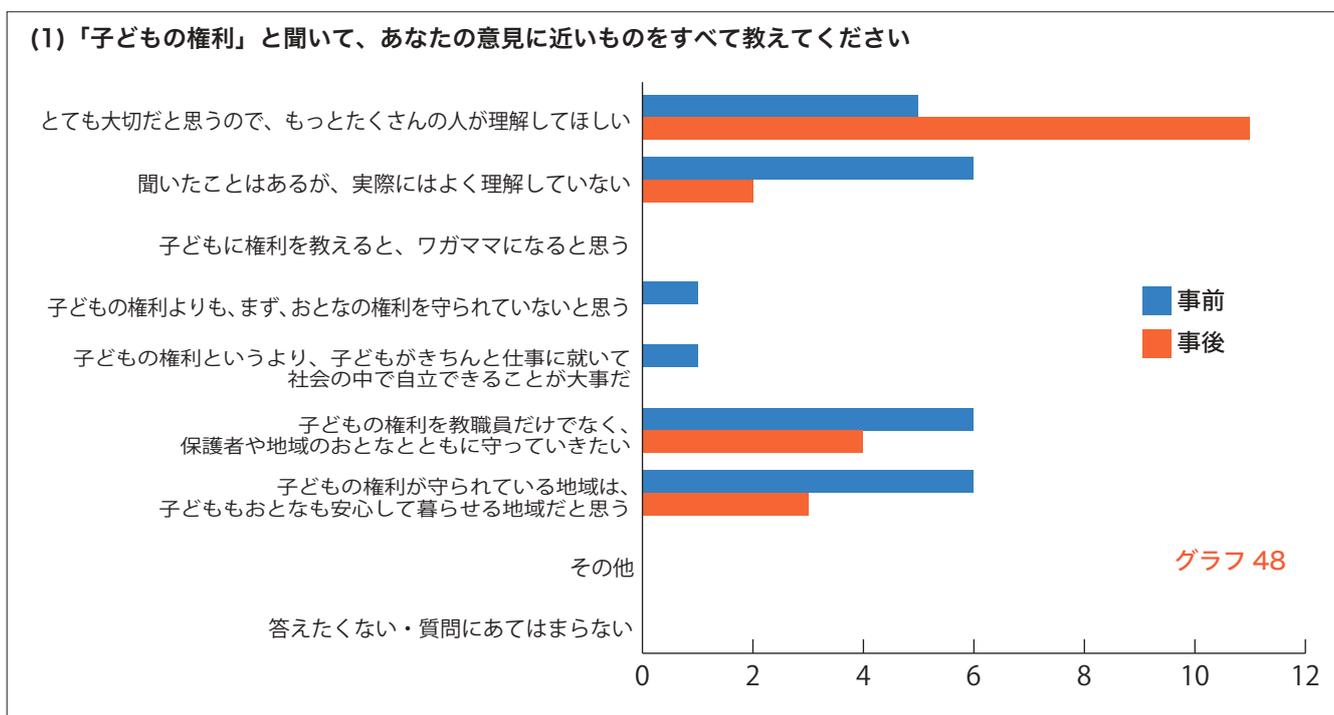
グラフ 47

教職員がCAPおとなワークショップに参加する意義について尋ねたところ、子どもの権利について理解を深めるが一番多く10名、次いで子どもが相談してきた際の対応を学べるが7名であった。

④前後比較（以下 n=14）

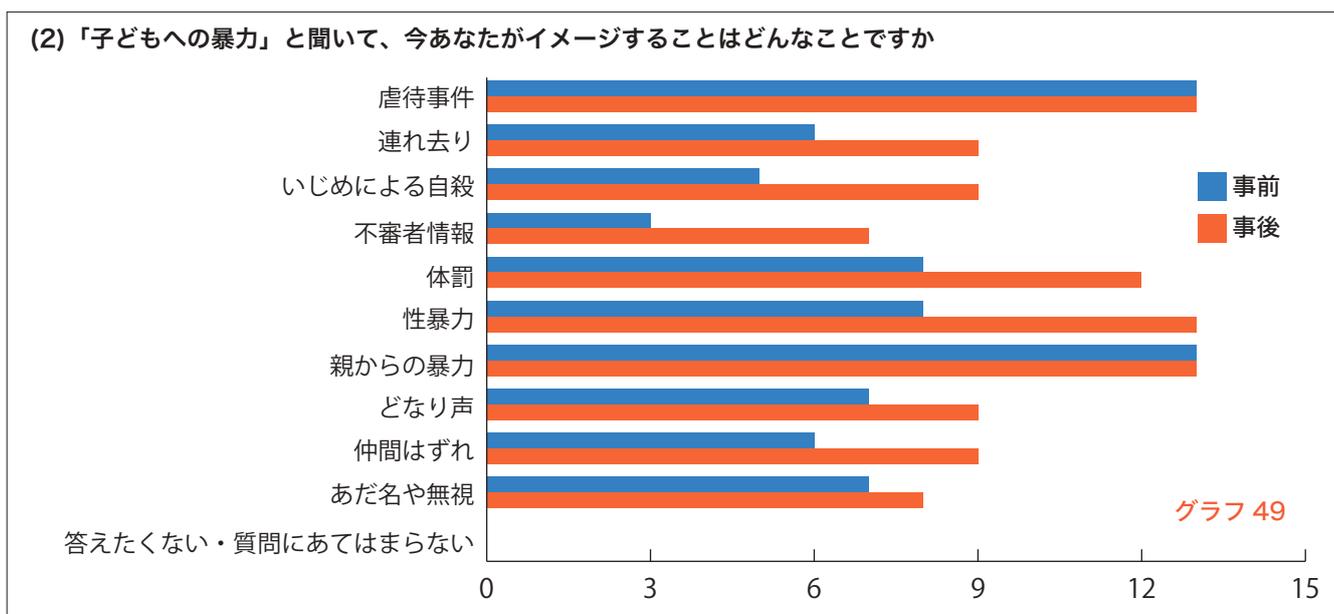
子どもの権利と子どもへの暴力について（イメージとおとなとしてできることの変化）

下記は、CAP おとなワークショップの前後に同じ質問を尋ね、どんな変化があったかを調べたものである。

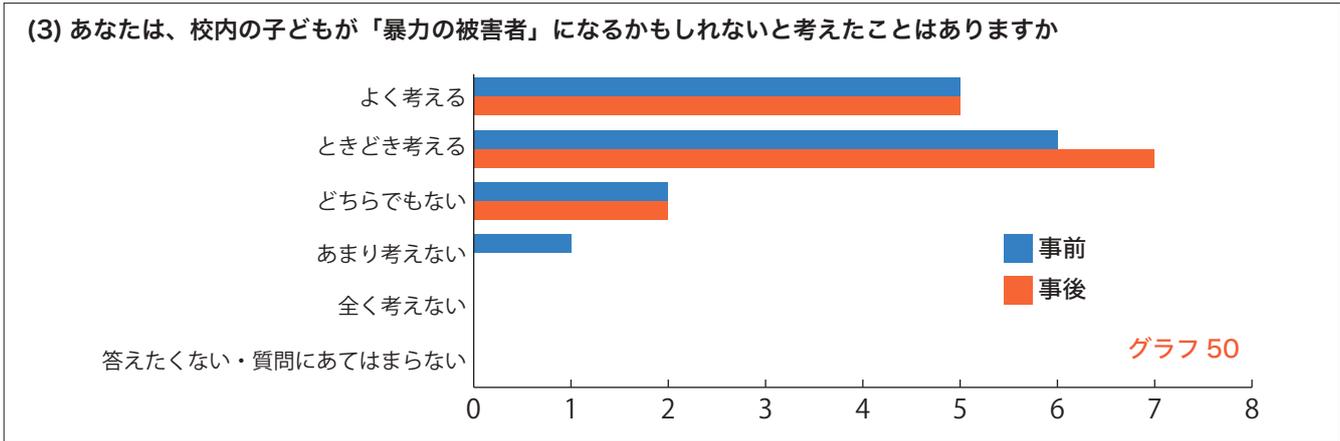


子どもの権利についての意見について、事前に多かったのは、聞いたことはあるが、実際にはよく理解していない、子どもの権利を教職員だけでなく、保護者や地域のおとなと共に守っていききたい、子どもの権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思うであった。

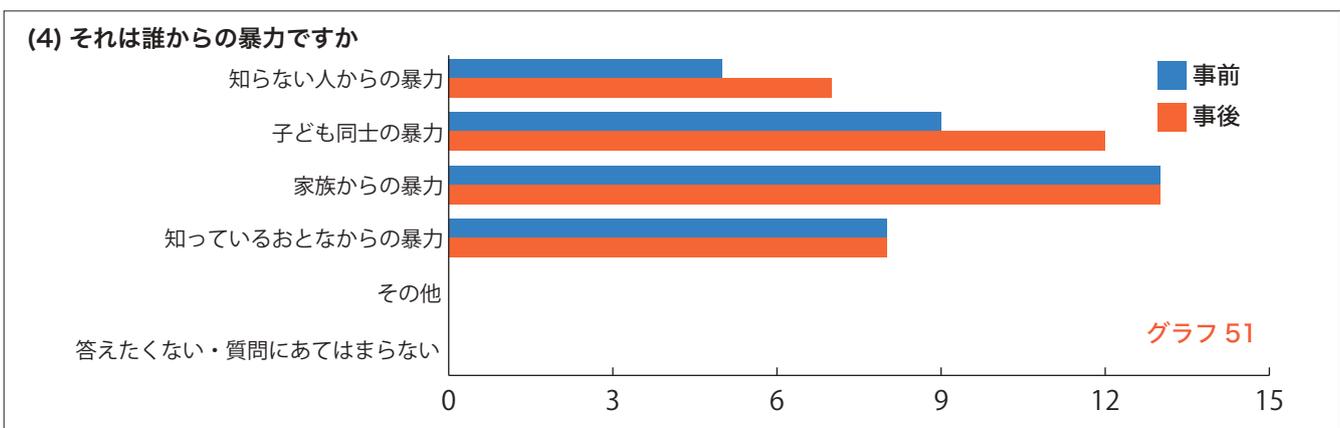
とても大切だと思うので、もっとたくさんの人が理解してほしいは、事前の5名から事後は11名と2倍以上に増えた。



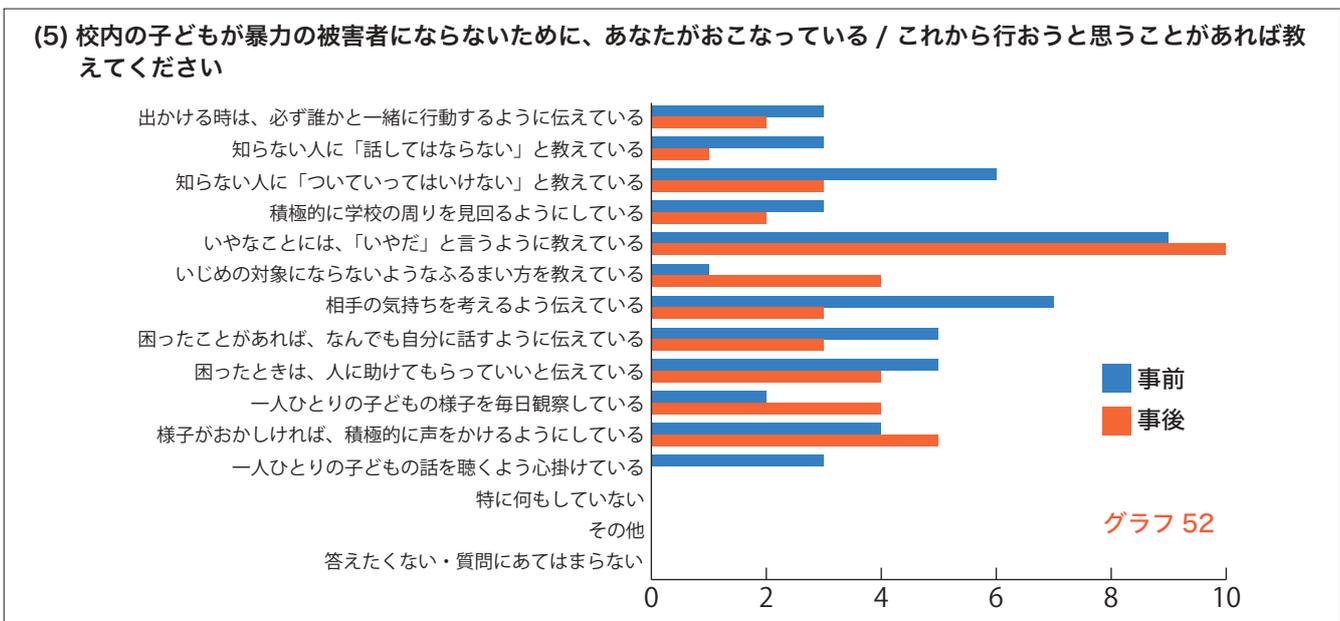
子どもへの暴力と聞いて、イメージすることを聞いたところ、事前には、親からの暴力13名、虐待事件13名が多かったが、事後には、連れ去り、いじめによる自殺、不審者情報、体罰、性暴力、どなり声、仲間外れ、あだ名や無視が増加し、子どもへの暴力のイメージが広がった。



校内の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと思うかを聞いたところ、よく考える・ときどき考えるは、あわせて事前には 11 名だったところ、事後には、12 名に増加した。



それは誰からの暴力ですか？と尋ねたところ、家族からの暴力が事前事後とも多く、子ども同士の暴力、知らない人からの暴力が事前から事後に増加した。



校内の子どもが暴力の被害者にならないために、日頃から行っていること、今後しようと思うことを聞いたところ、事前には、いやなことには、「いやだ」と言うように教える、相手の気持ちを考えるよう伝える、知らない人に「ついていってはいけない」と教えるが多かったが、事後には、いやなことには、「いやだ」と言うように教える、いじめの対象にならないようふるまい方を教える、一人一人の子どもの様子を毎日観察するなどが増加した。

〈3〉 考察

1. 保護者の結果より

〈回答者の属性〉

以下では、川崎区内在住の保護者のみの結果を報告します。

回答者の性別では、【グラフ1】より、女性が8割、男性が1割でした。今回の実施校3校のうち1校はオンラインでのワークショップだったため、女性・男性共に、リモートワーク中にオンラインで参加した人もいたと考えられます。

また、【グラフ3および4】より、同居する子どもの年齢は小学生が最も多く、家族構成人数では4人家族が半数を占めました。小学生のいる一般的な家族層が多かったと考えられます。

【グラフ6】より、PTA役員の経験では、現在している人と過去にしたことがある人をあわせると8割となり、子どもの教育への関心の高い人が参加していると考えられます。

〈事前〉

CAPプログラムの認知度について

【グラフ7】より、4割の人がCAPプログラムを知らなかったことがわかります。

今回の実施校3校のうち、2校は少なくとも5年以上、1校は少なくとも3年以上、毎年CAPを実施しているにも関わらず、4割が知りませんでした。学校内で実施されても周知が徹底されていないこと、あるいは周知されても保護者の関心が低いなどの理由が考えられます。

CAPおとなワークショップの参加経験について

【グラフ8】より、CAPおとなワークショップに初めて参加した人は74%でした。

しかし、2回目19%、3回以上7%と一定の割合の人が複数回参加していることがわかりました。

CAPおとなワークショップを参加しなかった理由について

【グラフ9】より、CAPおとなワークショップを知らなかったと答えた人が圧倒的に多く、CAPおとなワークショップについて知られていないのではないかとこの仮説を裏付けることができました。また、次に参加したいと思ったが、仕事や家のことがあり参加できなかったという人もおり、開催の日時や方法の工夫が必要であることも示唆されます。

CAPおとなワークショップの参加理由について

【グラフ10】より、参加理由は、「役員として参加するように言われたから」が圧倒的に多く、自発的ではなく消極的な理由であることがわかります。

子どもの権利の認知度

【グラフ11】より、「子どもの権利」について、「人に説明できるくらい知っている」保護者はゼロでした。「言葉だけ知っている」が6割であることから、なんとなく聞いたことはあるが理解していない人がほとんどである現状が浮かび上がり、子どもの権利について知られていないという仮説が裏付けられました。

川崎市子どもの権利条例の認知度

【グラフ12】より、「川崎市子どもの権利条例」について、「人に説明できるくらい知っている」人も「内容についてほぼ知っている」人もゼロであり、「知らなかった」と答えた人は4割でした。川崎市に子ども権利条例があることをPTA役員をしていますが、ほぼ知らないという現状がわかりました。

以上、事前の結果より、保護者には「CAP おとなワークショップについて知られていない」「子どもの権利について知られていない」「川崎市子どもの権利条例について知られていない」ことがわかりました。

<事後>

CAP おとなワークショップの満足度

【グラフ13】より、CAP おとなワークショップを受けて、全員が満足したと答えました。

事前の調査で、圧倒的に多くの方が役員だから参加としたと消極的に参加したにも関わらず、受けてみたら全員が満足したことから、今後のCAP おとなワークショップについての告知の際に満足度の高さをアピールしていくことができると考えられます。

CAP おとなワークショップを参加してみたの気持ち

【グラフ14】より、圧倒的多数の人が「子どものためだと思ったが自分のためだと思った」と答え、「思ったより短く感じた」「楽しかった」「ほっとした」という回答もありました。CAP おとなワークショップは、楽しい雰囲気の中で、子どもよりもまずは親であるおとな自身のためになることを告知していく必要があることがわかりました。

CAP おとなワークショップでの学び

【グラフ15】より、圧倒的多数の保護者が、CAP おとなワークショップで学んだことは、「子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、保護者としてどうしたらよいか」と答え、CAP おとなワークショップの目的と保護者の理解が一致していることが示されました。

CAP プログラムへの意見

【グラフ16】より、ほとんどの保護者が、「もっと保護者に受けてほしい」「教職員や地域のおとなにも受けてほしい」と答え、もっと多くのおとなが参加すべきだと考えていました。

【グラフ17】より、どんな人が参加したらいいかは、「学校全体の保護者」や、「学校の教職員全員」「自分のパートナー」と答えたことから、CAP プログラムを自分の周りのおとなが共通認識していくべきだと考えたことがわかりました。その理由としての記述からは、暴力は身近にあること、子どもに関わるおとなが子どもの権利について知っておくことなどをCAP プログラムによって学ぶべきであると考えていることがわかりました。

CAP おとなワークショップ改善のための提案

【グラフ18】より、どうしたら参加しやすくなるかという質問に対しては、「オンラインで開催する」が一番多く、他には、「開催の日程や時間帯を変更する」「一時保育サービスを提供する」「近隣の学校で開催された場合にも参加を可能にする」「開催時間を短くする」などがありました。

オンラインでの開催には、寸劇を見せられないなど制約も大きいですが、コロナ収束後にも工夫でき

ることとして選択肢に入れていくべきであろうと思います。また、これまで保護者向けは、平日の午前中がよいという固定観念がありましたが、オンライン等を活用すれば平日夜や土日などの開催も可能になると考え、学校側から希望を出してもらうこともできるだろうと思います。

継続参加の意思

【グラフ19】より、あなたは今後も参加したいと思いますか？という問いには、78%が「内容が違えば参加したい」と答えました。

CAPを実施する側にとっては、同じ内容を何回聞いても気づきは毎回違うものだと考えていましたが、参加する側にとっては内容が違っていると感ぜられることが必要だとわかりました。

CAP おとなワークショップの内容についての意見

【グラフ20】より、どんな内容なら参加したいかを尋ねたところ、「子どもとインターネット」「子どもの気質と成長の関係の理解」「子どもとのコミュニケーション」などの回答が多くありました。

CAP おとなワークショップでは、おとなが子どもの権利を理解し、子どもを暴力から守るためにできることを考えていくことを目的としていますが、保護者にとってこのように具体的なテーマについて知りたいと考えていることがわかりました。これらの具体的なテーマを取り入れながら、CAP おとなワークショップの本来の目的も伝えていく工夫が必要であることがわかりました。

以上、事後の結果より、CAP おとなワークショップについて知らなかった参加者も、参加後には全員が満足したことがわかりました。そして、他の保護者や家族、そして教職員ともCAPを共通認識にしたいと考えていることがわかりました。

参加しやすくするためには、オンラインにするという希望が多く、開催の日程や時間帯を変更する、保育サービスを行うこと、近隣の学校での参加も可能にするなどの意見がありました。

内容が違えばまた参加したいという回答も多く、実際には具体的な内容を求められていることがわかりました。

<前後比較>

子どもの権利についての意見の変化

【グラフ21】より、「子どもの権利」についての意見として、「とても大切だと思うので、もっとたくさんの方が理解してほしい」と答えた人が、事前12人から事後24人と2倍になったことから、CAP おとなワークショップ受講によって、「子どもの権利」についての理解が大きく深まったことがわかりました。また、「子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守っていきたい」という回答も増え、子どもの権利を守るために、おとなとして繋がろうという意識が広がったと思います。

子どもへの暴力についてイメージの変化

【グラフ22】より、「子どもへの暴力」と聞いてイメージすることは、事前には「虐待事件」「親からの暴力」が多かったですが、事後には「連れ去り」「いじめによる自殺」「不審者情報」「どなり声」「仲間外れ」「あだ名や無視」といった身近にある暴力が増えました。

CAPプログラムでは、暴力とは殴る・蹴るだけでは決してなく、言葉や態度も暴力になること、暴

力が身近にあることに気づくことから、暴力をなくしていくことを伝えています。しかし、おとなであっても、子どもへの暴力というと、ニュースで報道されるような惨たらしい虐待事件をイメージしていることがわかりました。

CAPへの参加によって、子どもへの暴力が身近にあること、でも、暴力に対してできることがあることを知ることができます。そのうえで、地域のおとな同士が子どもの権利に対して繋がろうという意識が醸成されるのだと考えます。

暴力への危機意識（自分の子どもが被害者になるかどうか）

【グラフ 23】より、自分の子どもが「暴力の被害者」になるかという危機意識を尋ねたところ、事前には「よく考える」0人、「ときどき考える」15人でしたが、事後には「よく考える」7人、「ときどき考える」18人とあわせて、「考える」と答える人が10人増えました。

また、【グラフ 24】で、それが誰からの暴力であるかについては、「子ども同士の暴力」、次いで「知らない人からの暴力」「知っているおとなからの暴力」「家族からの暴力」の順でしたが、いずれも事前より事後に回答数が増えました。

このことから、子どもが暴力に遭うかもしれないという危機感が低かった保護者が、CAPの受講によって、暴力が身近にあり被害に遭う可能性があることに気づいたということも、CAPプログラムの効果であると考えます。

子どもを暴力から守るための方策（被害者にならないため）

【グラフ 25】より、子どもが被害者にならないためにおとなとしてできること聞いたところ、「知らない人についていってはいけない」や、「一人で出かけるときは、行先を尋ね、帰宅時間を固く約束させる」が事前から事後に減り、「いやな時はいやだと言う」「困ったことがあれば自分に話すように伝える」「困った時は、人に助けてもらっていいと伝える」が事前から事後に増えました。

このことから、禁止や行動の制限ではなく、子ども自身ができることがあることに気づき、子どもの力を信じる姿勢に変わったことがわかります。

CAPプログラムでは、子どもの力を信じ、子どもがもともと持って生まれた力を引き出すこと（エンパワメント）をおとなに伝えています。前後の変化からCAPの目的が伝わっていること、つまりCAPプログラムの効果を実証することができました。

暴力への危機意識（自分の子どもが加害者になるかどうか）

【グラフ 26】より、自分の子どもが「暴力の加害者」になるかという危機意識を尋ねたところ、事前には「よく考える」5人、「あるていど考える」13人でしたが、事後には「よく考える」8人、「あるていど考える」15人とあわせて、「考える」と答える人が5人増えました。

また、【グラフ 27】で、それが誰への暴力であるかについては、「子ども同士の暴力」「家族への暴力」「知っているおとなへの暴力」が前後比較で微増しました。また、圧倒的に多いのは、「子ども同士の暴力」で加害者になるかもしれないという回答であり、「家族への暴力」「知っているおとなへの暴力」「知らない人への暴力」は少数でした。保護者にとって、子どもが暴力の被害者になることより加害者になることは想像しにくいこともわかりました。

子どもを暴力から守るための方策（加害者にならないため）

【グラフ 28】より、事前では、「相手の気持ちを考えるように教える」「暴力はダメだと教える」が多数でしたが、事後ではいずれも減少し、「困ったことがあれば、いつでも話していいと伝える」がゼロから22名に増え、「いやなことがあったら助けてもらっていいと教える」も大きく増えました。このことから、暴力をなくしていくために、暴力はダメだと禁止するのではなく、暴力をふるう人もまた何かに困っており助けが必要であるという CAP プログラムで伝えていることが理解されたことがわかります。

以上、前後を比較して、下記のように CAP おとなワークショップを受講した保護者が変化したことから、CAP プログラムの効果を実証することができました。

- ・「子どもの権利」について、もっとたくさんの方が理解してほしいと思えるようになった。
- ・子どもへの暴力へのイメージが広がり、身近なことも暴力だと気づいた。
- ・自分の子どもが被害者や加害者になるかもしれないという危機感は事前には低かったが、事後には気づきがあり、増えた。
- ・子どもが被害者にならないためにおとなとしてできることは、禁止や行動の制限ではなく、子ども自身ができることがあることに気づき、子どもの力を信じる姿勢が変わった。

2. 教職員の結果より

<回答者の属性>

以下では、川崎区内小中学校に勤務する教職員のみ結果を報告します。

回答者の性別では、【グラフ 29】より、女性が3割、男性が7割でした。性別割合が保護者と逆転していることがわかります。

【グラフ 30】より、回答者の勤務年数は、10年未満4割、10年以上20年未満3割、20年以上30年未満2割と、幅広い勤務年数の教職員が回答しました。

【グラフ 31】より、学校での立場は、クラス担任が圧倒的に多く、他には学年主任、教務主任、副担任などがありました。

【グラフ 32】より、教職員として何校目か尋ねたところ、3校目以上が半数を占め、2校目以上を合わせると7割でした。今回の実施校2校は、いずれも5年以上CAPプログラムを継続している学校でしたが、回答した教職員は、他校の経験もある人が多くいました。

<事前>

CAP おとなワークショップの参加経験について

【グラフ 33】より、CAP おとなワークショップに初めて参加した人は2割で、3回目以上が6割、2回目以上が2割と、保護者の結果と反対の結果となりました。

これは、今回の実施校が5年以上の継続校であり、教職員はほぼ研修参加を義務付けられていることが背景にあると考えられます。

CAP プログラムの認知度について

【グラフ 34】より、9割近くの方がCAPプログラムを知っていたと答えています。属性の中に、初任の教職員も存在することから、今回初めて知った、知らなかったという回答があったことも理解できます。

CAP おとなワークショップへの期待

【グラフ 35】より、最も多かったのは、保護者同様、「子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったとき、おとなとしてどうしたらよいか」という回答でしたが、「人間関係で課題のある子どもへの対応」「子どもと自分との関係をよくするためにどうしたらよいか」「クラス内の子どもが友人関係で困っているのでどうしたらよいか」といった具体的な回答もありました。このことは、過去にCAP おとなワークショップの参加経験がある参加者が多いため、ワークショップに期待することがより具体的になっている可能性、また、教職員が日ごろの子どもたちとの関係で抱えている悩みへの対応を期待していることが伺えます。

子どもの権利の認知度

【グラフ 36】より、「子どもの権利」について、「人に説明できるくらい知っている」教職員は7%、「言葉だけ知っている」と答えた人と合わせると半数でした。

子どもの権利についての意見

【グラフ 37】より、子どもの権利という言葉は「聞いたことはあるが、実際にはよく理解していない」と答えた人が6名いました。これは、初任者の数を大きく上回る回答数であり、課題であると考えます。

川崎市子どもの権利条例の認知度

【グラフ 38】より、「川崎市子どもの権利条例」について、「人に説明できるくらい知っている」教職員はゼロであり、「言葉だけ知っている」を合わせると半数でした。

以上、事前の結果より、

回答した教職員の8割がCAPおとなワークショップの参加経験があることから、CAPおとなワークショップに参加してもなお、教職員が「子どもの権利」および「川崎市子どもの権利条例」について理解していないことには、大きな課題があると考えます。

人に説明できるというのは、ハードルが高い選択肢であるとも思いますが、川崎市の教職員が、子どもの権利や子どもの権利条例について、子どもや保護者にも伝えていけるよう、教職員への啓発を積極的に進める必要性とCAPプログラムの内容を改善する余地があると考えます。

<事後>

CAPおとなワークショップの満足度

【グラフ 39】より、CAPおとなワークショップを受けて、「大変満足した」「満足した」を合わせると8割となりました。しかし、保護者は全員が満足したことに比べ、教職員では「どちらでもない」と答えた人が2割存在しました。今回回答した教職員の6割が3回目以上の参加経験があることから、一定数が内容に飽きている、あるいは研修に参加する義務があることから、どちらでもないと答えた可能性があります。

CAPおとなワークショップを参加してみたの気持ち

【グラフ 40】より、上記を裏付ける回答として、「思ったより短く感じた」があります。義務として参加したが終わってみたら短く感じた、あるいは、「子どものためだと思ったが自分のためになった」「ほっとした」「楽しかった」と肯定的な気持ちが語られました。

CAPおとなワークショップでは、子どもの権利を守るため、おとなである保護者や教職員自身が自分の権利を守ることの大切さを伝えていますが、繰り返し参加しても、改めて自分自身の権利に気づくことができると考えます。

CAPおとなワークショップでの学び

【グラフ 41】より、CAPおとなワークショップで学んだこととして、「子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、教職員としてどうしたらよいか」という回答がもっとも多くありました。CAPおとなワークショップの目的と教職員の理解が一致していることが示されていると思います。

継続参加の意思

【グラフ 42】より、あなたは今後も参加したいと思いますか？という問いには、29%が「何度でも参加したい」と答え、57%が「内容が違えば参加したい」と答えました。

保護者では3%だった「何度でも参加したい」が教職員では29%存在することについて、回答した教職員では2回目以上の人が8割であることから、2回以上参加してもなお何度でも参加したいと思えるプログラムであること、継続して受講する意義が認められたことがわかります。

CAP おとなワークショップの内容についての意見

【グラフ 43】より、どんな内容なら参加したいかを尋ねたところ、「保護者への対応」と「具体的な事例を用いた対応」がそれぞれ8名と多く、他に「加害児童への対応」「児童虐待への対応」「障がいのある子どもへの対応」があがりました。

教職員向け CAP おとなワークショップを継続している学校であれば、ぜひこれらのテーマを毎年実施前に打ち合わせをして決めて導入していきたいと考えています。同時に、これらのテーマを扱うためには、保護者と一緒に受講するのではなく、教職員のみで CAP おとなワークショップである必要があります。なぜなら保護者と一緒に保護者への対応や児童虐待への対応を扱うことは難しいと思われるからです。

今回の実施校2校のうち、1校は保護者と教職員が同時に受講する形でした。その場合には、保護者と教職員が共通認識をもつために、一緒に学ぶテーマ（今回の場合は、不審者対応であった）を設定することが望ましいと考えます。

CAP プログラムへの意見

【グラフ 44】より、他にどんな人が受講したらよいかについて、「子どもに不適切な養育をしている保護者」が8名、「学校の保護者」「子育てに悩んでいる保護者」が各7名で多数を占めました。

教職員からは、子育てに困っている保護者が一定数存在し、そういった保護者に受けてほしい、つまり何らかの方策を見つけてほしいという気持ちを感じ取れます。

実際には、困っている保護者ほどワークショップに参加しにくい、参加できないのが現状なのだろうと思いますが、そういった保護者に対して教職員としてできることを CAP おとなワークショップの中で提供していきたいと考えています。

CAP 子どもワークショップの参加経験

【グラフ 45】より、自分が担任するクラスで CAP 子どもワークショップを経験した人は、全体の8割でした。

CAP 子どもワークショップ受講後の子どもの変化

【グラフ 46】より、上記で経験のある教職員に、子どもの変化を尋ねたところ、「安心・自信・自由がクラスの中のキーワードになった」が多く、「子どもが困っていることを自分やおとなに相談するようになった」と答えるなど、CAP 子どもワークショップの効果を実感していることがわかりました。

CAP おとなワークショップへの教職員の参加意義

【グラフ 47】より、教職員の参加意義について「子どもの権利について理解を深める」「子どもが相談してきた際の対応を学べる」などが多く、教職員が CAP おとなワークショップに参加する意義を理解されていることがわかりました。

以上、事後の結果より、

子どもの権利を守るために、教職員が自分自身の権利を守ることの大切さが理解されていること、同時に、保護者対応で苦勞している教職員が一定数存在すること、具体的な対応方法が CAP おとなワークショップに求められていることがわかりましたので、ぜひ今後活かしていきたいと考えています。また、CAP 子どもワークショップにも参加経験のある教職員からは、子どもたちが CAP を受けて変化していることが語られ、教職員も CAP おとなワークショップを受講することによって、CAP 子どもワークショップの効果が得られることが理解されていることがわかりました。

<前後比較>

子どもの権利についての意見の変化

【グラフ 48】より、「子どもの権利」についての意見として、「とても大切だと思うので、もっとたくさんの人が理解してほしい」と答えた人が、事前 5 人から事後 11 人と 2 倍になったことから、保護者同様、CAP おとなワークショップ受講によって、「子どもの権利」についての理解が大きく深まったことがわかります。また、「聞いたことはあるが実際にはよく理解していない」と答えた人は事前 6 名から事後 2 名に減り、受講によって理解できたことがわかります。参加経験がある教職員が 8 割であることから考えると、1 回の受講によって、理解できても 1 年経つうちに忘れてしまうこともあることが伺えるため、繰り返しの受講の必要性が示されていると考えます。

子どもへの暴力についてイメージの変化

【グラフ 49】より、「子どもへの暴力」と聞いてイメージすることは、事前には保護者同様、「虐待事件」「親からの暴力」が多かったですが、事後には「体罰」「性暴力」「連れ去り」「いじめによる自殺」「不審者情報」といった身近にある暴力が増えました。

継続校での教職員向け CAP おとなワークショップでは、毎回どの暴力に焦点を当てるかを選んでいきます。その時々テーマが回答に影響していることも考えられます。

暴力への危機意識（校内の子どもが被害者になるかどうか）

【グラフ 50】より、校内の子どもが「暴力の被害者」になるかという危機意識を尋ねたところ、事前には全体の 3 割を超える人が「よく考える」（5 人）と答えました。【グラフ 23】の保護者の事前で「自分の子どもが被害者になるとよく考える」と答えた人はいなかったため、保護者より教職員のほうが日ごろの危機意識がある程度高いことが伺えます。

また、【グラフ 51】で、それが誰からの暴力であるかについては、「家族からの暴力」が一番多く、ついで、「子ども同士の暴力」「知っているおとなからの暴力」「知らない人からの暴力」の順でした。事前から

事後へ増えてはいるものの、大きな差はありませんでした。

保護者では「子ども同士の暴力」が多く、教職員では「家族からの暴力」が多いという違いが出たことから、教職員は子どもが家族から暴力を受ける、つまり児童虐待を心配していることが伺えます。

子どもを暴力から守るための方策（被害者にならないため）

【グラフ 52】より、子どもが被害者にならないためにおとなとしてできることを聞いたところ、事前・事後ともに、「いやなことには、いやだと言うように教える」が多く、CAP プログラムが伝えていることと一致していることは、継続して参加している教職員が多かったためだと考えます。

「知らない人についていってはいけない」という禁止が事前から事後に減少していることも、CAP プログラムの効果だと捉えられます。

また、CAP では相手の気持ちではなく自分の気持ちをまず大切にすることを伝えているため、「相手の気持ちを考えるように伝える」が事前から事後へ減少していることも、CAP プログラムの効果として捉えられます。

暴力への危機意識（校内の子どもが加害者になるかどうか）

【グラフ 53】より、校内の子どもが「暴力の加害者」になるかという危機意識を尋ねたところ、「よく考える」5人、「あるていど考える」6人が多く、事前・事後に変化はありませんでした。

また、【グラフ 54】で、それが誰への暴力であるかについては、「子ども同士の暴力」が事前・事後共に最も多かったですが、「家族への暴力」は事前6名から事後11名と倍増しました。

子どもを暴力から守るための方策（加害者にならないため）

【グラフ 55】より、事前では、「相手の気持ちを考えるように教える」「暴力はダメだと教える」が多かったですが、事後では「いやなことがあったら助けてもらっていいと伝える」「困ったことがあれば、いつでも話していいと伝える」「一人ひとりの子どもの話を聴くよう心掛ける」が増えました。

また、「一人ひとりの子どもの様子を毎日観察している」が事前から事後に大きく減少したことは、教職員が日々子どもの様子を観察しなければならないと考えていたことから少し解放され、子ども自身が話してくるのを待てばいい、つまり子どもの力を信じようとする変化があったことはCAP プログラムの効果だと考えます。

しかし、継続して参加している人も多い中、「相手の気持ちを考えるよう教える」「暴力はダメだと教える」が多いことは、教職員がどうしても禁止や相手のことを考えさせるという指導を日常的に行っているという背景も垣間見ることが出来ました。

前後比較の結果より、

CAP おとなワークショップを2回以上受講した教職員が8割いる中でも、前後比較でCAP プログラムの効果が表れたことから、CAP おとなワークショップを繰り返し受講することの必要性が示唆されました。

また、教職員が求める具体的な対応スキルなどを提供するためには、教職員だけの開催が望まれること、開催前の打合せを丁寧に行う必要性が明らかになりました。

III. いのちキャンペーン 2021 実施報告

〈1〉 まとめ

毎年 2 月にエンパワメントかながわが実施してきた「いのちキャンペーン」を今年は、本プロジェクトの報告会と位置づけ、川崎市教育文化会館からオンラインで開催しました。

タイトル：いのちキャンペーン 2021～子どもの権利でおとなが繋がる～

日時：2021 年 2 月 14 日（日） 14 時から 16 時

実施方法：川崎市教育文化会館よりオンライン（一般参加者はオンラインのみ）

主催：認定 NPO 法人エンパワメントかながわ

後援：川崎市教育委員会

実施概要：

1. 映像メッセージ テーマ曲「わすれない」
2. CAP プログラムの紹介
3. 調査報告（トヨタ財団しらべの助成「子どもの権利 x かわさきの未来プロジェクト」）
4. パネルディスカッション

「今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないために～子どもの権利でおとなが繋がる～」

パネリスト：西野博之氏（認定 NPO 法人フリースペースたまりば理事長）、宮越隆夫氏（川崎区地域教育会議議長）、鈴木健氏（ふれあい館副館長）、大野恵美氏（川崎市教育委員会）、圓谷貴氏（弁護士・神奈川県少年友の会）

コーディネーター：阿部真紀（認定 NPO 法人エンパワメントかながわ理事長）

参加者数：オンラインより 63 名 会場には講師 6 名、スタッフ 13 名 合計 82 名が参加

当日の様子をオンラインにて、後藤恵理香氏がグラフィックレコーディングを実施

当日の様子を下記に報告します。

<趣旨説明>阿部真紀（エンパワメントかながわ理事長）



2015 年 2 月、ここから程近い多摩川の河川敷で悲しい事件が起きました。中学 1 年生の上村遼太君が亡くなったこと、それは日本中に大きな衝撃を与えました。私たちは、この川崎で、川崎子どもの権利条例に基づき、CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを小学校で毎年提供してきました。その川崎で起きたこの事件は私たちエンパワメントかながわにとっても、大きなショックでした。流れ続ける報道の中で、ある女子が「困っているならおとなに助けてもらえばいいのに」と彼に伝えたけど、彼は「そんなことできるはずない」と答えたことを知りました。彼は小学校は川崎ではなかったので CAP を受けていなかったのです。もちろん、CAP を受けていても起きたのかもしれませんが、私たちができることは何なのかを考えました。

私たちは、当時の川崎市教育委員会の課長に、彼が通っていた中学校でCAP（中学生暴力防止）プログラムを実施したいと申し出ました。すぐに校長に会いに行くことになり、その年の11月に実施できることが決まりました。当時の中学校は1学年6～7クラスありましたが、いただけたのは1日だけ。私たちはクラス単位に3名のスタッフが入りますから、1日で実施するにはスタッフが足りません。私たちの呼びかけに、一番遠くからは、山形県からCAPのメンバーが駆け付け、全部で23名のスタッフで、すべてのクラスにCAPを届けました。でも、川崎には、他にもたくさんの中学生在います。今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないために、私たちはそれから、かわさき市民しきんさんにご協力をいただき、寄付を集め、中学生暴力防止プログラムの提供を始めました。今では、今日来ていただいている大野課長のご尽力により、市の予算がついて、一部ですが中学校に届けることができている。

本日ご参加の皆さんより子どもたちへのメッセージをいただいています。こちらをご覧ください。

	メッセージ
県外	子供は、たくさん大人の守られて安心して育ってくれたらと願います。
	自分に嘘はつかないで
	今はコロナで辛いだろうけれども頑張っで欲しいです。
	一人ひとりがかけがえのない大切な存在
神奈川県内	コロナ禍によりたくさんの方の貴重な体験ができず、ほんとうに大変な一年だったと思います。私たち大人にとっても大変な一年ですが、一緒に前を向いていきましょう。
	あなたはかけがえのない存在であり、誰にもかわることができないオンリーワンです。困ったとき、悩んだとき、不安なときは、安心できる人にSOSを出してください。頼ることはあなたの力です。
	自分を大事にして欲しい
	いのちあつての物種
川崎区以外の川崎市	安心して暮らせる川崎になることを願っています
	大人になっても、今の気持ちを忘れないで
	誰か一人でもいいから、安心できる大人に出会って欲しい
	安心自信自由
川崎区	自分の気持ちを大事にしようね。
	みんなのそばに居られる大人になりたい、あの日から私の気持ちも変わりました。そんな大人も町中にいることを知ってくださいね。
	相手のことを思いやれるようになってください。
	今とても悩んでいて大変な時期だけど乗り越えたら辛かった分楽しく笑顔で沢山過ごせるよ！！一緒に乗り越えよう！
	愛されてる自信を常に持っててね
	なかなかくっつけない今ですが、心はそばにいたいですね☺

私たちエンパワメントかながわが子どもたちに伝えたいことは、困っていたら助けてもらっていいんだよ、というメッセージです。川崎には、子どもの権利条例がある、そして今日お集まりいただいたパネリストの皆さんのように子どものために一生懸命活動されているおとながたくさんいらっしゃいます。でも、私たちおとなのメッセージは本当に子どもたちに届いているのでしょうか？

この1年、コロナによって、ますます苦しい思いをして、誰にも声をあげられないでいる子どもたちがどこかにいるかもしれません。

今日は、あらためて、今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないために、まさに、子どもの権利を守っていくために、おとなができることを考えていく時間としたいと思います。私たちが実施してきたCAPについての課題も提起し、皆さんからのご意見もいただきたいと考えております。

<映像>テーマ曲「わすれない」(大野彰作詞・作曲)を多摩川の河川敷より、大野天翔さんが歌う映像を流しました。



<中学生暴力防止プロジェクトの説明>浜谷典子(エンパワメントかながわ理事)

CAPプログラムでは、子どもたちに「困っていたら、おとなに助けてもらっていい」と伝え、おとなには子どもの話をどうやって聴くのかそのスキルを伝えることで、子どもとおとなをつなげることが目的であることが説明されました。



<子どもの権利学習(CAP)プログラム派遣事業について>川崎市教育委員会 大野恵美氏

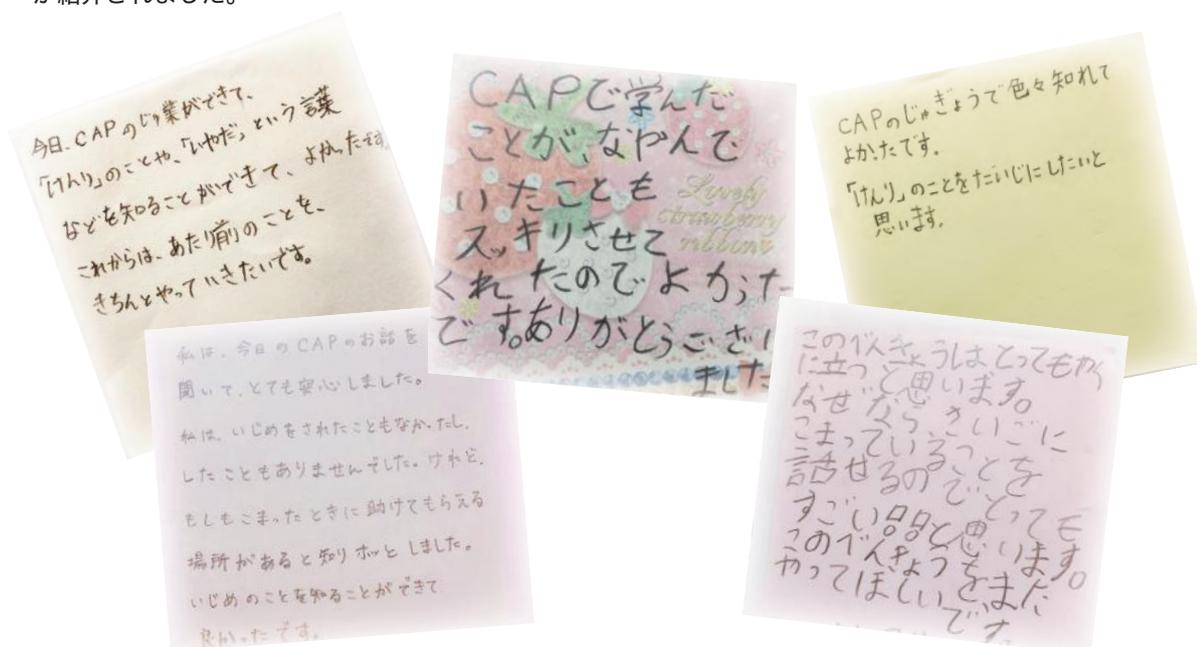


川崎市教育委員会では、平成13年度より現在に至るまでの20年間、「子どもの権利学習(CAP)プログラム派遣事業」を市の事業として実施している(中学生向けプログラムは平成27年より)こと、「川崎市子どもの権利に関する条例」第7条に基づき、学校教育及び家庭教育の中で子どもの権利についての学習が推進されることをねらいとしていることが説明されました。

今年度のCAP子どもワークショップより

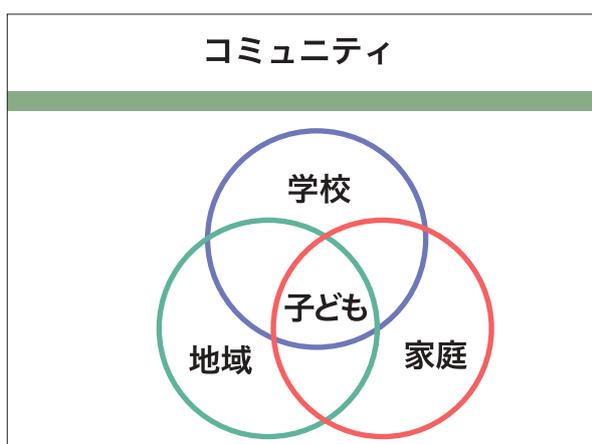
<CAP 小学生向けプログラムについて>坂梨礼美・藤井和子 (いずれもエンパワメントかながわ理事)

CAP 小学生向けプログラムでは、すべての子どもに安心して自信をもって自由に生きる権利があることを伝え、もし暴力が向かってきた時には、「いやだと言ってもいい」「にげてもいい」もしそれができなくても「あなたは決して悪くない」「誰かに話してたすけてもらっていい」ことを伝えることを報告。そして、CAP を受けて子どもたちが自分の権利を知り安心したこと、また、おとなに助けてもらっていいと学べたという子どもたちの感想が紹介されました。



<CAP おとなワークショップで伝えていること>新濱ゆたか (エンパワメントかながわ理事)

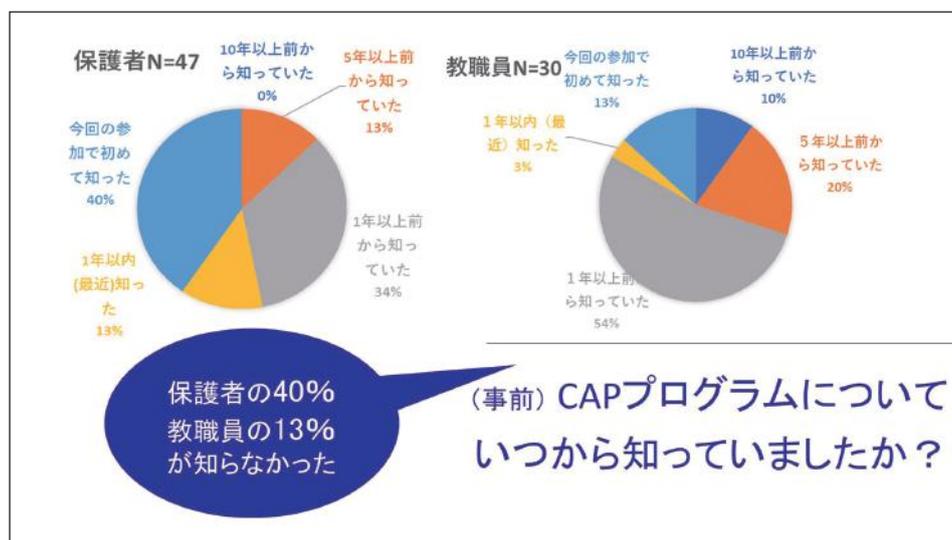
あらゆる暴力から子どもを守るためにおとなとして何が出来るのかを、CAPプログラムを紹介しながら一緒に考えることが、CAP おとなワークショップの目的です。CAP の理念である3つの柱、1. 人権意識、2. エンパワメント、3. コミュニティが説明されました。



地域のおとなを対象としたCAPワークショップより

＜トヨタプロジェクトの説明と調査結果報告＞阿部真紀

本プロジェクトの説明と調査結果報告を行いました。ここでは、川崎区外も含む川崎市内全体の集計結果として、「CAPプログラムについて、保護者の40%、教職員の13%が知らなかった」「子どもの権利を知っているのは保護者の21%、教職員の53%」「川崎市子どもの権利条例を知っているのは保護者の2%、教職員の50%」という結果が報告されました。



＜地域教育会議がめざすもの＞川崎区地域教育会議議長 宮越隆夫氏

「子どもがいきいき育つまち・おとも楽しく学べるまち」をつくり、そして、あらゆる人々が共に生きる地域社会をめざす地域教育会議のさまざまな取組が紹介されました。なかでも、「子ども若者居場所プロジェクト in 富士見公園～パークチャレンジかわさき」が台風やコロナ禍にあいながらも開催され、多くの子どもたちが楽しんだ様子が報告され、「川崎区にも夢パークを」という提案があげられました。



＜外国につながる子どもたちへの取組＞川崎市ふれあい館副館長 鈴木健氏

川崎区では、人口の7%くらいが外国につながる人であり、多様性・多文化であることが地域の特徴でもあります。「しょうらい、しやわせなかていを作れますように」という七夕の短冊から、外国につながる子どもたちやその家族の現状やその思いが紹介されました。

<子どもの居場所づくり>認定 NPO 法人フリースペースたまりば理事長 西野博之氏

事件を繰り返さないためにも、子どもの居場所が大切であることを夢パークの実践からの報告。

「やってみたいことに挑戦できる環境づくりが必要」「遊びが人として生きていく力を育む」「障がいのある子どもも、非行少年も、不登校の子どもも来れる場所」「何もしないことを保障する場所」「生きている、ただそれだけで祝福されること」「困った子ではなく困っている子」「言葉にできない子どもの SOS を発見する」「子どもの試し行動を自分に気づいてほしいという SOS としてキャッチする」などたくさんのキーワードが示されました。最後に、子どもが困った時に相談してみようと思えるおとな、つまり「子どもから選ばれるおとな」になれているかが問われました。

フジテレビ「フューチャーランナース」の過去の動画よりフリースペースたまりば、そして夢パークの取組についての映像が紹介されました。

後藤恵理香氏よりグラフィックレコーディングの途中経過が報告されました。

<パネルディスカッション「今を生きる子どもを被害者にも加害者にもしないために～子どもの権利でおとなが繋がる」> (以下、パネリストの敬称略)



阿部：今日、ここに、子どもたちのために活動する仲間がそろったことが大きな一歩だと思います。やはり川崎市に子どもの権利条例があることは素晴らしい。ただ、課題もあります。この子どもの権利条例が知られていないことです。何ができるか、今からパネリストの皆さんとオンラインで参加している皆さんと議論していきたいです。

大野：教職員や保護者に対して子どもの権利条例について研修を行っています。その最後に、平成 13 年子どもの権利条例子ども委員会でもとめられた「子どもたちからおとなへのメッセージ」を紹介します。

おとなのみなさまへ

まず、おとなが幸せにいてください。

おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。

おとなが幸せでないと、子どもに虐待とか体罰が起きます。

条例に「子どもは愛情と理解をもって育まれる」とありますが、

まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。

子どもはそういう中で、安心して生きることができます。

その反響がとても大きいので、おとなの側にもつながる必要があるのだと感じています。おとなもまたつながりあっていく必要があります。おとなも、助けてもらっていいのではないのでしょうか。

宮越：子どもの権利条例は、子どものためだけにあるわけではないのです。ただ、認知度をあげればいいわけではないでしょう。女性蔑視が騒がれているが、自分たちの中にある無意識の差別意識があることに気づいていく必要もあります。子どもは保護の対象であるけれど、子どもたちと対等な権利者として接していきたいです。

鈴木：子どもの権利を知識でなく、誰もが大切だと思えるようになるために、一つひとつ考えていく必要があります。「ありのまま」といいますが、実は、それを守るためには大変。覚悟をもっておとなが受け止めることです。「助けてくれる人がいるって、初めて知った」と話した子どもがいました。支えられた経験があって初めて、「助けて」と言えるのではないのでしょうか。子どもの居場所で子どもを守るためには、家庭を支える必要があるのです。それを具体的にデザインしていきたいです。

圓谷：先ほど、おとなとおとなのつながりが大切だと話しました。少年事件に関わり、少年本人から、家に帰らず何も食べていないという話を聴きます。その家族に会うと、何らかの理由があって、子どもとの関係に困っていることがわかってくるのです。おとなもまた、困っていることが多い。おとなもまた、相談しやすい環境が必要でしょう。

差別意識という言葉がありました。事件を起こした少年の氏名を明らかにするという案が出てきており、その背景に加害者に対する差別的な考えがあることを感じています。

阿部：西野さんに質問が来ています。「子どもの自己肯定感が下がっているという話がありました。それはいつからですか？ コロナの後、どうなるのでしょうか？」

西野：この活動を始めた35年前から感じています。コロナでつながりが絶たれ、子どもの自殺が増えています。毎月40人の子どもが命を絶っているのです。子どもと女性が生きづらい社会になっています。コロナの感染対策で人と離れるといいます。自殺対策には、つながることが必要。それが、今、とても難しいです。つながりが絶たれない社会をどうつくるかを考えなくてはならないと思います。

阿部：だからこそ、今、私たちは、何ができるのか？ おとなも助けてもらっていいということが見えてきました。

西野：「弱さを出せる社会」が必要です。6年前の事件で、被害者も加害者も、社会から見えていなかったのです。誰か気づいて、声をかけられなかったのでしょうか。「家のような場」が必要。安心なおとなが関わってくれる場が必要。親もまた「助けて」が言えることが必要。社会全体で、一歩踏み込んだ場所を増やしていく必要があるのです。あの事件以降問われているのは、街や地域が変わったかということでしょう。地域の中に「飯食ってないなら、うちで食っていきな」「だいじょうぶだよ」という家が必要なのです。

阿部：一歩踏み出すのは、気づいた人から、どんなことでもいい。今、全国から反響が来ています。「他人様に迷惑をかけてはいけないと言われてきた親世代がある」という意見が来ていますが、「助けてもらっていいんだよ」というのは、子どもにもおとなにも伝えていく必要があるのではないのでしょうか。参加者から、「川崎南部に夢パー

クができるのを期待しています」という声もきています。

今日のテーマは、「今を生きる子どもたちを被害者も加害者にもしないために、子どもの権利でおとなが繋がる」です。最後に一言ずつお願いします。

大野：弱さを出せる社会は、とても大切なキーワードだと思います。おとなも子どもも、つながりが必要。学校教育では、ギガスクールやオンラインの活用が始まっています。新しいツールを活用しながらどんな形でもつながれることを模索したいです。コロナ禍の中で、学校の役割は、友達に会えることや、人と出会えることにあることが確認できたので、大切にしていきたいです。

宮越：30年ほど前から活動してきましたが、初めのころは子どもが元気すぎました。今は、若者が意見表明しないことを心配しています。中高生が元気になって、クリエイティブで活躍できる地域にしていきたいです。それが居場所の力だと思います。

鈴木：今、子どもの力が失われているのを感じています。そこを考えたいです。コロナ禍で、人に出会えないことを日々日々悩んでいます。今、たくさんの方が集まることはできないが、孤立している子どもたち、ひとりひとりと出会うつながることならできるのではないのでしょうか。家みたいな場所が欲しい。家が壊れている子どもたちに、家を取り戻したいです。社会のまなざしがもっと温かくなるといい。安心して失敗できる、転べる社会をつくりたいです。

圓谷：弁護士として関わるのは、被害者・加害者となった子どもたちです。回復や立て直しは必ずできるということを言いたいです。子どもがちょっと頑張ろう、親が変わろうと思うきっかけは、必ず見つけられると実感しています。変わることはできると信じて、関わっていききたいです。

西野：子どもの権利条例の認知度が低いことは、大変ショック。今年、子どもの権利条約フォーラム全国大会が川崎で開かれます。市民みんなでぜひ取り組んでいきたいです。

家が欲しいというのは、ハウスではなくホーム。ホームになるために人のまなざしが必要。「だいじょうぶだよ、なんとかなるよ」というおっちゃん、おばちゃん、おにいちゃん、おねえちゃんがいる場所を作っていきたいです。「人に迷惑をかけちゃいけない」と思わされている人はとても多いです。「死にたいけど、親に迷惑をかけるから死ねない。一瞬で消えてなくなることができるなら消えてなくなりたい」と話す大学生がたくさんいました。若者にそう思わせていることが社会の課題であると受け止めなくてはいけないのです。自立とは、なんでもひとりで行えることではなく、「助けて」が言える力だと言いつづけています。

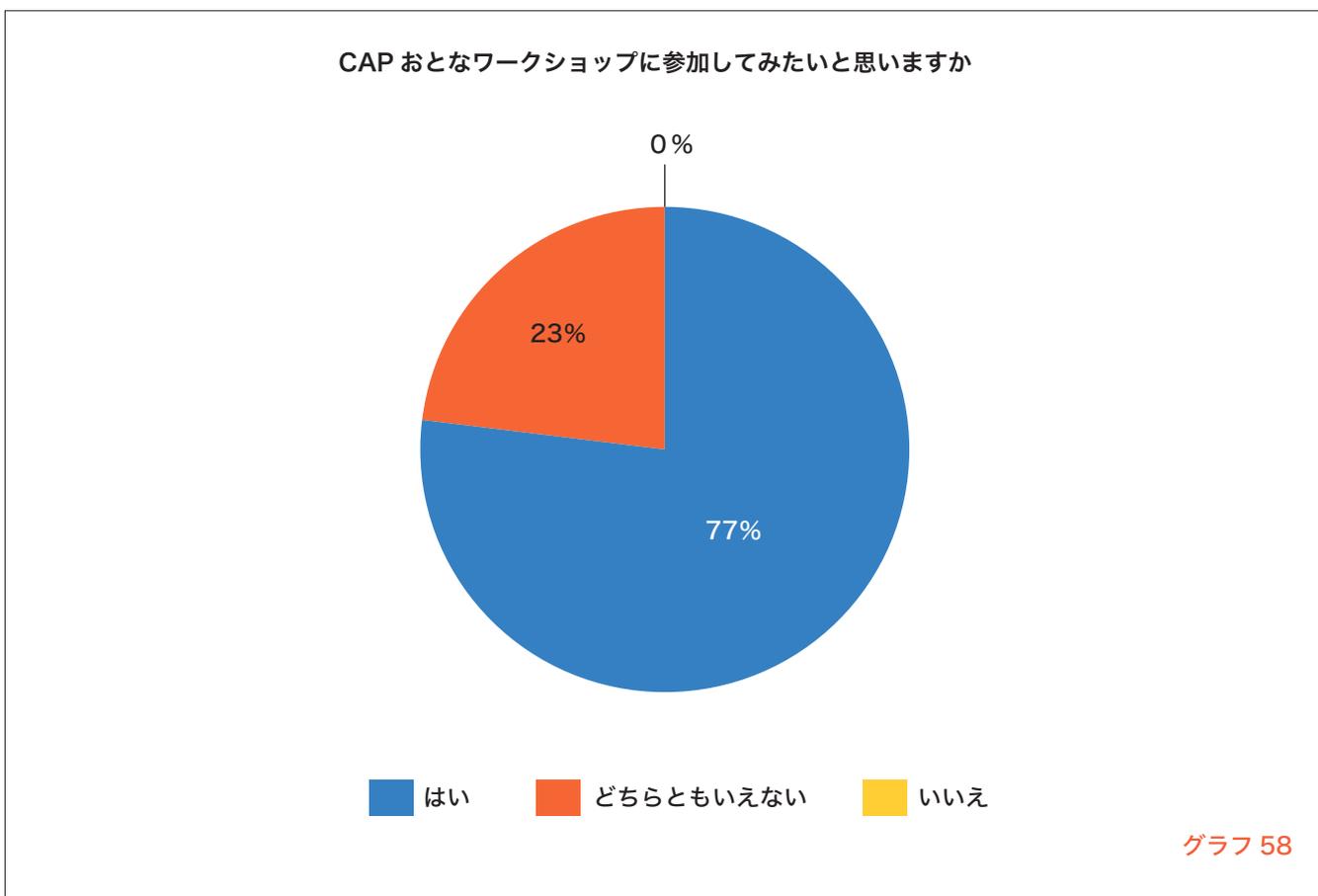
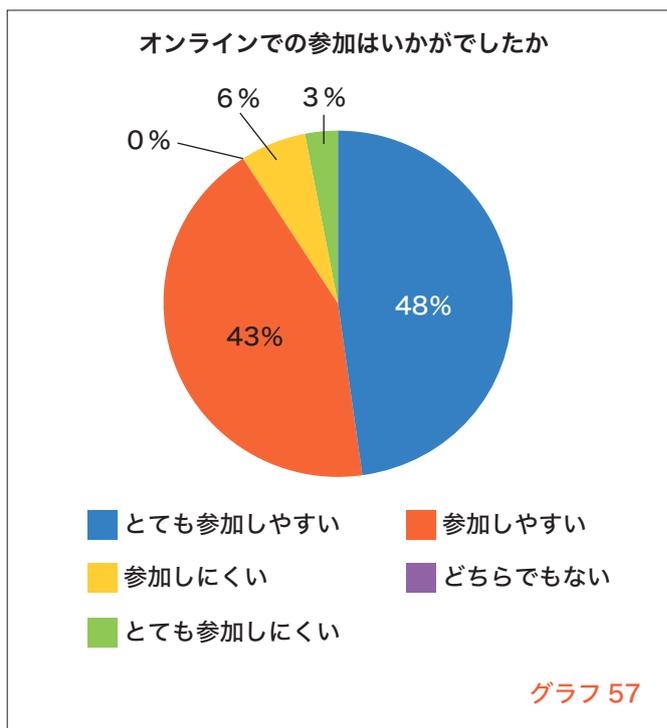
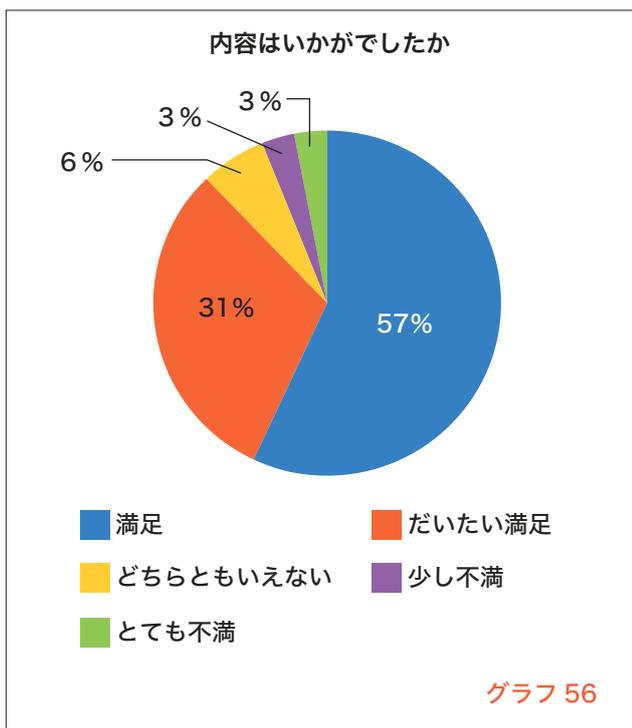
お互いさまで助け合える社会を改めて作っていききたいです。

阿部：子どもの権利をあたりまえの社会にしていきたいと考えて活動しています。エンパワメントかながわのキーワードは、「暴力を受けていい人はひとりもない」。この言葉でつながっていききたいです。

後藤氏より、再度グラフィックレコーディングが紹介され、本日のキーワードとして「おとなが幸せでいてほしい」「おとなが覚悟をもって受け止める」「子どもたちと対等な権利者」「おとなも相談できる場」「弱さを出せる世の中」「手放さないまちづくり」などがあったことが報告されました。

テーマ曲「わすれない」で締めくくられました。

<当日の参加者のアンケート結果>



自由記述（抜粋）

<p>子どもの自殺数に衝撃でした。話を聴けるオトナであろうと思います。</p>
<p>CAPを知れたこと、良かったです。</p>
<p>八王子でプレーパークを広める活動をする上でしっかりと覚悟をもって子どもの居場所を作っていきたいと思いました。頑張ります。ありがとうございました！</p>
<p>宮越さん、鈴木さんと繋がりが有り、かの事件の被害者、加害者のどちらの中学校でも、仕事してきて、今は、加害者が中退した定時制高校で仕事をしている者として、いろいろ思い出しながら、今できることを考えさせてもらえました。ありがとうございます。</p>
<p>大人同士のつながりの大切さ。子どもと同様に大人も大事にされること。 どういう地域を作っていくのか。キーワードをたくさんいただきました。</p>
<p>1番の気づきは、今さらですが「大切な人」の言葉の前に「かけがえのない」という言葉があることです。相手にとっても自分にとっても他に代わる人がいない「かけがえのない」ひとだから、あなたのままでいいし、限りある命を大切に生きて欲しいと思います。</p>
<p>自分の立場で何ができるか、改めて考えるきっかけになった。 まずは子どもが生まれた時、子育て中からに周りに助けてくれる存在がいるかどうか。何かというと学校の責任が問われるが、保健所や子育て支援センター、保育園など小さい時からの関わりが大切だと思った。頼られる大人（おばちゃん）として存在していきたいです。</p>
<p>こんなにも素晴らしい活動をしている大人が、こんなにたくさんいる事は希望です。子どもたちの問題は、大人の問題でもありました。大人ぶって子どもを守る、という事だけではなく、自分たちの問題も真剣に取り組みたい。そんな中で子どもたちにも助けてもらうこともあるかも知れない。子どもの話を「一生懸命」聴く、毛穴から染み出すように「あなたはあなたのままでいい」と心から思い、伝えていける人間になりたいと思いました。</p>
<p>「おとなが幸せでいてください」という言葉がとても心に残りました。おとなと子どもを別々の存在として考えるのではなく、延長線上に一緒にいる存在であり、成長という時間軸の中でイコールで繋がっている。子どもにとっておとなは将来への希望、道標、モデルでありたい。おとなが幸せに生きていなければ子どもはおとなになりたくない。子どもの権利を尊重するには、おとなの安心・自信・自由も大切と改めて思いました。ありがとうございました。</p>
<p>「居場所」って大人にとっても子どもにとっても大切ですね。居場所ってどこにあってもいいと思います。街中でのあいさつ、よく見かける子に声をかけるでも半歩でも前に入る行動が自分にもできるといいなと思いました。</p>
<p>今日はありがとうございました。 ・上村君のこと、加害者側のこと、それぞれを受け止め、決して逃げずに考え行動している大人たちが沢山いることを知りました。 温かな気持ちと勇気をもらいました。 自分にできることは何か考えられました。 ・CAPの大人のワークショップを初めて知りました。もし土日や夜などにオンラインでやっていたら、働くママ友に声をかけて、ぜひ参加したいと思いました。</p>
<p>今精神保健福祉士資格の取得を目指している介護士です。勉強を進める中で自分には何が出来るのか、色々な活動の知識を深めようと努めています。「大人が幸せであること」、どんな活動も同様にして、人権、差別、偏見というような言葉は共通していることを改めて実感しています。エンパワメントかながわの皆さん、パネリストの皆さんの熱意は私にはまだ身に余るものがあり、勉強や経験が足りないと認識をあらたにしました。私も皆さんのような活動ができるよう頑張っていきたいと思います。大変お忙しい中で、休日にも関わらず貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました！！</p>

子どもの権利についての最前線の間ではここまでたくさんの議論がされているのに驚きを感じました。

【いのちの重さ／反射としての人権感覚】

冒頭の多摩川河川敷から届けられたテーマ曲「わすれない」にこころを驚づかみにされた。

パネルディスカッションを拝聴して、「子どもの権利」と言葉にすると、そこにどれだけ自分ごととして、そして守るための具体的な行動ができるのかが、その言葉の内実として求められているのだと感じた。また、人権に関しては、人権知識と人権意識の必要性は当然であるけれども、触覚レベルの「反射」のような人権感覚による思考と行動が求められているのではないかと思う。知識だけにとどめない、実際に出会い、かかわり、ふれあう、そしてつながることをとおして、ひとりひとりの内に権利は生まれてくるのだろう。そうなるためにいったい何が必要なのか、何に取り組んでいけるのかを考えていきたいと思った。

代替可能性のないいのちの固有性と独自性を深く感じる時間だった。いのちの重さや大切さを「いのちは地球より重い」とよく表現されるけれども、地球をはじめとした何ものとも比較してはいけないのだと思う。

西野博之さんと鈴木健さんの地に足のついた実践から生まれた言葉が示唆に富み、そしてこころに沁みたま

様ざまな団体や行政の方がみえてよかったと思う。

子どもの保護者としての参加でした。実際の支援現場と主催者周辺の人達との熱量と認識の違いに途方にくれま
す。我が子の時間は限られています。政治や仕組み、一般の意識を変えることが一人の親として可能なのでしょうか。

5. 「子どもの権利」を広く知ってもらうために、あなたは何かができますか？

子どもつながりの保護者、先生に伝える。
井戸端会議のように気軽に話せたらと思います。
一人ずつでも、身近な人から伝えていきたいです。
井戸端会議で話す！
プレーパークを作り広めて伝え続けたいと思います
まずは、授業でぼくが熱量をあげて、話す、体験させるですね
子どもを一人の人として対等に接すること。権利という言葉在前面にするのではなく、中身の部分を伝えていきたいと思いました。
子ども会議の実施。子どもの権利条約フォーラムの参加。学校への意見。市長への意見。
エンパワメントかながわの活動に参加する
地理的に川崎とは離れているので、ネットや自分の回りの地域で何が出来ることは無いかと考えてみたいです。
伝えていく。幼児サークルの世話人をしているので年に1回川崎市にはね・・・と2時間お話をしています。小学生になるとパンフレットをもらってきますが子どもを産む前から知っておいたほうがいいくらいだとおもっています。。
まわりにひろめる、そのために自分も学ぶ、地域を手放さないよう努める。
おとなの孤立、不安、弱さを受け止めてもらえる場所を増やす。おとなが子どもに向き合うことができる体力、余裕を持てるような社会作り
何が出来るかな。何もできないかもしれないけど。こどもの言葉をしっかり受け止める。おとなの考えの型にはめるのではなく。「それでOKだよ」と声をかけたい。
親同士の小さな繋がりがあるので、オンラインで集まって話すとき話題にすること。
講演の中でもあったように、「大人が幸せであること」というメッセージは、子どもに関心がない人でも心に響くように思います。ですが、こうした素晴らしい活動が認知されないのは無意識の無関心からくるものと思っています。それだけに限らず、一般的に、働き盛りの一番関心を持ってもらいたい保護者世代は、今生きることで精一杯だと思います。私は福祉の仕事に関わっていることや勉強していることもあり、関心があります。ですが、まだ不勉強であることもあり、こういった活動にボランティアで参加するなどの形でしかアクションを起こせません。今行っている唯一のことはチャイルドラインの活動です。1対1で子どもと向き合う難しさをとても感じています。何を求めて電話をしてきたのか、それを敏感に察知できればと思いながら活動させていただいています。子どもの側から「子どもの権利」を当たり前のように主張できるような働きかけや、今している勉強が今後子どもに役立てられるように努力していきたいと思います。
関心のない保護者が多すぎるので、保護者に知ってもらいやすい工夫も必要かと思いますが、主役である子供達にもっと触れやすい情報にしないと、学校の授業だけでは足りないように感じます。個人にできる範囲は限られているので、該当しそうな子がいたら、その子及び別の第三者へ話をするくらいしか思いつきません。
親同士の小さな繋がりがあるので、オンラインで集まって話すとき話題にすること。
レクチャー、えんたくんを活用としたワークショップ
広報活動や、CAPプログラムの提供ですかね
中々ワークショップに直ぐにはコロナ禍という事も有り参加は厳しいですが微力ながら私の出来る事を考えていきたいと思っています。
今日のイベントについて、まず発信したいと思います。ありがとうございました
認知度が低く驚きました。 子どもの通う学校では、毎年パンフレットを配布したり、授業などで取り扱っているようで、子どもたちが持って帰ります。自分が何ができるか、と言われると難しいですが、家庭内ではそういったパンフレットを持って帰ってきたときには、話すようにしています。また、子どもの権利条例の周知のためのイベント助成金も以前はやっていました。

主催：認定NPO法人エンバワメントかながわ
後援：川崎市教育委員会

いのち キャンペーン

2021
2月14日(日)14:00-16:00
◎川崎市教育文化センター ホールA (2001)

【本日の内容】

- ・開会
- ・映像「わすれたい」
- ・いのちキャンペーンの説明 (中学生向けバージョン)
- ・CAPプログラムの紹介
- ・トヨタ財団しるべる助成 調査報告
- ・パネルディスカッション
- ・閉会

「わすれたい」了野軒

「わすれたい」は、思春期の子どもたちが、自分たちの経験や思いを自由に表現し、仲間と共有できる場です。

いのちキャンペーンの説明

中学生暴力防止プロジェクト
川崎市教育委員会 大野晃志
2015年 2019年
2020年
2021年

「助けたい」
「言葉が通じない」
「いじめを止めてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」

なぜはじめたの？

2015年
2019年
2020年
2021年

「助けたい」
「言葉が通じない」
「いじめを止めてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」
「大人がもっと話を聞いてほしい」

CAPプログラムの紹介

川崎市教育委員会 大野晃志
2015年 2019年
2020年 2021年

「子ども同士のいざこざ」
「知らない人からの暴力」
「知っている人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」

川崎市 子どもの権利に関する条例

川崎市教育委員会 大野晃志
2015年 2019年
2020年 2021年

「子ども同士のいざこざ」
「知らない人からの暴力」
「知っている人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」

調査報告 トヨタ財団しるべる助成

川崎市教育委員会 大野晃志
2015年 2019年
2020年 2021年

「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」

Child Assault Prevention

川崎市教育委員会 大野晃志
2015年 2019年
2020年 2021年

「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」
「子どもの権利」

いのち キャンペーン

2021
2月14日(日)14:00-16:00
◎川崎市教育文化センター ホールA (2001)

「子ども同士のいざこざ」
「知らない人からの暴力」
「知っている人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」
「大人からの暴力」

本イベントはトヨタ財団しるべる助成「子どもの権利」かわわさきの未来プロジェクト」として開催します

いのちキャンペーン当日のグラフィックレコーディング1ページ目
「趣旨説明とCAPプログラムについて」

Graphic Recording by Goto Erika

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ
後援：川崎市教育委員会

いのち キャンペーン 2021
2月14日(日)14:00-16:00
◎川崎市教育文化会館から 本工了(200N)

外国に帰る子ども達への支援
川崎市文化会館 副館長 鈴木健二

川崎に住む
4万人以上の外国人
外国人の区 7%が外国人
外国人の多文化
外国人の多文化
外国人の多文化

川崎に帰る...
7歳の子供が...
地域でできることは?

外国人の多文化
外国人の多文化
外国人の多文化

外国人の多文化
外国人の多文化
外国人の多文化

少年事件から見たこと
神奈川県少年少女の会 会長 知藤士 国裕貴

18才、19才の少年の
厳罰化
神奈川
少年事件から見たこと
少年事件から見たこと

少年事件から見たこと
少年事件から見たこと
少年事件から見たこと

少年事件から見たこと
少年事件から見たこと
少年事件から見たこと

子どもの権利に関する
認定NPO法人エンパワメントかながわ 理事長 西野博之

子どもの権利に関する
子どもの権利に関する
子どもの権利に関する

子どもの権利に関する
子どもの権利に関する
子どもの権利に関する

子どもの権利に関する
子どもの権利に関する
子どもの権利に関する

本イベントは「30分間休む」の助成「子どもの権利」がゆきまの未来プロジェクト」として開催します

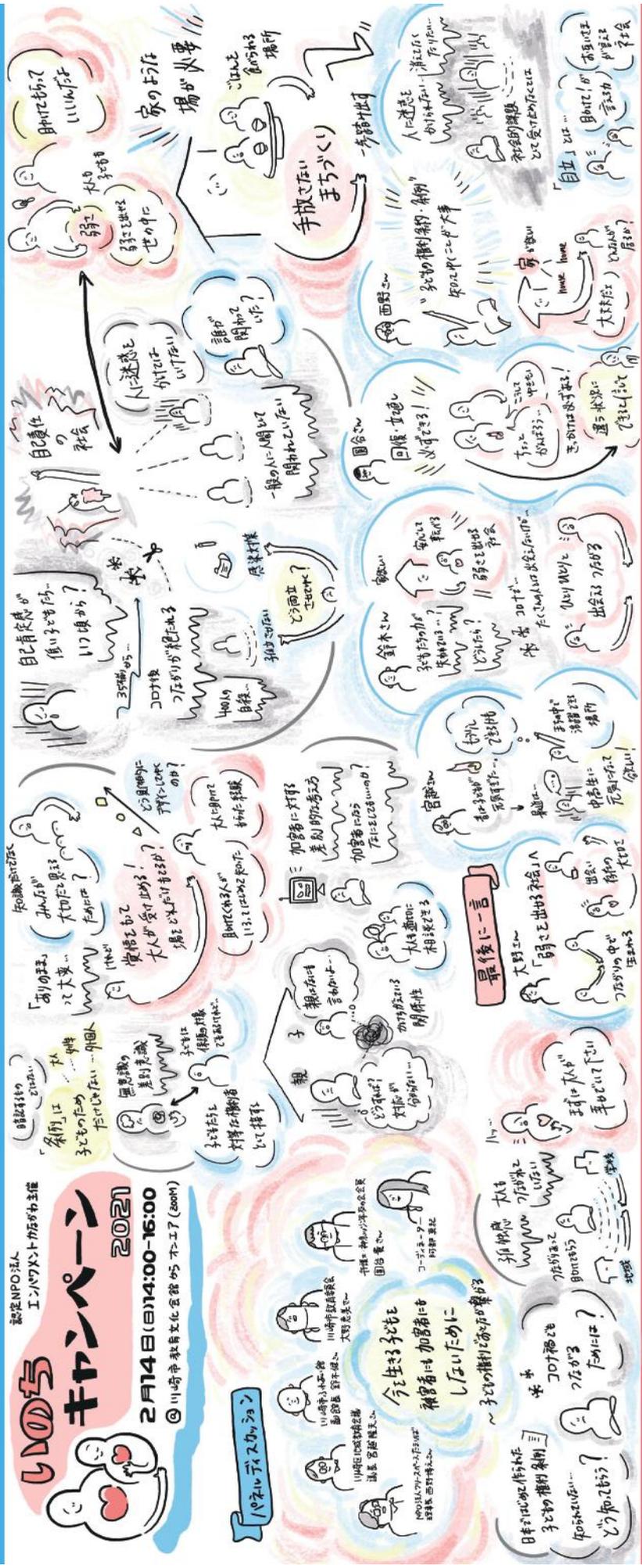
Graphix Recording by Goto Eriko

いのちキャンペーン当日のグラフィックレコーディング2ページ目
「パネリストの活動紹介」

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ
後援：川崎市教育委員会

いのち
キャンペーン
2021
2月14日(日)14:00-16:00
◎川崎市教育文化会館6F 不工了(609F)

3



本イベントはトヨタ財団しらすの助成「子どもの権利かわさきの未来プロジェクト」として開催します

Graphic Recording by Gabu Elica

いのちキャンペーン当日のグラフィックレコーディング3ページ目
「パネルディスカッション」

IV. まとめ

<調査結果より>

今回の調査結果を見るうえで、最も配慮すべきことは、サンプル数がとても少ないことです。

この結果から、川崎区あるいは川崎市全体の傾向を示しているとは決して断言できないということを念頭に置いてほしいと思います。

ただ、サンプル数が少ないとはいえ、これまでの17年間、9000回近くの暴力防止のためのワークショップを実施してきたエンパワメントかながわが、ワークショップの前後にこれだけ丁寧なアンケート調査を行ったのは初めてであり、貴重な結果を得られたと考えます。

正直、普段は、ワークショップの実施、つまり、プログラムを子どもやおとなに届けることだけに追われ、参加者の意見を真摯に見つめる時間がなかったことを反省しています。

同時に、今回の結果は、私たちCAPスペシャリストが日ごろから肌で感じている参加者の反応を初めて形にしたということで大変意義があると考えます。

事前と事後の比較はもちろん、保護者と教職員の2つのカテゴリについても比較ができました。保護者では、初めて参加する人がほとんどで、女性が大半を占めたのに比べ、教職員は、継続して参加している人がほとんどで、逆に男性が大半を占め、参加経験、性別割合が保護者と教職員で逆転していました。

結果としては、大きく次の2つのことが言えると考えます。

1. 「子どもの権利」「子どもへの暴力」「川崎市子どもの権利条例」のいずれも知られていないこと
2. CAP おとなワークショップの効果があること、同時に説明に工夫が必要であること

上記は、実はどちらも仮説通りです。

保護者と教職員の間には差があるものの、「子どもの権利」「子どもへの暴力」「川崎市子どもの権利条例」については、もっともっと多くのおとなが理解していけるよう働きかけたいと思います。

そして、CAP おとなワークショップについては、役員だから参加した保護者も、また研修が義務なので参加した教職員も、いずれも「子どものためだと思ったが自分のためになった」と答えました。

さらに、多くの人が、子どもへの暴力が身近にあること、しかし実は、子ども自身に身を守る力があることに気づきを得ています。

まさに、CAP おとなワークショップでは、子どもを暴力から守るために、まずはおとな自身が自分の権利を守っていくことを伝えていますが、それを受講前には理解されていないという課題が浮き彫りとなりました。

調査の前に行った CAP スペシャリスト同士での話し合いでも、自分たちが理解している CAP プログラムの意義を、CAP を受講したことのない人には理解されていないことがすでに気づかれています。

私たち CAP スペシャリストへの宿題は、痛いほど明らかです。

CAP を受けたことのないおとなに、CAP の内容をわかりやすく伝えることです。

「CAP (子どもへの暴力防止) おとなワークショップ」というタイトルでは、保護者や教職員に、自分が暴力をふるっていると責められるかもしれないというイメージさえ与えかねません。

身近には捉えられない暴力や権利という言葉を使わず、具体的な内容で説明する必要があります。

保護者、教職員どちらにも、実施前に、今回のワークショップでは何を期待しているのか？を聞き取るための丁寧なコミュニケーションが必要であることがわかりました。

私たち CAP スペシャリストは、「CAP は内容が決められている、それでも、CAP はいいものだ」という自己満足から脱する必要があるということです。

しかし、同時にジレンマがあります。

「子どもの権利」という言葉が当たり前の社会にしたい。

「暴力」は殴る・蹴るだけでは決してなく、常に私たちのすぐ身近にあることに気づいてほしい。

そのためには、暴力や権利という言葉を使っていきたいというジレンマです。

では、どうしたらいいのでしょうか？

私たちはまだまだ模索を続けていく必要があるということです。

次には、子どもへの権利教育の効果を実証したいと考えています。

<いのちキャンペーンから>

私たちが「子どもの権利が当たり前の社会」を目指し、「子どもの権利でおとなが繋がる」ために、「かわさき」をまず選んだことが正解であったことが、このイベントにより証明されたのではないかと思います。

この「かわさき」には、子どもたちのために、こんなにも精力的に活動するおとなたちがいることが、全国の参加者にも伝わりました。

そのパネリストたちが口々に語ったのは、6年前の事件の衝撃であり、今もなお、それぞれが事件を抱え続けていたことです。

「わすれない」というテーマ曲のタイトルの通り、私たちはこの事件を決して風化せず問い続けていかねばならないと思います。

私たちが確認したことは、子どもたちの SOS に気づき、行動できるおとなを地域に増やしていくこと。
目をそむけず、向き合うこと。そのためには、おとながつながること。

権利という言葉は、日本人にとって耳慣れない言葉ですが、
子どもの権利を守ることは、おとなの権利を守ることにつながること。
おとなが自分の権利を守れてはじめて、子どもの権利を守ることができる。

子どもたちに、「困っていたら、助けてもらっていいんだよ」と伝えるために、
おとな自身にまず「助けてもらっていい」と伝えることから始めましょう。
それが、子どもの権利のためにおとながつながること。

そのために、
プロジェクトは、始まったばかりです。

2021年3月
認定 NPO 法人エンパワメントかながわ
理事長 阿部真紀

(3) あなたがこれまで CAP おとなワークショップに参加しなかった理由を教えてください。
(一番近いもの一つだけチェックしてください。)

- CAP おとなワークショップのことを知らなかった
- CAP おとなワークショップのことは知っていたが、自分とは関係ないと思った
- CAP おとなワークショップのことは知っていたが、自分が責められるかもしれないと思った
- CAP おとなワークショップのことは知っていたが、1人では参加しにくいと思った
- CAP おとなワークショップのことは知っていたが、参加体験型はいやだと思った
- 参加したいと思ったが、仕事があって参加できなかった
- 参加したいと思ったが、家のことがあって参加できなかった
- 参加したいと思ったが、日本語がわからないから参加できなかった
- 以前に参加したことがあって、もう必要がないと思った
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) あなたが今回、CAP おとなワークショップに参加した理由を教えてください。
(一番近いもの一つだけチェックしてください。)

- 役員として参加するように言われたから
- 知り合いの保護者に薦められたから
- 学校の先生に薦められたから
- 子どもの権利について学びたいと思ったから
- 子どもへの暴力について学びたいと思ったから
- 子どものことで困っていることがあるから
- 以前参加したことがあって、また聞きたいと思ったから
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) これから始まる CAP おとなワークショップであなたが知りたいことはどんなことですか？
(一番近いもの一つだけチェックしてください。)

- 子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあつたときに、保護者としてどうしたらよいか
- 子どもと自分との関係をよくするために、どうしたらよいか
- 子どもが友人関係を困っているのもので、保護者としてどうしたらよいか
- 子どもの権利を守るために、学校とどう連携したらよいか
- 子どもの権利を守るために、地域で何ができるか
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもの権利について

(1) 「子どもの権利」という言葉を知っていますか？

- 人に説明できるくらい知っている □内容については知っている □どちらでもない
- 言葉だけ知っていた □知らなかった □答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) 「子どもの権利」と聞いて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの方が理解してほしい
- 聞いたことはあるが、実際にはよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがガママになると思う
- 子どもの権利よりも、まず、おとなの権利を守らなければならないと思う
- 子どもの権利というより、子どもがきちんと仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守っていききたい
- 子どもの権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) 川崎市には、「川崎市子どもの権利に関する条例（子どもの権利条例）」が制定されているのを知っていましたか？

- 人に説明できるくらい知っている □内容については知っている □どちらでもない
- 言葉だけ知っていた □知らなかった □答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

4. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」と聞いて、あなたがイメージすることはどんなことですか？
(すべてチェックしてください)

- 虐待事件 □連れ去り □いじめによる自殺 □不審者情報 □体罰 □性暴力
- 親からの暴力 □どなり声 □仲間外れ □あだ名や無視
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、自分の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える □ときどき考える □どちらでもない □あまり考えない □まったく考えない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？ あてはまることすべてにチェックください。

- 知らない人からの暴力 □子ども同士の暴力 □家族からの暴力 □知っているおとなからの暴力
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) あなたの子どもが暴力の被害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください。(一番近いものから3つまでチェックしてください)

- 必ず一緒に行動している
- 必ず誰かと一緒に行動するように伝えている
- 子どもがひとりで行ける時は、行き先を尋ね、帰宅時間を固く約束させている
- 知らない人とは「話してはならない」と教えている
- 知らない人についていってはいけないと教えている
- 防犯ブザーを持たせている
- いやなことには、「いやだ」と言うように教えている
- 友達からいやなことをされたら、やり返すように教えている
- 困ったことがあれば、なんでも自分に話すように伝えている
- 困った時は、人に助けてもらっていいと伝えている
- その他 ()
- 特にないとしてもいいない 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、自分の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える ときどき考える どちらでもない あまり考えない まったく考えない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？あてはまることすべてにチェックください。

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らない人への暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) あなたの子どもが暴力の加害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください。(一番近いものから3つまでチェックしてください)

- 暴力はダメだと教えている
- 相手の気持ちを考えるように教えている
- いやなことがあったら、助けてもらっていいことを伝えている
- 特にないとしてもいいない 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

質問はここまでです。ご回答ありがとうございました。

1. CAPプログラムについて

- (1) CAP おとなワークショップを受けて、満足しましたか？
大変満足した 満足した どちらでもない あまり満足していない 満足していない
答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (2) CAP おとなワークショップを受けてみて、今のあなたの気持ちに近いものをすべて教えてください。
ほっとした 楽しかった 怖かった 思ったより短く感じた
早く終わってほしいと感じた 子どものためだと思ったが自分のためになつた
答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (3) CAP おとなワークショップであなたが学んだことはどんなことですか？
 (一番近いもの二つだけをチェックしてください。)
子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあつたときに、保護者としてどうしたらよいか
子どもと自分との関係をよくするために、どうしたらよいか
子どもが友人関係で困っているので、どうしたらよいか
子どもの権利を守るために、学校とどう連携したらよいか
子どもの権利を守るために、地域で何ができるか
その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (4) CAPプログラムについて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください。
子どもだけが参加すれば十分だと思ふ
もっと多くの保護者に受けてほしい
教職員や地域のおなどにも受けてほしい
特に必要ではない
その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (5) あなたは他にどんな人が、CAP おとなワークショップに参加したらいいと思いますか？
 (あてはまるものをすべてにチェックください)
自分のパートナー (夫か妻) 自分の親 (子どもの祖父母)
子どもと同じクラスの保護者 子どもと同じ学年の保護者 学校全体の保護者
子育てに悩んでいる保護者 子どもに不適切な養育をしている保護者
子どもの担任 子どもと同じ学年の担任全員 校長先生 学校の教職員全員
学校の外にいる地域のおとな その他 ()
必要ない 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (6) それほなぜですか？

アンケート調査ご協力のお願い (事後)

このアンケートは、CAPおとなプログラムの効果を測定し、プログラムへの参加促進の方
 法を明らかにするための調査です。プログラムの効果を測るために、講座実施後にも、アン
 ケートにご記入いただきます。所要時間は、各5分程度です。
 ご協力をお願いいたします。

このアンケートで答えていただいた回答は、調査の目的以外にはいっさい使用しません。
 このアンケートは無記名です。あなたの個人の情報ももれることはありません。
 アンケートにご協力いただけただけの場合でも、あなたに不利になることはありません。
 回答に良い・悪いはありませんし、答えたくない質問には答える必要はありません。
 途中で中止することもできます。

このアンケートに協力してもらえますか？ (どちらかに○をつけてください)

はい ・ いいえ

もし、途中で回答をやめなくなった場合には、「はい」に×をつけ、「いいえ」に○をしてください。

ご協力、どうぞよろしく願いたします。

調査実施団体: 認定NPO法人エンパワメントかながわ

<保護者向け> <事後> 保護者の定義 = 川崎市内の小中学生と暮らす保護者

(7) どうしたら、あなたやあなた以外の人がCAP おとなワークショップに参加しやすくなると思いますか？

- (あてはまるものすべてにチェックください)
- 開催の日程や時間帯を変更する (たとえば、どんな時か教えてください)
 - 開催時間を短くする
 - オンラインで開催する
 - 未就学児などの兄弟がいる家庭でも参加しやすいように、一時保育サービスを提供する
 - 近隣の学校で開催された場合にも参加も可能にする
 - 学校からのチラシではなく、メールやSNS で知らせる
 - 通訳を付ける、あるいは、資料を翻訳する
 - タイトルを変更する (たとえば、どんなタイトルが教えてください)
 - 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (8) あなたは今後も、CAP おとなワークショップに参加したいと思いますと思いませんか？
- 何度でも参加したい 内容が違えば参加したい どちらでもない 参加しない
 - 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(8) で、「内容が違えば参加したい」と答えた方へ、どんな内容があれば参加したいと思いますか？

- 子どもとのコミュニケーション
- 子どもとインターネット
- 子どもの気質と成長の関係の理解
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

2. 子どもの権利について

「子どもの権利」と聞いて、今のあなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの方が理解してほしい
- まだよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがワガママになると思う
- 子どもの権利よりも、まず、おとなの権利を守られていないと思う
- 子どもの権利というより、子どもがきちんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守っていききたい
- 子どもの権利が守られている地域は、子どもおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」について、今のあなたがイメージすることはどんなことですか？

- (すべてチェックしてください)
- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力
 - 親からの暴力 どなり声 仲間外れ あだ名や無視
 - 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、自分の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと思いますか？

- とても思う ある程度と思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？ (あてはまるものすべてをチェックしてください)

- 知らない人からの暴力 子ども同士の暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) あなたの子どもの暴力の被害者にならないために、あなたがこれから行おうと思うことがあれば、

3つまで選んで教えてください。

- 必ず一緒に行動する
- 必ず誰かと一緒に行動するように伝える
- 子どもがどりで出かける時は、行き先を尋ね、帰宅時間を固く約束させる
- 知らない人とは「話してはならない」と教える
- 知らない人に「ついていてはいけない」と教える
- 防犯ブザーを持たせる
- いやなことには、「いやだ」と言うように教える
- 友達からいやなことをされたら、やり返すように教える
- 困ったことがあれば、なんでも自分に話すように伝える
- 困った時は、人に助けを求めていいと伝える
- その他 ()
- 時になにもしない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、自分の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと思いますか？

- とても思う ある程度と思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？ (あてはまるものすべてをチェックしてください)

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らない人への暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) あなたの子どもの暴力の加害者にならないために、あなたがこれから行おうことがあれば、

3つまで選んで教えてください。

- 暴力はダメだと教える
- 相手の気持ちを考えるように教える
- いやなことがあったら、助けを求めらうことを伝える
- 困ったことがあれば、いつでも話していいと伝える
- その他
- 時になにもしない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

4. CAPプログラムについて、要望があればどんなことでもお書きください。

[]

質問はここまでです。ご回答ありがとうございました。

アンケート調査ご協力をお願い（事前）

このアンケートは、CAPおとなプログラムの効果測定し、プログラムへの参加促進の方法を明らかにするための調査です。プログラムの効果を知るために、講座の実施前と実施後にアンケートにご記入いただけます。所要時間は、各5分程度です。ご協力をお願いいたします。

このアンケートで答えていただいた回答は、調査の目的以外にはいっさい使用しません。このアンケートは無記名です。あなた個人の情報がもれることはありません。アンケートにご協力いただけない場合でも、あなたに不利になることはありません。回答に良い・悪いはありませんし、答えたくない質問には答える必要はありません。途中で中止することもできます。

このアンケートに協力してもらえますか？（どちらかに○をつけてください）

はい

・

いいえ

もし、途中で回答をやめなくなった場合には、「はい」に×をつけ、「いいえ」に○をしてください。

ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

調査実施団体：認定NPO法人エンパワメントかながわ

〈教職員〉〈事前〉 教職員の定義＝川崎市の小中学校に勤務する人

1. あなたについて教えてください。

(1) あなたの勤務校はどこですか？

- 川崎市川崎区 川崎市内田川崎区ではない（よろしければ教えてください） 川崎市外 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたの性別を教えてください。

- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) あなたは、学校の中でどのような立場ですか？

- 管理職 学年主任 クラス担任 養護教諭 給食（栄養士等） 事務等 その他（ ） 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) 教職員としての勤務年数を教えてください。

- 1年未満 1年以上～5年未満 5年以上10年未満 10年以上20年未満 20年以上30年未満 30年以上 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) 今の学校は、教職員として何校めですか？

- 初任校 2校目 3校目以上 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

2. CAP（キャップ）プログラムについて

(1) CAP おとなワークショップに参加するのは初めてですか？

- はじめて 2回目 3回目以上 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) CAP プログラムについて、いつから知っていましたか？

- 10年以上前から知っていた 5年以上前から知っていた 1年以上前から知っていた 1年以内（最近）知った 今回の参加で初めて知った 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) これから始まるCAP おとなワークショップであなたが知りたいことはどんなことですか？

（一番近いもの一つだけチェックしてください。）

- 子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、教職員としてどうしたらよいか
子どもと自分の関係をよくなるために、どうしたらよいか
クラス内の子どもが友人関係で困っているため、どうしたらよいか
人間関係で課題のある子どもへの対応
子どもが保護者から虐待を受けていたら、どうしたらよいか
保護者との対応をどうしたらよいか
子どもが、自分の権利を守るために教職員としてどうしたらよいか
不審者から身を守るために、子どもにでもできる護身法
子どもが困った時、相談してくれる教職員になるためにどうしたらよいか
子どもの権利を守るために、保護者どう連携したらよいか
子どもの権利を守るために、教職員はどう連携したらよいか
子どもの権利を守るために、地域のおとなどう連携したらよいか
その他（ ） 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもの権利について

(1) 「子どもの権利」という言葉を知っていますか？

- 人に説明できるくらい知っている 内容についてほぼ知っている どちらでもない
- 言葉だけ知っていた 知らなかった 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) 「子どもの権利」と聞いて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの方が理解してほしい
- 聞いたことはあるが、実際にはよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがワガママになると思う
- 子どもの権利よりも、まず、おとなの権利を守らなければならないと思う
- 子どもの権利というより、子どもがきちんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守っていききたい
- 子どもの権利が守られている地域は、子どもおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) 川崎市には、「川崎市子どもの権利に関する条例（子どもの権利条例）」が制定されているのを知っていましたか？

- 人に説明できるくらい知っている 内容についてほぼ知っている どちらでもない
- 言葉だけ知っていた 知らなかった 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

4. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」と聞いて、あなたがイメージすることはどんなことですか？（すべてチェックしてください）

- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力
- 親からの暴力 どなり声 仲間外れ あだ名や無視
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、校内の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える ときどき考える どちらでもない あまり考えない まったく考えない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？あてはまることすべてにチェックください。

- 知らない人からの暴力 子ども同士の暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) 校内の子どもが暴力の被害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください。（一番近いものから3つまでチェックしてください）

- 出かける時は、必ず誰かと一緒に行動するように伝えている
- 知らない人とは「話してはならない」と教えている
- 知らない人から「ついてはいけない」と教えている
- 積極的に学校の周りを見回るようにしている
- いやなことには、「いやだ」と言うように教えている
- いじめの対象にならないようふるまい方を教えている
- 相手の気持ちを考えるよう伝えている
- 困ったことがあれば、なんでも自分に話すように伝えている
- 困った時は、人に助けをもらっていいと伝えている
- 一人ひとりの子どもの様子を毎日観察している
- 様子がおかしいければ、積極的に声をかけている
- 一人ひとりの子どもの話を聴くよう心掛けている
- その他 ()
- 特になし 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、校内の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える ときどき考える どちらでもない あまり考えない まったく考えない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？あてはまることすべてにチェックください。

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らない人への暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) 校内の子どもが暴力の加害者にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば教えてください。（一番近いものから3つまでチェックしてください）

- 暴力はダメだと教える
- 相手の気持ちを考えるように教える
- いやなことがあったら、助けてもらっていいことを伝える
- 困ったことがあれば、いつでも話していいと伝える
- 一人ひとりの子どもの様子を毎日観察している
- 様子がおかしいければ、積極的に声をかけるようにしている
- 一人ひとりの子どもの話を聴くよう心掛けている
- その他 ()
- 特になし 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

質問はここまでです。ご回答ありがとうございました。

1. CAP プログラムについて

- (1) CAP おとなワークショップを受け、満足しましたか？
 大変満足した 満足した どちらでもない あまり満足していない 満足していない
 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (2) CAP おとなワークショップを受け、今のあなたの気持ちに近いものをすべて教えてください。
 楽しかった 怖かった
 思ったより短く感じた 早く終わってほしいと思った
 子どものためだと思ったが自分のためになった その他 ()
 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (3) CAP おとなワークショップであなただけが学んだことはどんなことですか？
 (一番近いもの一つだけチェックしてください。)
 子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、教職員としてどうしたらよいか
 子どもと自分の関係をよくするために、どうしたらよいか
 クラス内の子どもが友人関係で困っているのを、どうしたらよいか
 人間関係に課題のある子どもへの対応
 子どもが保護者から虐待を受けていたら、どうしたらよいか
 保護者との対応をどうしたらよいか
 子どもが、自分の権利を守るために教職員としてどうしたらよいか
 不審者から身を守るために、子どもにもできる護身法
 子どもが困った時、相談してくれる教職員になるためにどうしたらよいか
 子どもの権利を守るために、保護者とどう連携したらよいか
 子どもの権利を守るために、教職員はどう連携したらよいか
 子どもの権利を守るために、地域のおとなとどう連携したらよいか
 その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (4) あなたは今後も、CAP おとなワークショップに参加したいと思いませんか？
 何度でも参加したい 内容が違えば参加したい どちらでもない 参加しない
 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (5) どんな内容があれば参加したいと思いますか？ (あてはまるものすべてにチェックください)
 保護者への対応 加害/児童への対応 児童虐待の対応
 障がいのある子どもへの対応 具体的な事例を用いた対応
 その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない
- (6) あなたは他にもどんな人が、CAP おとなワークショップに参加したいと思いますか？
 (あてはまるものすべてにチェックください)
 学校の保護者 子育てに悩んでいる保護者 子どもに不適切な養育をしている保護者
 学校の教職員全員 学校の外にいる地域のおとな (特にどんな人ですか？)
 必要ない その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

アンケート調査ご協力のお願い (事後)

このアンケートは、CAP おとなプログラムの効果を測定し、プログラムへの参加促進の方法を明らかにするための調査です。プログラムの効果を測るために、講座実施後にも、アンケートにご記入いただけます。所要時間は、各 5 分程度です。ご協力をお願いいたします。

このアンケートで答えていただいた回答は、調査の目的以外にはいっさい使用しません。このアンケートは無記名です。あなたの個人の情報も漏れることはありません。アンケートにご協力いただけない場合でも、あなたに不利になることはありません。回答に良い・悪いはありませんし、答えたくない質問には答える必要はありません。途中で中止することもできます。

このアンケートに協力してもらえますか？ (どちらかに○をつけてください)

はい . いいえ

もし、途中で回答をやめたくなった場合には、「はい」に×をつけ、「いいえ」に○をしてください。

ご協力、どうぞよろしく願っています。

調査実施団体: 認定 NPO 法人エンパワメントかながわ

<教職員> <事後>

(7) あなたはこれまで、自分が担任するクラスで CAP 子どもワークショップに一緒に参加したことが
ありますか？

ない 1 回だけ 2 回以上ある 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) で、ある人のみ、お答えください。

(8) 子どもたちが CAP ワークショップを受講した後、どんな変化がありましたか？

(あてはまることすべてにチェックください。)

- 安心・自信・自由がクラスの中のキーワードになった
- 子どもが困っていることを自分やお友達と相談するようになった
- いじめが減った
- クラス内のトラブルが減った
- 子どもが権利を主張して困るようになった
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(9) 教職員が CAP おとなワークショップに参加する意義はどんなことだと思いますか？

(あてはまることすべてにチェックください。)

- 子どもに実施するプログラムをあらかじめ理解しておく
- 子どもへの権利について理解を深める
- 子どもが相談してきた際の対応を学べる
- 教職員である自分自身の権利を守るためにできることを学べる
- 子どもと教職員が対等な関係であることを学べる
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

2. 子どもの権利について

「子どもの権利」と聞いて、今のあなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの人が理解してほしい
- まだよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがガママになると思う
- 子どもに権利よりも、まず、おとなの権利を守らなければならないと思う
- 子どもの権利というより、子どもがちゃんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共同で守ってほしい
- 子どもの権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」について、今のあなたがイメージすることはどんなことですか？

- (あてはまることすべてにチェックしてください)
- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力 親からの暴力 となり声 仲間外れ あだ名や無視 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、校内の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと思いませんか？

- とても思う ある程度思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？ (あてはまることすべてにチェックください。)

- 知らない人からの暴力 子ども同士の暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) 校内の子どもが暴力の被害者にならないために、あなたがこれから行おうと思うことがあれば
教えてください。(一番近いものから3つまでチェックしてください)

- 出かける時は、必ず誰かと一緒に行動するように伝える
- 知らない人とは「話してはならないと教える
- 積極的に学校の周りを見回るように教える
- いやなことには、「いやだ」と言うように教える
- いじめの対象にならないよう、相手の気持ちを考えるように伝える
- 困ったことがあるら、なんでも自分から話そうように伝える
- 困った時は、誰でもいから助けってもらおうように伝える
- 一人ひとりの子どもの様子を毎日観察する
- 様子がおかしいければ、積極的に声をかけるようにする
- 一人ひとりの子どもの話を聴くよう心掛ける
- 時にたまにしない
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、校内の子どもが「暴力の加害者」になるかもしれないと思いませんか？

- とても思う ある程度思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？ (あてはまることすべてにチェックください。)

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らないおとなへの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) 校内の子どもが暴力の被害者にならないために、あなたがこれから行おうと思うことがあれば
教えてください。(一番近いものから3つまでチェックしてください)

- 暴力はダメだと教える
- 相手の気持ちを考えるように教える
- いやなことがあったら、助けてもらうように教える
- 困ったことがあるら、いつでも話していいと伝える
- 一人ひとりの子どもの様子を毎日観察する
- 様子がおかしいければ、積極的に声をかけるようにする
- 一人ひとりの子どもの話を聴くよう心掛ける
- その他 () 特にない・私はこの質問にあてはまらない

4. CAP プログラムについて、要望があればどんなことでもお書きください。

質問はここまでです。ご回答ありがとうございました。

(7) あなたはこれまで、自分が担任するクラスで CAP 子どもワークショップに一緒に参加したことが
ありますか？

ない 1 回だけ 2 回以上ある 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) で、ある人のみ、お答えください。

(8) 子どもたちが CAP ワークショップを受講した後、どんな変化がありましたか？

(あてはまることすべてにチェックください。)

- 安心・自信・自由がクラスの中のキーワードになった
- 子どもが困っていることを自分やお友達と相談するようになった
- いじめが減った
- クラス内のトラブルが減った
- 子どもが権利を主張して困るようになった
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(9) 教職員が CAP おとなワークショップに参加する意義はどんなことだと思いますか？

(あてはまることすべてにチェックください。)

- 子どもに実施するプログラムをあらかじめ理解しておく
- 子どもへの権利について理解を深める
- 子どもが相談してきた際の対応を学べる
- 教職員である自分自身の権利を守るためにできることを学べる
- 子どもと教職員が対等な関係であることを学べる
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

2. 子どもの権利について

「子どもの権利」と聞いて、今のあなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの人が理解してほしい
- まだよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがガママになると思う
- 子どもに権利よりも、まず、おとなの権利を守らなければならないと思う
- 子どもの権利というより、子どもがちゃんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共同で守ってほしい
- 子どもの権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」について、今のあなたがイメージすることはどんなことですか？

- (あてはまることすべてにチェックしてください)
- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力 親からの暴力 となり声 仲間外れ あだ名や無視 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、校内の子どもが「暴力の被害者」になるかもしれないと思いませんか？

- とても思う ある程度思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？ (あてはまることすべてにチェックください。)

- 知らない人からの暴力 子ども同士の暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) あなたがこれまで CAP おとなワークショップに参加しなかった理由を教えてください。

- (一番近いものをついでチェックしてください。)
- CAP おとなワークショップのことを知らなかった
 - CAP おとなワークショップのことは知っていたが、自分とは関係ないと思った
 - CAP おとなワークショップのことは知っていたが、自分が言われるかもしれないと思った
 - CAP おとなワークショップのことは知っていたが、1人では参加しにくいと思った
 - CAP おとなワークショップのことは知っていたが、参加体験型はいやだと思った
 - 参加したいと思ったが、仕事があって参加できなかった
 - 参加したいと思ったが、家事や他の子どもの世話があって参加できなかった
 - 参加したいと思ったが、日本語がわからないから参加できなかった
 - 参加したことがあったので、もう必要ないと思った
 - その他 () 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(4) これから始まる CAP おとなワークショップであなたが知りたいことはどんなことですか？

- (一番近いものをついでチェックしてください。)
- 子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、地域のおとなとしてどうしたらよいか
 - 地域の子どもの自分との関係をよくするために、どうしたらよいか
 - 地域の子どもの友人関係で困っているの、どうしたらよいか
 - 地域に気になる子どもがいるので、どうしたらよいか
 - 子どもが、権利を守るために地域のおとなとしてどうしたらよいか
 - 不審者から身を守るために、子どもにもできる護身法
 - 子どもが困った時、相談してくれるようになるために地域のおとなとしてどうしたらよいか
 - 子どもの権利を守るために、学校でどう連携したらよいか
 - 子どもの権利を守るために、現在している地域の活動の中で何ができるか
 - 子どもの権利を守るために、地域の中でどんな連携ができるか
 - その他 () 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもの権利について

- (1) 「子どもの権利」という言葉を知っていますか？
- 人に説明できるくらい知っている 内容についてほぼ知っている どちらでもない
 - 言葉だけ知っていた 知らなかった 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない
- (2) 「子どもの権利」と聞いて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください。
- とても大切なことと思うので、もっと多くの人が理解してほしい
 - 聞いたことはあるが、実際にはよく理解していない
 - 子どもに権利を教えると、子どもがワガママになると思う
 - 子どもの権利は、まず、おとなの権利を守られていないと思う
 - 子どもの権利は、子どもがきちんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
 - 子どもの権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守ってほしい
 - 子どもの権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思う
 - その他 () 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(3) 川崎市には、「川崎市子どもの権利に関する条例(子どもの権利条例)」が制定されているのを知っていましたか？

- 人に説明できるくらい知っている 内容についてほぼ知っている どちらでもない
- 言葉だけ知っていた 知らなかった 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

4. 子どもへの暴力について
(1) 「子どもへの暴力」と聞いて、あなたがイメージすることはどんなことですか？

- (すべてチェックしてください)
- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力
 - 親からの暴力 どなり声 仲間外れ あだ名や無視
 - 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、地域の子どもの「暴力の被害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える ときどき考える どちらでもない あまり考えない まったく考えない
- 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？あてはまることすべてにチェックください。

- 知らない人からの暴力 子ども同士からの暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(4) 地域の子どもの「暴力の被害者」にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば、すべて教えてください。

- バトルや見回り
- 子どもへの声掛け(挨拶など)
- 地域での活動 () その他 ()
- 特になにもしていない 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、地域の子どもの「暴力の加害者」になるかもしれないと考えたことはありますか？

- よく考える ときどき考える どちらでもない あまり考えない まったく考えない
- 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？あてはまることすべてにチェックください。

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らない人への暴力
- その他 () 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

(7) 地域の子どもの「暴力の加害者」にならないために、あなたが日ごろから行っていることがあれば、すべて教えてください。

- 暴力はダメだと教えている
- 相手の気持ちを考えるように教えている
- いやなことがあったら、助けをもらっていいことを伝えている
- 地域での活動 () その他 ()
- 特になにもしていない 答えたくない、私はこの質問にあてはまらない

質問はここまでです。ご回答ありがとうございます。

1. CAP プログラムについて

(1) CAP おとなワークショップを受けて、満足しましたか？

- 大変満足した 満足した どちらでもない あまり満足していない 満足していない
- 答えたくない・私はこの質問に答えてはならない

(2) CAP おとなワークショップを受けてみて、今のあなたの気持ちに一番近いものをすべて教えてください。

- ほっとした 楽しかった 怖かった
- 思ったより短く感じた 早く終わってほしいと思った
- 子どものためだと思ったが自分のためになった その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問に答えてはならない

(3) CAP おとなワークショップであなたが学んだことはどんなことですか？

(一番近いもの一つだけをチェックしてください。)

- 子どもが暴力にあわないために、あるいは子どもが暴力にあったときに、地域のおとなとしてどうしたらよいか
- 地域の子とも自分との関係をよくするために、どうしたらよいか
- 地域の子ともが友人関係で困っているため、どうしたらよいか
- 地域に気になる子どもがいるので、どうしたらよいか
- 子どもが、権利を守るために地域のおとなとしてどうしたらよいか
- 不審者から身を守るために、子どもにでもできる護身法
- 子どもが困った時、相談してくれるようになるために地域のおとなとしてどうしたらよいか
- 子どもの権利を守るために、学校どう連携したらよいか
- 子どもの権利を守るために、現在している地域の活動の中で何ができるか
- 子どもの権利を守るために、地域の中でどんな連携ができるか
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問に答えてはならない

(4) CAP プログラムについて、あなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- 保護者や教職員だけでなく、もっとたくさん地域のおとなに受けてほしい
- 子どもだけが参加すれば十分だと思ふ
- 子どもと保護者だけが参加すれば十分だと思ふ
- もっとたくさん保護者に受けてほしい
- もっとたくさん教職員に受けてほしい
- もっと早く知りたかった
- 特に必要ではない
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問に答えてはならない

アンケート調査ご協力をお願い (事後)

このアンケートは、CAP おとなプログラムの効果を測定し、プログラムへの参加促進の方法を明らかにするための調査です。プログラムの効果を測るために、講座実施後にも、アンケートにご記入いただけます。所要時間は、各5分程度です。ご協力をお願いいたします。

このアンケートで答えていただいた回答は、調査の目的以外にはいっさい使用しません。このアンケートは無記名です。あなたの個人の情報もれれることはありません。アンケートにご協力いただけない場合でも、あなたに不利になることはありません。回答に良い・悪いはありませんし、答えたくない質問には答える必要はありません。途中で中止することもできます。

このアンケートに協力してもらえますか？ (どちらかに○をつけてください)

はい ・ いいえ

もし、途中で回答をやめなくなった場合は、「はい」に×をつけ、「いいえ」に○をしてください。

ご協力、どうぞよろしくお願いたします。

調査実施団体: 認定NPO法人エンパワメントかながわ

<地域のおとな向け> <事後>

2. 子どもの権利について

「子どもの権利」と聞いて、今のあなたの意見に近いものをすべて教えてください。

- とても大切だと思うので、もっとたくさんの方が理解してほしい
- まだよく理解していない
- 子どもに権利を教えると、子どもがガマガマになると思う
- 子どもに権利はありますが、おとなの権利を守られていないと思う
- 子どもは権利というより、子どもがちゃんとした仕事に就いて社会の中で自立できることが大事だ
- 子どもは権利を親だけでなく、学校の先生や地域のおとなと共に守ってほしい
- 子どもは権利が守られている地域は、子どももおとなも安心して暮らせる地域だと思う
- その他 ()
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

3. 子どもへの暴力について

(1) 「子どもへの暴力」と聞いて、あなたがイメージすることはどんなことですか？

- (すべてチェックしてください)
- 虐待事件 連れ去り いじめによる自殺 不審者情報 体罰 性暴力
- 親からの暴力 どなり声 仲間外れ あだ名や無視
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(2) あなたは、地域の子どもの暴力の被害者になるかもしれないと思いましたが？

- とても思う ある程度思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(3) それは誰からの暴力ですか？あてはまることをすべてにチェックください。

- 知らない人からの暴力 子ども同士の暴力 家族からの暴力 知っているおとなからの暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(4) 地域の子どもの暴力の被害者にならないために、あなたがこれから行おうと思うことがあればすべて教えてください。

- バトルや見回り
- 子どもへの声掛け (挨拶など)
- 困ったことがあれば、なんでも自分に話そうと伝える
- 困った時は、誰でもいいから助けを求めようとして伝える
- 地域での活動 ()
- その他 ()
- 特にない・私はこの質問にあてはまらない

(5) あなたは、地域の子どもの暴力の被害者になるかもしれないと思いましたが？

- とても思う ある程度思う どちらでもない あまり思わない まったく思わない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(6) それは誰への暴力ですか？あてはまることをすべてにチェックください。

- 子ども同士の暴力 家族への暴力 知っているおとなへの暴力 知らない人への暴力
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(7) 地域の子どもの暴力の被害者にならないために、あなたがこれから行おうと思うことがあれば、すべて教えてください。

- 暴力はダメだと教える
- 相手の気持ちを考えて教える
- いやなことがあったら、助けてもらっていいことを伝える
- 困ったことがあれば、いつでも話していいと伝える
- 特にない・私はこの質問にあてはまらない
- その他 ()
- 特にない・私はこの質問にあてはまらない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(8) あなたは今後も、C A P おとなワークショップに参加したいと思いますか？

- 何度でも参加したい 内容が違えば参加したい 参加しない
- 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(9) どんな内容があれば参加したいと思いますか？ 具体的にお書きください。

(10) あなたは他にもどんな人が、C A P おとなワークショップに参加したらいいと思いますか？

- (あてはまるものをすべてにチェックください)
- 自分のパートナー (夫か妻) 自分の親 (子どもの祖父母)
- 学校の保護者 子育てに悩んでいる保護者 子どもに不適切な養育をしている保護者
- 学校の教職員全員 学校の外にいる地域のおとな (特にどんな人ですか？)
- 必要ない その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

(11) どうしたら、C A P おとなワークショップに参加しやすくなると思いますか？

- (あてはまるものをすべてにチェックください)
- 開催の日程や時間帯を変更する (たとえば、)
- 開催時間を短くする (たとえば、)
- オンラインで開催する
- 保育をする
- 近隣の学校で開催された場合にも参加も可能にする
- 学校からのチラシではなく、メールやSNSで知らせる
- 回覧板や地域の掲示板にポスターを貼る
- 通訳を付ける、あるいは、資料を翻訳する
- タイトルを変更する (たとえば→)
- その他 () 答えたくない・私はこの質問にあてはまらない

4. CAPプログラムについて、要望があればどんなことでもお書きください。

質問はここまでです。ご回答ありがとうございます。

子どもの権利deおとなが繋がる
「トヨタ財団しらべる助成 連続講座」



コロナの影響が長引く中、
子どももおとなも、不安やストレスを
抱えています。
不安やストレスを、いじめや暴力に変
えないために、一緒に考えませんか。

保護者や
地域のおとなの皆さん

公開



CAP (キャップ)とは…

Child Assault Prevention
(子どもへの暴力防止)

の頭文字をとった略称です。

子どもの権利を守るため、おとな自身も安心を

取り戻すために、

日ごろの不安やストレスを語り合しましょう。

保護者はもちろん、

子どもを取り巻くすべてのおとなの方が対象です。

このプロジェクトより、川崎市川崎区内で子
どもを取り巻くおとなの方を対象に無料で
CAPおとなワークショップを開催します。

(条件：2020年12月末までに実施すること)

CAPおとな向けワークショップ

11月19日(木) 午前9時半から11時半

会場：教育文化会館 5階視聴覚室 定員：30名



講座参加希望の方は
QRコードよりお申込みください。

お問い合わせ… 認定NPO法人エンパワメントかながわ まで

電話：045-323-1818

E-mail: kana9awa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

本連続講座は、トヨタ財団しらべる助成を活用して「子どもの権利×かわさきの未来プロジェクト」として実施します。

子どもの権利deおとなが繋がる
「トヨタ財団しらべる助成 連続講座」

子どもの権利条例がある川崎で、子どもの心を守る
ため、おとなの心も守る連続講座を企画しました。
参加費は無料です。ぜひご参加を！



親子で参加

すきっぷ(子どもの護身法) 公開講座

11月7日(土) 午後2時~午後4時

会場：教育文化会館 5階第6学習室 定員：親子15組

知らない人に声をかけられたら、どうしたらいい？

子どもだけでの行動が増える小学校1年生からできる護身法を伝えます。

知らない人からの声かけに対し、1人ずつ、離れて逃げる練習します。親子で参加しませんか。

申込みは
こちら

講座参加希望の方は
QRコードよりお申込みください。



お問い合わせは… 認定NPO法人エンパワメントかながわ まで

電話：045-323-1818

E-mail: kana9awa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp



本連続講座は、トヨタ財団しらべる助成を活用して「子どもの権利×かわさきの未来プロジェクト」として実施します。



子どもの権利deおとなが繋がる 「トヨタ財団しらべる助成 連続講座」

コロナの影響が長引く中、子どももおとなも、不安やストレスを抱えています。不安やストレスを、いじめや暴力に変えないために、一緒に考えませんか。子どもの権利条例がある川崎で、子どもの心を守るため、おとなの心も守る連続講座を企画しました。参加費は無料です。ぜひご参加を！

放課後支援員等子どもに関わるスタッフ向けオンライン研修 (ZOOM)

11月10日 (火) 午前10時から12時 定員なし

放課後支援員さんや子ども文化センターの職員など、コロナ禍でも日々子どもに関わるスタッフの皆さんを対象に、いじめや虐待など子どもを取り巻く暴力について学び、子どもとの関わり方を学ぶ研修を無料で提供します。*ZOOMについては裏面をご覧ください。

- 内容
- ・子どもを取り巻く暴力について
 - ・3つの理念(人権意識、エンパワメント、コミュニティ)
 - ・小学生向けCAPプログラム紹介
 - ・気になる子どもって? 子どものSOSに気づく
 - ・子どもの話を聴く
 - ・子どもの権利を守るためにおとな自身の権利を守る



親子で参加

すきっぷ (子どもの護身法) 公開講座

11月7日 (土) 午後2時から4時
会場: 教育文化会館 5階第6学習室
定員: 親子15組



知らない人に声をかけられたら、どうしたらいい? 子どもだけの行動が増える小学校1年生からできる護身法を伝えます。知らない人からの声かけに対する、1人ずつ、離れて逃げる練習します。親子で参加しませんか。

保護者や地域のおとなの皆さん

公開CAPおとな向けワークショップ

11月19日 (木) 午前9時半から11時半
会場: 教育文化会館 5階視聴覚室
定員: 30名



CAP (キヤップ) とはChild Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の頭文字をとった略称です。子どもの権利を守るため、おとな自身も安心を取り戻すために、日ごろの不安やストレスを語り合いたいよう。保護者はもちろん、子どもを取り巻くすべてのおとなの方が対象です。



講座参加希望の方は
こちらのQRコードよりお申込みください。

申込みはこちら

本連続講座は、トヨタ財団しらべる助成を活用して「子どもの権利xかわさきの未来プロジェクト」として実施します。

* 放課後支援員等子どもに関わるスタッフ向けオンライン研修 ZOOM設定について

Zoom事前準備

事前にZoom(ズーム)アカウントの登録とZoomアプリのインストール、環境のご確認をお願いします。

1. Zoomアカウント登録
ご登録はこちらから(ZOOMの公式サイト)
<https://zoom.us/signup>

2. アプリのダウンロード
スマートフォンで受講する場合、アプリが必要なので受講前にクリックしてアプリをインストールしておいてください。
パソコンの場合は、インターネットブラウザからも視聴できるので、アプリのダウンロードは必須ではありません。

アプリのダウンロードはこちら(ZOOMの公式サイト)
https://zoom.us/download#mobile_app

環境のご確認

ビデオ表示、音声通話に支障がないことを予めご確認をお願いします。
ビデオまたはオーディオのテスト(ZOOMの公式サイト) <http://bit.ly/2TfziOL>

☆川崎市内でCAPおとなワークショップ[※]無料で開催

本連続講座は、トヨタ財団しらべる助成を活用して「子どもの権利xかわさきの未来プロジェクト」として実施します。このプロジェクトより、川崎市川崎区内で子どもを取り巻くおとなの方を対象に無料でCAPおとなワークショップを開催します。(条件: 2020年12月末までに実施すること)

お問い合わせは… 認定NPO法人エンパワメントかながわ まで

電話: 045-323-1818

E-mail: kana9awa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

凍てつく多摩川の河川敷で起きた悲しい事件・・・あれから6年、
川崎は、社会は、子どもたちにやさしく変化したのだろうか？
今、コロナ禍の中、誰にも助けを求めることができずに
困っている子どもがどこかにいるかもしれない。

今こそ、おとなが「つながろう」

子どもを被害者にも加害者にもしないために、おとなができることを考えよう。

いのちキャンペーン2021

川崎からオンライン開催

2月14日(日)14:00-16:00 **参加費
無料**

川崎市川崎区を中心に、子どもたちのことを日々思い、活動する方々を招き、
子どもたちに、「私たちがここにいるよ、助けを求めているんだよ」というメッセージを発信します。
子どもたちへのメッセージも募集。Zoomにより全国どこからでもご参加いただけます。

いのちキャンペーン2021～川崎からオンライン開催要項

日時：2月14日(日)午後2時から4時 場所：川崎市教育文化会館からオンエア（ZOOM）
定員：100名（一般参加者はオンラインのみ） 参加費：無料

<当日の内容>

- ★映像 原点の多摩川の河川敷から、テーマ曲「わすれない」
- ★CAPプログラムの紹介
- ★調査報告 調査から見てきたこと「子どもの権利でおとなが繋がる」目を向けよう、身近にあること
- ★パネルディスカッション「今を生きる子どもたちを被害者にも加害者にもしないために」
～川崎市教育文化会館から～（ZOOMにて配信）

パネリスト：西野博之さん（NPO法人フリースペースたまりは理事長）
宮越隆夫さん（川崎区地域教育会議議長）
鈴木 健さん（川崎市ふれあい館 副館長）
大野恵美さん（川崎市教育委員会）
圓谷 貴さん（弁護士・神奈川少年友の会会員）

★まとめ



QRコードを読み込み、Peatixよりお申込みください。
当日のZoom IDを送ります。

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ

TEL: 045-323-1818 メール: info@npo-ek.org

後援：川崎市教育委員会

本イベントはトヨタ財団しらべる助成「子どもの権利×あかさきの未来プロジェクト」として開催します





知ってる? 「川崎市 子どもの権利条例」

川崎市には「子どもの権利条例」があることを知っていますか?

※条例は、各自治体が定める法令です。
正式には、「川崎市子どもの権利に関する条例」で、
2001年4月1日に施行され、ちょうど20年が経とうとしています。
国連「子どもの権利条約」をもとに、全国で初めて川崎の子どものために作られたのが「川崎市子どもの権利条例」です。
これを作る時には、おとなと子どもがみんなで話し合っ
てたくさんの子どもの意見が取り入れられました。

子どもは、
一人ひとり
みんな、大切な人間

「自分を大切にすま」
ということは、
他の人も大切にすまこと、
お互いを大切にすまということ

子どもの権利は、
一人ひとりが自分らしく
生きていくためになくては
ならないもの

学校で行われている「子どもの権利学習」
そのひとつとして川崎市内の小学校を中心に20年間
実施されてきたのが、
CAP(子どもへの暴力防止)プログラムです。



CAPとは…Child Assault Prevention
(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったもので、
あらゆる暴力から子ども自身が自分を守るために
何ができるかを考える人権教育プログラムです。

どんなことをするの?

だれもが「安心」「自信」「自由」の権利(基本的人権)
をもった大切な人であることを伝えます。その上で、子
どもの身近にある暴力(いじめ、誘拐、性暴力)をテーマに
取り上げながら、子どもたちが暴力にあわないためにでき
ることを具体的に考え、体験します。

おとなワークショップ
参加者の声:
☆「楽しかった」
☆「ほっとした」
☆「子どものためだど
思ったが自分のため
だった」

子どもを守るためにおとなができることを考える

子どもワークショップを行う際には必ず保護者と教職員対象の
「おとなワークショップ」の開催をお願いしています。
おとなワークショップでは、保護者や教職員、そして地域のお
となが、子どもの権利について学び、子どもの権利を守るため
におとなとしてできることを考えていきます。

川崎の子どもにとって大切な7つの権利

- 1 安心して生きる権利
- 2 ありのままの自分でいる権利
- 3 自分を守り、守られる権利
- 4 自分を豊かにし、カづけられる権利
- 5 自分で決める権利
- 6 参加する権利
- 7 個別の必要に応じて支援を受ける権利

子どもたちからおとなへの
メッセージ

「まず、おとなが幸せで
いてください。おとなが幸せ
じゃないのに子どもが幸せ
にはなれません」

(2001年子どもの権利条例子どもの
権利委員会)



CAPってなあに?

CAPワークショップについてのお問い合わせはこちらへ

認定NPO法人エンパワメントかながわ
TEL:045-323-1818 Email:info@npo-ek.org

子どもの権利 × かわさきの未来プロジェクト報告書

監修

棟居徳子（早稲田大学教授）

伊藤枝里子（NPO 法人ソーシャルバリュージャパン事務局長）

協力

後藤恵理香（ビジュアル・プラクティショナー）

発行日：2021 年 3 月

編集・発行：認定 NPO 法人エンパワメントかながわ

kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製複写（コピー）することは、著作権上で認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータや文章などを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、当団体へご連絡をお願いいたします。



トヨタ財団しらべる助成
「子どもの権利 × かわさきの未来プロジェクト」
によって作成されました